

米に関するマンスリーレポート

(平成30年11月号)

やっぱりごはんでしょ！



出展：JA全国女性組織協議会

「すぐ分かる米政策改革！」米政策の見直しについて解説する動画を公開しています！
http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_seisaku_kaikaku.html

【本資料の目的】

本レポートは、米に関する価格動向や需給動向に係るデータを集約・整理し、毎月定期的に公表することによって、需給動向を適切に反映した米取引に資することを目的としています。

【利用上の注意】

1. 本レポートは、原則として公表2営業日前までの公表資料を反映しています。
2. 本レポートは、今後、必要に応じて項目の追加・削除などの内容を変更することがあります。

農林水産省

今月の特集 ①

【消費拡大情報サイト

「やっぱりごはんでしょ！」を公開しました。】

新着情報	ごはん大盛り無料おかわり無料のお店	旅先グルメごはん	わたしたち日本ごはん党	日本のおむすび全部食べたい	米粉の用途別レシピ動画	おにぎりアクション	すくコム(菜ちん離乳食)	ごはんレシピ等	米粉メニュー等	ごはん健康	お米について学ぶ	お米は備蓄の柱です
------	-------------------	----------	-------------	---------------	-------------	-----------	--------------	---------	---------	-------	----------	-----------

やっぱりごはんでしょ！



農林水産省は10月26日(金)、米の消費拡大を目的に、お米に関する情報サイト「やっぱりごはんでしょ！」を公開しました。

本情報サイトでは、

- (1) 全国のごはん大盛り・おかわり無料のお店、旅先で味わえる現地ならではの“ごはん食”に関する情報
- (2) ごはん大盛り・おかわり無料キャンペーンなど米の消費拡大に取り組む企業等の企画に関する情報
- (3) お米、ごはんの栄養、健康面の良さが分かる情報やごはん・米粉のレシピ紹介など業界団体等が取り組んでいる米の消費拡大に関する情報

などを掲載し、日本人の主食であり、日々の食生活に欠かせないごはん食について、消費者にとって有益な情報を広く紹介し米の消費拡大に繋げてまいりたいと考えております。

米の消費拡大情報サイト「やっぱりごはんでしょ！」

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/gohan.html>

ぜひご覧ください！

やっぱりごはんでしょ！



大盛り・おかわり無料のお店

お米と健康

ごはん・米粉レシピ

詳しくは、[こちら](#)

今日からあなたも“ごはん通”



農林水産省

【お知らせ】

自社ホームページに「やっぱりごはんでしょ！」のリンクを貼りたい企業等がございましたら、以下のお問合せ先までご連絡ください。左記バナーをお送りいたします。

【お問合せ先】

政策統括官付穀物課米麦流通加工対策室

代表：03-3502-8111(内線4239)

ダイヤルイン：03-3502-7950

FAX番号：03-6744-2523

掲載されている内容

全国のごはん大盛り・おかわり無料のお店

旅先グルメごはん

農林水産省 ×  食べログ



農林水産省 ×  ぐるなび



農林水産省は、米の消費拡大に取り組む企業を応援します。



米の消費拡大に取り組んでいる企業の**応募フォーム**からのご応募をお待ちしております！

農林水産省は、米の消費拡大に取り組む企業を応援します。

その取組又はアイデアを農林水産省のWebサイト(当サイト)で紹介させていただきますので、ぜひご応募ください。

関連サイト

ごはんレシピ等

- ・日本の朝ごはんはやっぱり和食。簡単和朝食をつくろう。[和食文化推進協議会](#)
- ・働く女性を選んだ簡単レシピや幼児向けごはんレシピを紹介。[ヨメレシピ](#)
- ・妊婦さんが手軽にできるバランスのとれた1日のごはんレシピを紹介しします。離乳食レシピもあります。[妊婦さんのためのレシピ紹介](#)
- ・旬や話題の食材を使用したレシピや地方に伝わる郷土料理などを紹介。米粉レシピも豊富です。[農林水産省の公式キッチン\(クックパッド\)](#)
- ・決定「ごはん歳時記」日本のごはん料理12ヶ月。季節を感じるごはん料理などをご紹介。[お米を使った料理・朝ごはんネット](#)
- ・夏越しごはんのレシピや夏越ご飯が食べれるお店を紹介。[6月30日は夏越ごはん](#)

ごはん健康

- ・お米・ごはん食の栄養・健康面での良さなどをわかりやすく紹介。[お米と健康](#)
- ・あなたの食事だいじょうぶ？まずは押さえていただきたい「日本型食生活」のススメのポイントを紹介。[ごはんを中心とした日本型食生活のススメ](#)
- ・「ごはんをおいしく食べて正しいダイエットを」などお米・ごはんに関する情報満載。[ごはん彩々\(全米版\)](#)
- ・のぞましい食事量や食事バランスを簡単に知ることが出来る「3・1・2弁当箱法」を紹介。[3・1・2弁当箱法](#)
- ・幼児・小学生・中高校生別の「早寝早起き朝ごはんガイド」を掲載中。[早寝早起き朝ごはん全国協議会](#)

上記のほか、新着情報ではイベント情報の紹介や米粉メニューなど、お米、ごはんに関する情報が満載です。

今の特集 ②

平成30年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

（平成30年10月31日公表）

予想収穫量（主食用）は732万9,000tの見込み

調査結果の概要

- 1 平成30年産水稻の作付面積（子実用）は147万haで、うち主食用作付見込面積は138万6,000haが見込まれる。
- 2 全国の10a当たり予想収量は529kgとなり、前年産に比べ5kgの減少が見込まれる。
- 3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は778万2,000tで、うち主食用の予想収穫量は732万9,000tが見込まれる。
- 4 なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は99となる見込み。

平成30年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

全 国 農 業 地 域	作付面積（子実用）			10a当たり予想収量		予想収穫量（子実用）			参 考		
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産との比較 対 差	実 数 ③=①×②	前年産との比較		主食用作付 見込面積 ④	予想収穫量 （主食用） ⑤=④×②	作況指数
		対 差	対 比				対 差	対 比			
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t	
全 国	1,470,000	5,000	100	529	△ 5	7,782,000	△ 40,000	99	1,386,000	7,329,000	99
北 海 道	104,000	100	100	496	△ 64	515,800	△ 66,000	89	98,900	490,500	90
東 北	379,100	4,300	101	564	0	2,137,000	22,000	101	345,500	1,947,000	99
北 陸	205,600	1,500	101	533	4	1,096,000	17,000	102	184,800	985,300	98
関東・東山	270,300	1,800	101	539	6	1,457,000	26,000	102	259,300	1,398,000	100
東 海	93,400	1,000	101	495	△ 3	462,400	2,300	100	91,000	450,600	98
近 畿	103,100	△	100	502	△ 8	517,600	△ 9,000	98	99,500	498,800	99
中 国	103,700	△ 600	99	519	△ 11	538,700	△ 13,700	98	101,100	525,100	101
四 国	49,300	△ 600	99	474	△ 12	233,500	△ 8,900	96	49,000	232,100	98
九 州	160,400	△ 2,700	98	512	2	821,200	△ 10,700	99	156,100	800,000	102
沖 縄	716	△ 11	98	311	10	2,230	40	102	716	2,230	101

- 注：1 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 2 予想収穫量（子実用）及び予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
 3 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平均収量を用いた。
 4 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a当たり収量及び収穫量(子実用)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

ふるい目幅別重量分布状況の推移

単位：%

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
平成25年産	100.0	0.8	1.3	1.9	2.7	14.5	78.8
26	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	14.7	78.4
27	100.0	0.8	1.4	2.0	2.7	15.3	77.8
28	100.0	0.7	1.2	1.7	2.4	14.0	80.0
29	100.0	0.9	1.5	2.1	2.9	16.1	76.5
30(概数値)	100.0	0.9	1.6	2.3	3.3	17.5	74.4
平均 値	100.0	0.8	1.4	1.9	2.7	14.9	78.3
対平均差(ポイント)	0.0	0.1	0.2	0.4	0.6	2.6	△ 3.9

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる（以下同じ。）。

ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量(子実用)の推移

年 産		単位	ふるい目幅別重量割合					2.00mm 以 上
			1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	
平成25年産	10a 当たり収量	kg	539	535	528	517	503	425
	収穫量	t	8,603,000	8,534,000	8,422,000	8,259,000	8,027,000	6,779,000
26	10a 当たり収量	kg	536	532	524	513	499	420
	収穫量	t	8,435,000	8,368,000	8,249,000	8,081,000	7,853,000	6,613,000
27	10a 当たり収量	kg	531	527	519	509	494	413
	収穫量	t	7,986,000	7,922,000	7,810,000	7,651,000	7,435,000	6,213,000
28	10a 当たり収量	kg	544	540	534	524	511	435
	収穫量	t	8,042,000	7,986,000	7,889,000	7,752,000	7,559,000	6,434,000
29	10a 当たり収量	kg	534	529	521	510	494	409
	収穫量	t	7,822,000	7,752,000	7,634,000	7,470,000	7,243,000	5,984,000
30 (概数値)	10a 当たり収量	kg	529	524	516	504	486	394
	収穫量	t	7,782,000	7,712,000	7,587,000	7,408,000	7,152,000	5,790,000
	対前年比	%	99	99	99	99	99	97

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、全国の10a 当たり予想収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

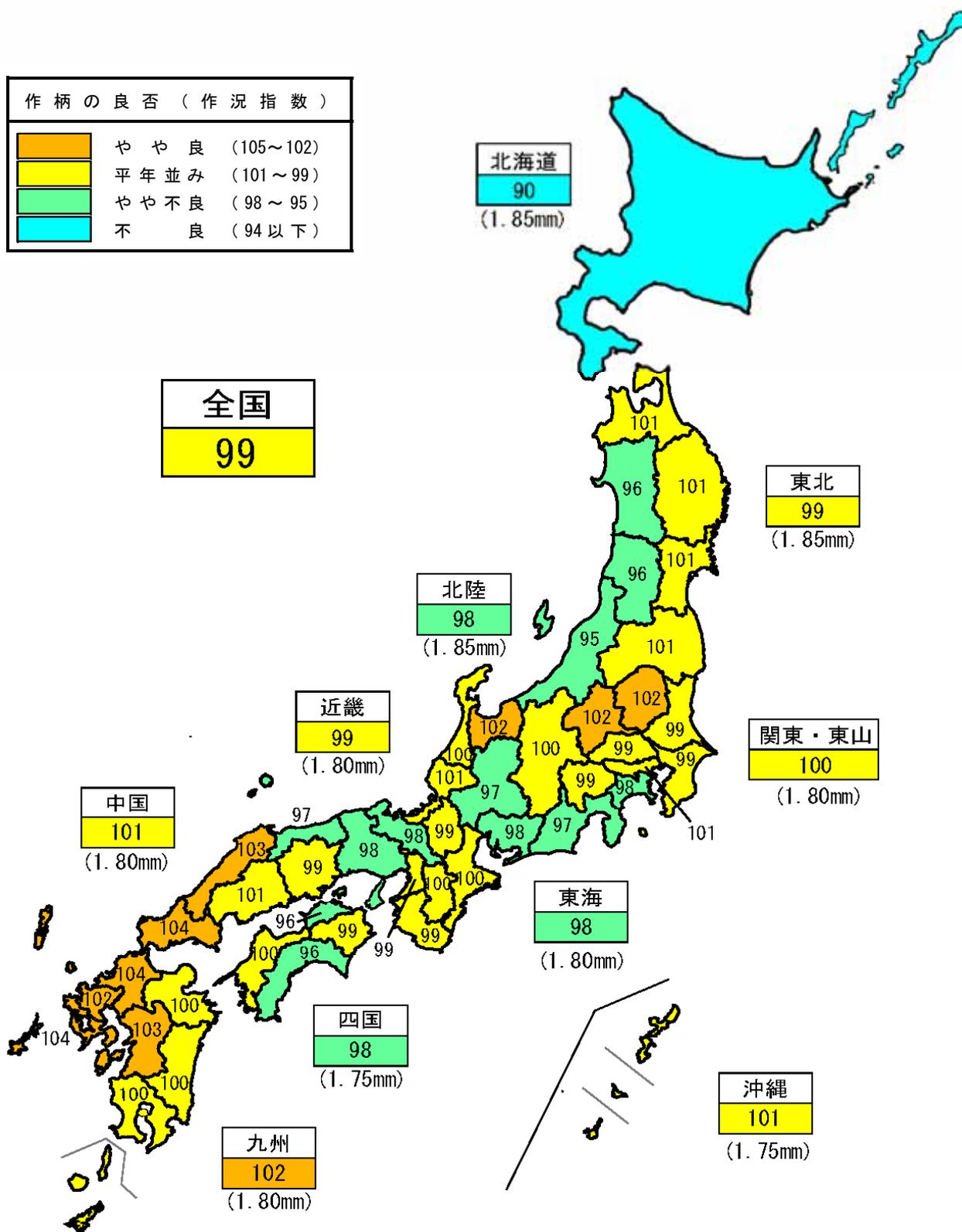
2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、全国の予想収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

「平成30年産水稲の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）」公表資料は下記アドレスにてご覧いただけます。
http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html#y4

全国農業地域・都道府県別作況指数（10月15日現在）

【農家等が使用しているふるい目幅ベース】

作柄の良否（作況指数）	
■	やや良（105～102）
■	平年並み（101～99）
■	やや不良（98～95）
■	不良（94以下）



注：1 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85 mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80 mm、四国及び沖縄は1.75 mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通期栽培を合算したものである。また、沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出には、第一期稲の10 a 当たり収量と第二期稲の10 a 当たり平年収量を用いた。

平成30年産水稻の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)

全 国 都道府県	作付面積 (子実用)			10 a 当たり 予想収量 ②	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅で選別		
	実 数 ①	前年産との比較			10 a 当たり 予想収量 ③	10 a 当たり 平年収量 ④	作況指数 ⑤ = ③ / ④
		対差	対比				
	ha	ha	%	kg	kg	kg	
全 国 (1)	1,470,000	5,000	100	529	512	519	99
北 海 道 (2)	104,000	100	100	496	481	532	90
青 森 (3)	44,200	800	102	596	577	573	101
岩 手 (4)	50,300	500	101	543	526	522	101
宮 城 (5)	67,400	1,100	102	551	527	520	101
秋 田 (6)	87,700	800	101	560	533	554	96
山 形 (7)	64,500	0	100	580	556	580	96
福 島 (8)	64,900	900	101	561	535	528	101
茨 城 (9)	68,400	300	100	524	508	515	99
栃 木 (10)	58,500	900	102	550	537	528	102
群 馬 (11)	15,600	100	101	506	489	479	102
埼 玉 (12)	31,900	300	101	487	471	476	99
千 葉 (13)	55,600	400	101	542	525	530	99
東 京 (14)	133	△ 8	94	417	410	404	101
神 奈 川 (15)	3,080	△ 10	100	492	470	479	98
新 潟 (16)	118,200	1,900	102	531	500	527	95
富 山 (17)	37,300	△ 300	99	552	535	527	102
石 川 (18)	25,100	△ 200	99	519	507	506	100
福 井 (19)	25,000	100	100	530	503	500	101
山 梨 (20)	4,900	△ 60	99	542	527	533	99
長 野 (21)	32,200	△ 100	100	618	607	607	100
岐 阜 (22)	22,500	600	103	478	465	478	97
静 岡 (23)	15,800	100	101	506	497	513	97
愛 知 (24)	27,600	100	100	499	490	499	98
三 重 (25)	27,500	100	100	499	489	489	100
滋 賀 (26)	31,700	0	100	512	501	506	99
京 都 (27)	14,500	△ 200	99	503	492	501	98
大 阪 (28)	5,010	△ 140	97	494	475	480	99
兵 庫 (29)	37,000	400	101	492	479	490	98
奈 良 (30)	8,580	△ 30	100	514	499	500	100
和 歌 山 (31)	6,430	△ 130	98	492	479	484	99
鳥 取 (32)	12,800	200	102	498	488	504	97
島 根 (33)	17,500	0	100	524	515	502	103
岡 山 (34)	30,200	100	100	520	511	514	99
広 島 (35)	23,400	△ 300	99	525	517	513	101
山 口 (36)	19,800	△ 500	98	522	514	492	104
徳 島 (37)	11,400	△ 100	99	470	466	469	99
早期栽培 (38)	4,400	△ 50	99	466	463	459	101
普通栽培 (39)	7,000	△ 80	99	474	470	475	99
香 川 (40)	12,500	△ 300	98	480	471	491	96
愛 媛 (41)	13,900	0	100	498	492	493	100
高 知 (42)	11,500	△ 100	99	441	437	454	96
早期栽培 (43)	6,470	△ 30	100	465	462	475	97
普通栽培 (44)	5,000	△ 60	99	411	407	425	96
福 岡 (45)	35,300	△ 400	99	518	497	478	104
佐 賀 (46)	24,300	△ 300	99	533	513	503	102
長 崎 (47)	11,500	△ 100	99	499	483	463	104
熊 本 (48)	33,300	0	100	530	511	497	103
大 分 (49)	20,700	△ 300	99	500	478	480	100
宮 崎 (50)	16,100	△ 200	99	493	480	482	100
早期栽培 (51)	6,410	△ 50	99	476	469	469	100
普通栽培 (52)	9,670	△ 200	98	505	487	490	99
鹿 児 島 (53)	19,200	△ 1,200	94	479	467	469	100
早期栽培 (54)	4,340	△ 120	97	450	439	435	101
普通栽培 (55)	14,800	△ 1,200	93	488	476	479	99
沖 縄 (56)	716	△ 11	98	311	309	306	101
第一期稲 (57)	527	△ 10	98	364	362	358	101
第二期稲 (58)	189	△ 1	99	160	...

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。

2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積（見込み）である。

3 (参考) 農家等が使用しているふるい目幅で選別の③10 a 当たり予想収量、④10 a 当たり平年収量及び⑤作況指数については、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

予想収穫量（子実用）			参 考		
実 数 ⑥=①×②	前年産との比較		主 食 用 作 付 見 込 面 積 ⑦	予 想 収 穫 量 （ 主 食 用 ） ⑧=⑦×②	
	対差	対比			
t	t	%	ha	t	
7,782,000	△ 40,000	99	1,386,000	7,329,000	(1)
515,800	△ 66,000	89	98,900	490,500	(2)
263,400	4,700	102	39,600	236,000	(3)
273,100	7,700	103	48,800	265,000	(4)
371,400	16,700	105	64,500	355,400	(5)
491,100	△ 7,700	98	75,000	420,000	(6)
374,100	△ 11,600	97	56,400	327,100	(7)
364,100	12,700	104	61,200	343,300	(8)
358,400	900	100	66,800	350,000	(9)
321,800	28,000	110	54,700	300,900	(10)
78,900	1,600	102	13,700	69,300	(11)
155,400	△ 700	100	30,800	150,000	(12)
301,400	1,700	101	53,900	292,100	(13)
555	△ 25	96	133	555	(14)
15,200	△ 500	97	3,080	15,200	(15)
627,600	15,900	103	104,700	556,000	(16)
205,900	600	100	33,300	183,800	(17)
130,300	△ 1,000	99	23,200	120,400	(18)
132,500	1,800	101	23,600	125,100	(19)
26,600	△ 600	98	4,820	26,100	(20)
199,000	△ 4,200	98	31,300	193,400	(21)
107,600	700	101	21,500	102,800	(22)
79,900	△ 1,000	99	15,700	79,400	(23)
137,700	△ 3,100	98	26,700	133,200	(24)
137,200	5,700	104	27,100	135,200	(25)
162,300	△ 1,600	99	30,100	154,100	(26)
72,900	△ 2,100	97	13,900	69,900	(27)
24,700	△ 1,400	95	5,000	24,700	(28)
182,000	△ 1,400	99	35,500	174,700	(29)
44,100	△ 800	98	8,530	43,800	(30)
31,600	△ 1,700	95	6,430	31,600	(31)
63,700	△ 1,800	97	12,700	63,200	(32)
91,700	900	101	17,200	90,100	(33)
157,000	△ 6,700	96	29,400	152,900	(34)
122,900	△ 3,700	97	22,900	120,200	(35)
103,400	△ 2,400	98	18,900	98,700	(36)
53,600	△ 1,600	97	11,200	52,600	(37)
20,500	△ 900	96	(38)
33,200	△ 700	98	(39)
60,000	△ 2,000	97	12,500	60,000	(40)
69,200	△ 1,400	98	13,900	69,200	(41)
50,700	△ 3,900	93	11,400	50,300	(42)
30,100	△ 2,300	93	(43)
20,600	△ 1,400	94	(44)
182,900	1,200	101	34,900	180,800	(45)
129,500	△ 1,100	99	24,000	127,900	(46)
57,400	0	100	11,400	56,900	(47)
176,500	1,000	101	32,300	171,200	(48)
103,500	△ 2,800	97	20,600	103,000	(49)
79,400	△ 1,900	98	14,700	72,500	(50)
30,500	△ 1,400	96	(51)
48,800	△ 800	98	(52)
92,000	△ 7,100	93	18,300	87,700	(53)
19,500	△ 1,600	92	(54)
72,200	△ 6,200	92	(55)
2,230	40	102	716	2,230	(56)
1,920	20	101	(57)
...	(58)

4 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作期別の主食用作付見込面積は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないことから「…」で示している。

5 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから「…」で示しており、沖縄県計の10a当たり予想収量及び予想収穫量の算出には、第一期稲の10a当たり収量と第二期稲の10a当たり平均収量を用いた。

目 次

今月の特集 ① 【消費拡大情報サイト「やっぱりごはんでしょ!」を公開しました。】

今月の特集 ② 平成30年産水稻の作付面積及び予想収穫量（10月15日現在）

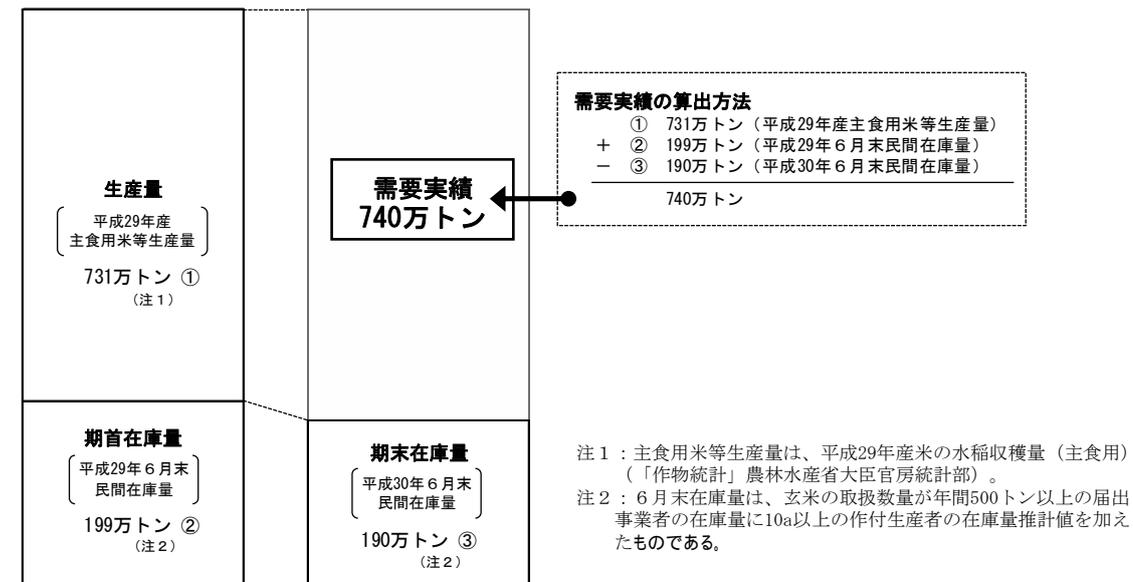
I	米の需給・契約・販売	
1	主食用米等の需給見通し	
(1)	平成29/30年の需要実績（速報値）	1
(2)	平成30/31年の需要見通し（推計値）	1
(3)	平成30/31年の需給見通し	2
2	米の契約・販売	
(1)	政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果	3
(2)	平成30年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、平成30年9月末現在）	4
(3)	産地別事前契約数量	7
II	米の在庫情報	
(1)	全国段階の民間在庫の推移（うるち米、平成24年7月末～平成30年9月末）（速報）	10
(2)	産地別民間在庫の状況（前年同月比）	12
(3)	平成29・30年産の産地別民間在庫の推移（うるち米、平成30年7月末から平成31年6月末）（速報）	13
III	米の価格情報	
1	相対取引価格・数量	
(1)	相対取引価格（年産別）	21
(2)	価格帯別分析結果（平成30年9月）	22
(3)	相対取引価格・数量（平成30年産米、産地品種銘柄別、平成30年9月分）	23
2	スポット価格の状況	26
3	米の先物取引価格の推移	27
4	米取引関係者の判断（米穀機構による調査、平成30年10月分）	29
IV	主食用米以外（輸出を含む）	
1	30年産米の作付状況	
(1)	30年産米の用途別作付面積及び生産量	31
(2)	主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）	31
(3)	新規需要米の用途別認定状況	31
2	加工用米及び新規需要米の取組状況概要	
(1)	29米穀年度における加工原材料用米穀の使用状況（推計）	32
(2)	加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移	33
3	酒造好適米の需給状況	
(1)	日本酒の出荷状況	34
(2)	日本酒原料米の使用状況	34
(3)	酒造好適米の生産量	35
(4)	酒造好適米の需要量	35
4	飼料用米の需要量	36
5	コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について	38
6	コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について	39
V	支援事業等	
(1)	水田活用の直接支払交付金	40
(2)	畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）	43
(3)	米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）	45
(4)	主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業	47
(5)	コメ海外市場拡大戦略プロジェクト	49
VI	消費動向	
(1)	米の消費動向（米穀機構による調査）	51
(2)	購入数量の推移（家計調査）	52
(3)	消費者物価指数の推移	53
(4)	小売物価統計の推移	54
(5)	米販売事業者における販売数量及び販売価格の動向	55
(6)	小売価格の推移（POSデータ）	56
VII	MA米（一般・SBS）の動向	
(1)	MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）	57
(2)	加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果（平成30年度）	58
(3)	SBS輸入米の見積合わせ結果（平成30年度）	58
VIII	その他	
(1)	水稻うるち玄米の農産物検査結果	59

I 米の需給・契約・販売

1 主食用米等の需給見通し（米の基本指針(平成30年7月27日)）

(1) 平成29/30年の需要実績（速報値）

- 平成29/30年（平成29年7月から平成30年6月までの1年間）の需要実績は、前年（754万トン）から14万トン減少し、740万トンとなった。
- 平成30年6月末民間在庫量は、前年から9万トン減少し、190万トンとなった。

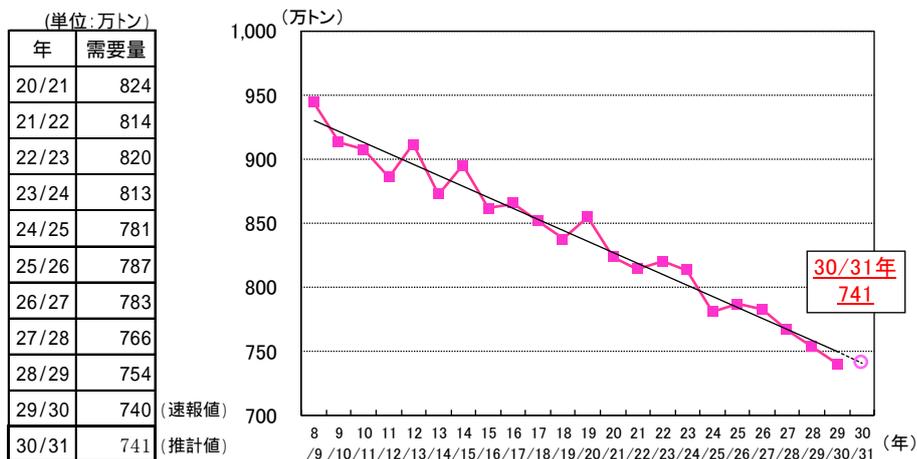


（参考：6月末民間在庫量の推移）

	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年 (速報値)
民間在庫	213	175	182	184	161	212	216	181	180	224	220	226	204	199	190

(2) 平成30/31年の需要見通し（推計値）

- 平成30/31年の需要見通しについては、平成8/9年から平成29/30年までの需要実績を用いてトレンドで算出し、741万トンと見通す。



(3) 平成30/31年の需給見通し

- 平成30年6月末民間在庫量190万トンに、昨年11月の基本指針で設定した生産量735万トンを加えた供給量の計は925万トン。この供給量から平成30/31年の需要見通し741万トンを差し引くと、平成31年6月末民間在庫量は184万トンと見通される。

(単位:万トン)

平成30年6月末民間在庫量	A	190
平成30年産主食用米等生産量	B	735
平成30/31年主食用米等供給量計	C=A+B	925
平成30/31年主食用米等需要量	D	741
平成31年6月末民間在庫量	E=C-D	184

(参考) 相対取引価格と民間在庫量

- 相対取引価格は、その年々の需給状況により変動しているが、6月末における民間在庫量（生産、出荷、販売段階における在庫量）の水準もその要因の一つ。



注: 相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月(29年産は30年8月)までの通年平均価格(30年産は30年9月分)であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

2 米の契約・販売

(1) 政府備蓄米の都道府県別買入数量、優先枠及び買入入札の結果

平成30年産

(単位：トン)

買入対象米穀 の産地	都道府県別 優先枠	買入入札の結果								落札合計数量
		第1回 平成30年1月25日 実施	第2回 平成30年2月13日 実施	第3回 平成30年2月27日 実施	第4回 平成30年3月27日 実施	第5回 平成30年4月24日 実施	第6回 平成30年5月29日 実施	第7回 平成30年6月19日 実施	第8回 平成30年6月28日 実施	
北海道										
青森	11,006	338	10,668							11,006
岩手	3,686	0	225							225
宮城	5,011	10	5,001							5,011
秋田	17,353	490	10,855							11,345
山形	11,140	0	11,140							11,140
福島	12,350	108	12,242							12,350
茨城	469	0	411							411
栃木	4,888	1,779	3,109							4,888
群馬	12	0	12							12
埼玉	191	0	191							191
千葉	688	0	587							587
東京										
神奈川										
新潟	15,947	52	12,881							12,933
富山	7,001	7,001	0							7,001
石川	3,255	40	3,215							3,255
福井	2,106	10	2,096							2,106
山梨										
長野	514	0	228							228
岐阜	224	0	224							224
静岡	13	0	0							0
愛知	385	0	385							385
三重	272	0	0							0
滋賀	735	0	735							735
京都										
大阪										
兵庫										
奈良										
和歌山										
鳥取	345	0	345							345
島根	70	0	70							70
岡山	1,138	0	738							738
広島										
山口										
徳島	484	0	0							0
香川										
愛媛	40	0	0							0
高知	10	0	10							10
福岡	118	0	118							118
佐賀	211	0	211							211
長崎	22	0	0							0
熊本	212	0	0							0
大分	109	0	90							90
宮崎										
鹿児島										
沖縄										
都道府県別枠計	100,000	9,828	75,787							85,615
指定無し	100,000	5,687	21,949	2,462	1,431	438	1,251	564	3,552	37,334
合計	200,000	15,515	97,736	2,462	1,431	438	1,251	564	3,552	122,949

(2) 平成30年産米の産地別契約・販売状況（累計、うるち米、平成30年9月末現在）

30年産米の「契約比率」及び「販売比率」（集荷数量に対する進捗状況）については、集荷が一定程度進んだ段階で掲載します。

集荷・契約・販売数量（北海道から千葉まで）

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考・前年同月比 (29年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
北海道	(千玄米ト) 10.6	(千玄米ト) 180.5	(千玄米ト) 1.8	+ 25%	+ 97%	+ 37%
ななつぼし	3.9	96.9	0.7	+ 23%	+ 96%	+ 37%
ゆめぴりか	5.8	45.6	0.7	+ 26%	+ 104%	+ 36%
きらら397	0.1	19.0	-	+ 18%	+ 99%	…
青森	7.6	45.9	0.5	+ 90%	+ 82%	+ 94%
まっしぐら	2.3	27.7	0.0	+ 191%	+ 90%	+ 121%
つがるロマン	4.7	17.6	0.1	+ 189%	+ 106%	+ 96%
岩手	3.3	73.8	0.1	+ 340%	+ 79%	+ 96%
ひとめぼれ	2.3	48.9	0.1	+ 368%	+ 69%	+ 104%
あきたこまち	0.0	12.6	-	+ 44%	+ 94%	…
いわてっこ	0.0	2.5	-	…	+ 131%	…
宮城	25.8	125.0	1.1	+ 199%	+ 100%	+ 117%
ひとめぼれ	22.3	106.2	1.0	+ 196%	+ 99%	+ 117%
つや姫	0.1	8.5	-	+ 880%	+ 110%	…
ササニシキ	1.6	5.9	0.1	+ 161%	+ 104%	+ 118%
秋田	45.3	176.4	2.2	+ 177%	+ 188%	+ 85%
あきたこまち	42.6	151.5	2.2	+ 169%	+ 191%	+ 84%
めんこいな	0.2	6.4	-	+ 765%	+ 1000%	…
ひとめぼれ	0.2	15.4	0.0	+ 383%	+ 129%	…
山形	16.3	74.8	0.8	+ 150%	+ 113%	+ 135%
はえぬき	8.7	36.1	0.3	+ 132%	+ 105%	+ 97%
つや姫	0.4	20.3	0.1	+ 529%	+ 104%	+ 397%
ひとめぼれ	2.6	7.7	0.1	+ 128%	+ 103%	+ 103%
福島	7.5	47.5	0.2	+ 170%	+ 101%	+ 99%
コシヒカリ中通り	0.7	4.0	0.0	+ 140%	+ 101%	…
コシヒカリ会津	1.3	28.1	-	+ 177%	+ 99%	…
コシヒカリ浜通り	0.3	3.4	-	+ 119%	+ 95%	…
ひとめぼれ	3.7	9.4	0.1	+ 183%	+ 109%	+ 64%
天のつぶ	0.4	0.8	-	+ 329%	+ 100%	…
茨城	39.4	22.2	6.5	+ 103%	+ 72%	+ 110%
コシヒカリ	27.8	16.6	2.7	+ 103%	+ 69%	+ 106%
あきたこまち	9.0	5.5	3.6	+ 110%	+ 98%	+ 116%
ミルキーQueen	0.4	1.0	0.1	…	…	…
栃木	66.8	74.6	1.9	+ 114%	+ 119%	+ 102%
コシヒカリ	58.2	67.5	1.5	+ 109%	+ 117%	+ 93%
あさひの夢	0.3	2.5	0.0	+ 106%	+ 241%	+ 7%
なすひかり	5.3	2.1	0.3	+ 153%	+ 101%	+ 218%
群馬	0.4	0.3	-	+ 72%	+ 265%	…
あさひの夢	0.1	0.1	-	+ 58%	+ 75%	…
ゆめまつり	0.0	0.0	-	+ 56%	…	…
埼玉	0.6	9.4	0.2	+ 10%	+ 112%	+ 114%
彩のかがやき	0.0	4.6	-	+ 8%	+ 128%	…
コシヒカリ	0.4	3.6	0.1	+ 8%	+ 98%	+ 94%
彩のきずな	0.1	1.0	0.0	+ 16%	+ 113%	+ 90%
千葉	61.8	30.7	13.0	+ 100%	+ 66%	+ 86%
コシヒカリ	28.4	13.9	4.4	+ 92%	+ 53%	+ 68%
ふさこがね	14.3	6.0	2.1	+ 114%	+ 71%	+ 88%
ふさおとめ	15.0	9.1	5.7	+ 103%	+ 87%	+ 100%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

4 契約数量は、報告対象業者が自ら販売するために契約を締結（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）した数量である。

5 販売数量は、集荷数量のうち契約のあと実際に卸売業者等に引き取られた数量である。

6 銘柄ごとの集荷数量、契約数量、販売数量は、当該産地の内数として掲載している。

7 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

8 「-」は、集荷数量、契約数量、販売数量に該当がないものである。

9 「参考：前年同月比」で、30年産又は29年産の同時期に数量がなかった場合は、「…」としている。

(東京から鳥取まで)

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考:前年同月比 (29年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(千玄米ト)			
東京	-	-	-
神奈川	0.2	0.0	0.0	108%	23%	23%
山梨	1.2	0.1	0.1	106%	160%	160%
コシヒカリ	1.0	0.0	0.0	99%
長野	12.6	35.3	0.9	85%	114%	102%
コシヒカリ	9.9	28.4	0.6	85%	117%	112%
あきたこまち	1.0	3.9	0.2	87%	108%	80%
静岡	5.0	0.7	0.7	89%	23%	101%
コシヒカリ	4.5	0.6	0.6	91%	23%	94%
きぬむすめ	0.3	0.0	0.0	78%
あいちのかおり	-	-	-
新潟	126.0	173.0	11.1	96%	106%	97%
コシヒカリ一般	66.7	85.7	5.3	84%	93%	104%
コシヒカリ魚沼	11.5	14.4	1.3	115%	114%	114%
コシヒカリ佐渡	2.8	11.2	0.2	76%	94%	43%
コシヒカリ岩船	2.0	11.1	0.1	101%	110%	53%
こしいぶき	27.8	26.7	2.8	112%	133%	93%
富山	50.5	49.7	4.6	92%	93%	92%
コシヒカリ	37.7	41.6	3.0	85%	90%	84%
てんたかく	7.0	4.3	1.3	111%	109%	116%
石川	17.8	23.7	0.6	102%	97%	162%
コシヒカリ	10.4	15.4	0.3	93%	87%	144%
ゆめみづほ	5.2	4.1	0.1	114%	101%	37%
福井	30.0	20.7	6.7	88%	99%	112%
コシヒカリ	10.7	6.8	2.3	76%	90%	110%
ハナエチゼン	12.4	6.9	3.6	88%	79%	106%
岐阜	3.7	4.9	1.0	86%	30%	88%
ハツシモ	0.0	2.2	-	...	31%	...
コシヒカリ	1.4	0.6	0.1	82%	14%	43%
あきたこまち	1.5	1.2	0.8	84%	80%	106%
愛知	6.6	29.4	1.7	87%	194%	96%
あいちのかおり	-	17.2	-	...	265%	...
コシヒカリ	5.2	9.0	1.0	86%	133%	95%
大地の風	-	1.3	-	...	200%	...
三重	19.1	21.4	3.0	96%	107%	99%
コシヒカリ一般	11.5	12.6	1.9	97%	110%	102%
コシヒカリ伊賀	3.7	4.6	0.4	86%	108%	88%
キヌヒカリ	1.4	1.1	0.0	102%	100%	195%
滋賀	22.1	48.6	4.2	76%	88%	94%
コシヒカリ	8.8	19.3	1.8	80%	89%	109%
キヌヒカリ	3.9	9.0	0.5	70%	82%	81%
日本晴	0.5	3.4	0.0	29%	67%	3%
京都	4.1	7.3	0.3	73%	90%	59%
コシヒカリ	3.2	4.9	0.3	75%	92%	63%
キヌヒカリ	0.7	1.7	0.0	58%	69%	56%
ヒノヒカリ	-	-	-
大阪	-	-	-
兵庫	12.9	14.1	1.1	98%	48%	95%
コシヒカリ	9.8	7.2	0.8	96%	96%	84%
ヒノヒカリ	0.0	2.4	-	...	170%	...
キヌヒカリ	1.9	1.6	0.0	108%	123%	...
奈良	0.8	0.1	0.1	84%	9%	28%
ヒノヒカリ	0.0	-	-	67%
和歌山	0.4	0.4	0.1	66%	22%	131%
鳥取	3.4	6.3	0.8	77%	98%	91%
コシヒカリ	1.9	1.7	0.4	75%	113%	114%
きぬむすめ	0.0	1.8	-	33%	87%	...
ひとめぼれ	1.5	2.7	0.4	81%	97%	74%

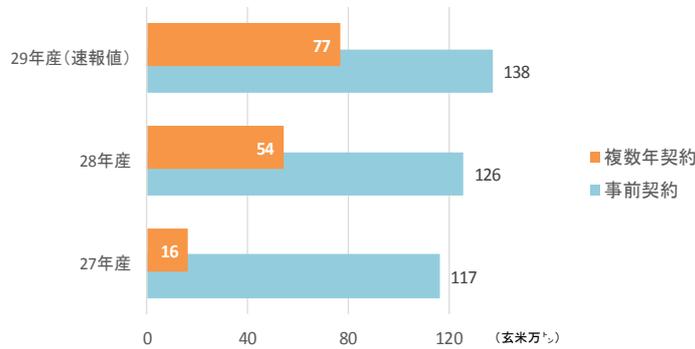
(島根から沖縄まで、全国計)

	集荷数量	契約数量	販売数量	参考: 前年同月比 (29年産の同時期との比較)		
				集荷数量	契約数量	販売数量
	(千玄米ト)	(千玄米ト)	(千玄米ト)			
島 根	15.1	34.7	1.4	56%	140%	69%
コシヒカリ	10.1	15.3	1.0	57%	155%	84%
きぬむすめ	1.2	13.1	0.0	34%	145%	62%
つや姫	2.5	3.9	0.1	65%	107%	56%
岡 山	1.1	5.5	0.6	69%	370%	100%
アケボノ	-	0.4	-
あきたこまち	0.4	0.8	0.2	70%	217%	93%
ヒノヒカリ	-	-	-
広 島	10.7	25.5	1.0	69%	87%	66%
コシヒカリ	8.5	13.0	0.9	82%	96%	82%
あきさかり	2.1	4.6	0.1
あきろまん	0.1	2.8	0.0	84%	97%	100%
山 口	10.7	24.5	0.6	84%	100%	78%
コシヒカリ	5.6	7.6	0.4	83%	93%	84%
ひとめぼれ	4.4	5.6	0.1	84%	105%	76%
ヒノヒカリ	-	4.9	-	...	88%	...
徳 島	4.5	1.3	0.9	89%	73%	100%
コシヒカリ	2.2	0.8	0.6	79%	70%	104%
キヌヒカリ	1.2	0.2	0.1	85%	67%	45%
香 川	3.8	0.7	0.7	101%	5%	97%
ヒノヒカリ	-	-	-
コシヒカリ	3.6	0.7	0.7	101%	12%	99%
おいでまい	-	-	-
愛 媛	4.3	2.1	0.9	120%	127%	119%
コシヒカリ	3.5	0.7	0.6	115%	103%	106%
ヒノヒカリ	-	-	-
あきたこまち	0.6	0.2	0.1	140%	110%	99%
高 知	5.6	4.1	2.1	87%	92%	91%
コシヒカリ	4.8	3.3	1.6	85%	95%	91%
ヒノヒカリ	0.0	-	-	42%
福 岡	4.3	34.2	1.3	74%	102%	123%
夢つくし	4.2	11.0	1.3	77%	100%	120%
ヒノヒカリ	-	10.4	-	...	104%	...
元気つくし	0.0	11.6	-	36%	97%	...
佐 賀	5.1	8.1	1.6	79%	29%	96%
夢しずく	2.4	6.3	0.4	75%	79%	78%
さがびより	-	-	-
ヒノヒカリ	-	-	-
長 崎	1.6	7.0	0.5	101%	159%	125%
ヒノヒカリ	-	2.4	-	...	197%	...
にこまる	-	3.1	-	...	180%	...
コシヒカリ	1.0	1.1	0.3	85%	104%	112%
熊 本	5.0	2.5	2.5	101%	13%	106%
ヒノヒカリ	0.1	0.0	0.0	70%	0%	29%
森のくまさん	-	-	-
コシヒカリ	4.0	1.7	1.7	103%	32%	108%
大 分	0.9	4.3	0.2	129%	130%	57%
ヒノヒカリ	-	2.7	-	...	123%	...
ひとめぼれ	0.0	0.0	0.0	144%	177%	42%
宮 崎	8.9	8.9	8.9	85%	90%	85%
コシヒカリ	8.5	8.5	8.5	85%	85%	85%
ヒノヒカリ	-	-	-
鹿児島	5.4	5.4	5.4	94%	94%	93%
ヒノヒカリ	-	-	-
コシヒカリ	3.5	3.5	3.5	89%	89%	89%
あきほなみ	-	-	-
沖 縄	1.4	1.4	1.1	102%	102%	94%
全 国 ①	706	1,483	106	96%	100%	97%
参 考	前年同月(29年産)②	737	1,477	109		
	前年同月差(①-②)	▲ 31	6	▲ 3		

(3) 産地別事前契約数量

- 平成27年産において117万トンの事前契約数量は、平成29年産では18%増の138万トンとなっている（平成30年8月末現在）。

事前契約数量の推移



- 平成29年産において事前契約を行なっている産地は38道府県、うち複数年契約を行っている産地は21道県。
- また、平成28年産と比べて事前契約数量が増加した産地は25道府県、うち新たに取組みを開始した産地は6県。 ※ 都道府県別の数量内訳は、8頁参照。

平成29年産米の事前契約の取組状況（契約比率が高い方から並び替え）

平成29年産米の複数年契約の取組状況（契約比率が高い方から並び替え）

(単位：千玄米トン)

都道府県	事前契約比率 ②/①	集荷数量 ①	うち事前契約 ②
1 石川	93%	25.7	23.8
2 島根	90%	39.0	35.0
3 宮城	80%	155.7	124.2
4 滋賀	74%	58.2	43.0
4 山口	74%	32.8	24.4
6 岩手	73%	124.8	91.3
7 広島	72%	34.7	25.1
8 三重	71%	28.0	19.8
9 新潟	64%	258.4	166.5
9 京都	64%	12.6	8.0
11 佐賀	62%	42.6	26.3
12 福岡	61%	53.9	32.9
13 香川	60%	23.4	14.1
14 栃木	53%	122.6	64.8
14 宮崎	53%	16.2	8.6
16 岐阜	52%	26.7	13.9
17 富山	50%	92.1	46.1
18 北海道	49%	371.8	183.2
19 大分	44%	13.4	5.9
20 愛知	42%	34.4	14.5
20 熊本	42%	37.4	15.8
22 長野	40%	68.8	27.4
23 埼玉	38%	21.2	8.2
23 静岡	38%	6.6	2.5
25 青森	37%	145.3	54.1
25 秋田	37%	243.1	90.5
25 千葉	37%	75.6	27.9
28 山形	35%	204.3	71.9
28 長崎	35%	11.5	4.0
30 茨城	34%	72.2	24.5
31 福島	31%	163.2	50.2
32 高知	30%	6.9	2.1
33 鳥取	26%	21.0	5.4
34 兵庫	24%	40.9	10.0
35 徳島	17%	5.3	0.9
36 福井	10%	67.2	6.8
37 愛媛	8%	11.7	0.9
38 群馬	0%	26.1	0.1
- 岡山	-	25.5	-
- 鹿児島	-	13.4	-
- 奈良	-	8.7	-
- 山梨	-	6.2	-
- 神奈川	-	2.5	-
- 和歌山	-	1.5	-
- 沖縄	-	1.5	-
- 東京	-	-	-
- 大阪	-	-	-
全国	47%	2,906	1,375

(単位：千玄米トン)

都道府県	複数年契約比率 ③/①	集荷数量 ①	うち複数年契約 ③
1 宮城	69%	155.7	107.2
2 岩手	67%	124.8	83.1
3 滋賀	59%	58.2	34.2
4 栃木	53%	122.6	64.8
5 新潟	41%	258.4	106.7
6 北海道	38%	371.8	142.7
7 長野	37%	68.8	25.7
8 福島	27%	163.2	43.7
9 秋田	26%	243.1	62.8
10 青森	25%	145.3	37.0
11 千葉	14%	75.6	10.3
12 福井	10%	67.2	6.8
12 岐阜	10%	26.7	2.6
12 山形	10%	204.3	19.8
15 富山	9%	92.1	8.6
16 島根	8%	39.0	3.3
17 石川	6%	25.7	1.5
17 広島	6%	34.7	2.0
19 茨城	3%	72.2	2.5
20 山口	2%	32.8	0.7
21 福岡	1%	53.9	0.6
- 佐賀	-	42.6	-
- 兵庫	-	40.9	-
- 熊本	-	37.4	-
- 愛知	-	34.4	-
- 三重	-	28.0	-
- 群馬	-	26.1	-
- 岡山	-	25.5	-
- 香川	-	23.4	-
- 埼玉	-	21.2	-
- 鳥取	-	21.0	-
- 宮崎	-	16.2	-
- 鹿児島	-	13.4	-
- 大分	-	13.4	-
- 京都	-	12.6	-
- 愛媛	-	11.7	-
- 長崎	-	11.5	-
- 奈良	-	8.7	-
- 高知	-	6.9	-
- 静岡	-	6.6	-
- 山梨	-	6.2	-
- 徳島	-	5.3	-
- 神奈川	-	2.5	-
- 沖縄	-	1.5	-
- 和歌山	-	1.5	-
- 東京	-	-	-
- 大阪	-	-	-
全国	26%	2,906	767

注 事前契約比率は、30年8月末時点の集荷数量及び事前契約数量より算出

注 複数年契約比率は、30年8月末時点の集荷数量及び複数年契約数量より算出

平成29年産米の業態区分別事前契約の取組状況

(単位：千玄米トン)

業態区分	集荷数量 ①	うち事前契約 ②	事前契約比率 ②/①	うち複数年契約 ③	複数年契約比率 ③/①
全国農業協同組合連合会 経済連及び県単一農協等 全集連・全集連系県集荷組合	2,283	1,319	58%	751	33%
単位農協 全集連系業者	590	56	10%	16	3%
その他	34				
合計	2,906	1,375	47%	767	26%

注1：事前契約比率及び複数年契約比率は、平成30年8月末時点の集荷数量、事前契約数量及び複数年契約数量より算出

注2：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある

参考 産地別事前契約及び複数年契約の状況

30年産米の「事前契約比率」（集荷数量に対する事前契約数量の比率）については、集荷が一定程度進んだ段階で掲載します。

単位：千玄米トン

産地	29年産(平成30年8月末現在)					30年産(平成30年9月末現在)	
	集荷数量 ①	うち事前契約 ②	事前契約比率 ②/①	うち複数年契約 ③	複数年契約比率 ③/①	集荷数量	事前契約数量
北海道	371.8	183.2	49%	142.7	38%	10.6	179.3
青森	145.3	54.1	37%	37.0	25%	7.6	45.1
岩手	124.8	91.3	73%	83.1	67%	3.3	73.8
宮城	155.7	124.2	80%	107.2	69%	25.8	124.3
秋田	243.1	90.5	37%	62.8	26%	45.3	174.5
山形	204.3	71.9	35%	19.8	10%	16.3	74.0
福島	163.2	50.2	31%	43.7	27%	7.5	47.3
茨城	72.2	24.5	34%	2.5	3%	39.8	13.5
栃木	122.6	64.8	53%	64.8	53%	66.8	73.1
群馬	26.1	0.1	0%	-	-	0.4	-
埼玉	21.2	8.2	38%	-	-	0.6	9.2
千葉	75.6	27.9	37%	10.3	14%	61.8	10.3
東京	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2.5	-	-	-	-	0.2	-
山梨	6.2	-	-	-	-	1.2	-
長野	68.8	27.4	40%	25.7	37%	12.6	31.2
静岡	6.6	2.5	38%	-	-	5.0	0.5
新潟	258.4	166.5	64%	106.7	41%	126.0	154.2
富山	92.1	46.1	50%	8.6	9%	50.5	45.3
石川	25.7	23.8	93%	1.5	6%	17.8	22.5
福井	67.2	6.8	10%	6.8	10%	30.0	8.3
岐阜	26.7	13.9	52%	2.6	10%	3.7	2.6
愛知	34.4	14.5	42%	-	-	6.6	15.1
三重	28.0	19.8	71%	-	-	19.1	20.0
滋賀	58.2	43.0	74%	34.2	59%	22.1	46.0
京都	12.6	8.0	64%	-	-	4.1	7.1
大阪	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	40.9	10.0	24%	-	-	12.9	12.5
奈良	8.7	-	-	-	-	0.8	-
和歌山	1.5	-	-	-	-	0.4	-
鳥取	21.0	5.4	26%	-	-	3.4	5.7
島根	39.0	35.0	90%	3.3	8%	15.1	34.6
岡山	25.5	-	-	-	-	1.1	-
広島	34.7	25.1	72%	2.0	6%	12.8	26.2
山口	32.8	24.4	74%	0.7	2%	10.7	24.4
徳島	5.3	0.9	17%	-	-	4.5	-
香川	23.4	14.1	60%	-	-	3.8	-
愛媛	11.7	0.9	8%	-	-	4.3	1.2
高知	6.9	2.1	30%	-	-	5.6	2.0
福岡	53.9	32.9	61%	0.6	1%	4.3	33.0
佐賀	42.6	26.3	62%	-	-	5.1	6.9
長崎	11.5	4.0	35%	-	-	1.6	7.0
熊本	37.4	15.8	42%	-	-	5.0	0.3
大分	13.4	5.9	44%	-	-	0.9	3.8
宮崎	16.2	8.6	53%	-	-	8.9	8.5
鹿児島	13.4	-	-	-	-	5.4	-
沖縄	1.5	-	-	-	-	1.4	-
全国	2,906	1,375	47%	767	26%	706	1,343

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 報告対象米穀は、水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）である。

3 29年産は30年8月末時点、30年産は30年9月末時点の数量である。

4 集荷数量は、報告対象業者が自ら販売するために集荷した数量である。

5 事前契約分とは、注3の集荷数量のうち、は種前・収穫前契約及び複数年の契約による数量（確認書等により数量のみが決定した契約を含む。）である。

6 全国欄には産地の特定が出来ない未検査米等を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

7 「-」は、集荷数量や事前契約に該当がないもの。

参考 産地別事前契約及び複数年契約の状況（対前年同月比）

「事前契約数量、播種前・収穫前契約数量、複数年契約数量」については、速報値となります。

単位：千玄米ト、%

産地	29年産(29年9月末現在)			30年産(30年9月末現在)			
	事前契約	播種前・ 収穫前 契約	複数年 契約	事前 契約	前年 同月比	播種前・ 収穫前 契約	複数年 契約
北海道	183.0	40.4	142.6	179.3	98%	1.4	177.9
青森	55.2	15.1	40.0	45.1	82%	13.4	31.7
岩手	93.0	8.2	84.8	73.8	79%	8.4	65.4
宮城	124.2	17.0	107.2	124.3	100%	16.2	108.1
秋田	92.2	30.1	62.1	174.5	189%	97.0	77.5
山形	65.4	49.3	16.1	74.0	113%	51.5	22.5
福島	47.2	6.5	40.7	47.3	100%	10.6	36.8
茨城	24.8	24.8	-	13.5	54%	13.5	-
栃木	60.3	0.0	60.3	73.1	121%	2.0	71.1
群馬	0.1	0.1	-	-	-	-	-
埼玉	8.2	8.2	-	9.2	113%	9.2	-
千葉	28.5	19.5	9.0	10.3	36%	-	10.3
東京	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	-	-	-	-	-	-	-
山梨	-	-	-	-	-	-	-
長野	27.4	1.7	25.7	31.2	114%	0.7	30.5
静岡	2.5	2.5	-	0.5	22%	0.5	-
新潟	147.3	40.5	106.8	154.2	105%	20.0	134.2
富山	46.1	37.5	8.6	45.3	98%	34.9	10.5
石川	23.9	22.4	1.5	22.5	94%	21.0	1.5
福井	6.8	-	6.8	8.3	122%	-	8.3
岐阜	15.1	12.5	2.6	2.6	17%	-	2.6
愛知	14.5	14.5	-	15.1	105%	13.6	1.5
三重	19.5	19.5	-	20.0	102%	20.0	-
滋賀	49.0	8.8	40.2	46.0	94%	6.2	39.8
京都	8.0	8.0	-	7.1	89%	7.1	-
兵庫	10.0	10.0	-	12.5	125%	12.5	-
奈良	-	-	-	-	-	-	-
和歌山	1.8	1.8	-	-	-	-	-
鳥取	5.4	5.4	-	5.7	105%	5.7	-
島根	24.6	21.4	3.3	34.6	140%	31.4	3.2
岡山	-	-	-	-	-	-	-
広島	27.3	25.3	2.0	26.2	96%	24.2	2.0
山口	24.4	23.6	0.7	24.4	100%	23.6	0.7
徳島	0.9	0.9	-	-	-	-	-
香川	14.1	14.1	-	-	-	-	-
愛媛	0.9	0.9	-	1.2	136%	1.2	-
高知	2.1	2.1	-	2.0	95%	2.0	-
福岡	32.3	32.3	-	33.0	102%	32.4	0.6
佐賀	26.4	26.4	-	6.9	26%	6.9	-
長崎	4.0	4.0	-	7.0	175%	7.0	-
熊本	15.3	15.3	-	0.3	2%	0.3	-
大分	2.8	2.8	-	3.8	134%	3.8	-
宮崎	8.6	8.6	-	8.5	99%	8.5	-
鹿児島	-	-	-	-	-	-	-
沖縄	-	-	-	-	-	-	-
全国	1,343	582	761	1,343	100%	507	837

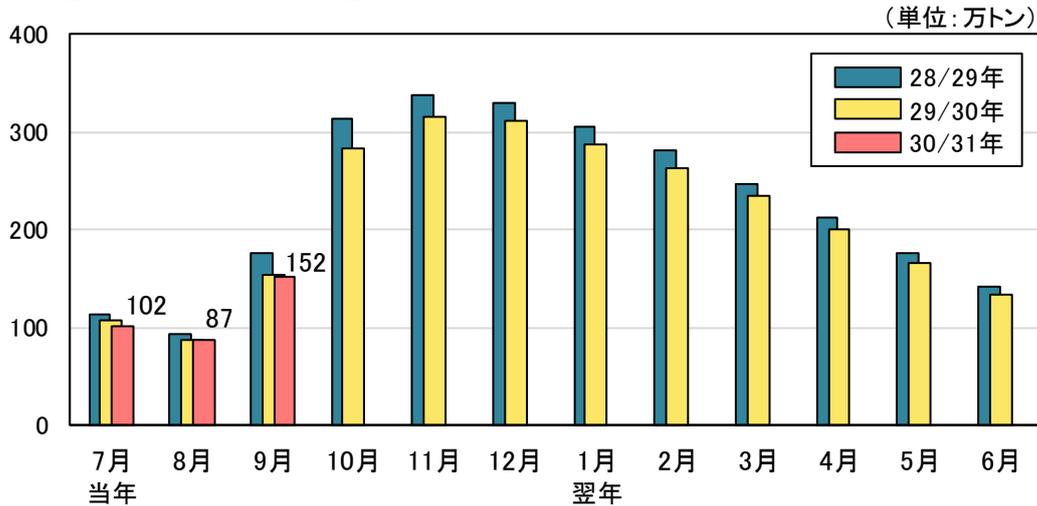
Ⅱ 米の在庫情報

(1) 全国段階の民間在庫の推移（うるち米）（速報）

- 平成30年9月末の出荷及び販売段階における在庫は、対前年同月比▲3万トンの152万トンとなっている。

※ 都道府県別の在庫量は、13頁以降参照。

【出荷＋販売段階】



(単位: 万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
24/25年	78	62	167	337	357	351	324	293	264	229	190	157
対前年差	▲5	+8	+33	+39	+30	+30	+33	+34	+40	+43	+43	+44
24年産米	0	16	135	306	331	331	307	279	252	219	182	150
1年古米(23年産)	73	41	26	20	15	9	7	5	4	3	2	2
25/26年	120	104	210	368	393	389	358	330	291	258	223	190
対前年差	+42	+42	+43	+32	+36	+39	+34	+36	+27	+29	+33	+33
25年産米	1	19	145	310	337	345	320	297	264	236	205	175
1年古米(24年産)	114	82	59	47	43	32	25	22	17	13	10	8
26/27年	(注) 119	103	198	344	368	365	343	314	280	243	208	168
対前年差	▲1	▲2	▲12	▲24	▲25	▲24	▲15	▲16	▲11	▲15	▲15	▲21
26年産米	0	14	131	285	316	323	306	283	255	220	188	155
1年古米(25年産)	106	78	55	45	37	28	23	19	15	13	11	9
27/28年	130	112	184	321	341	337	314	287	254	218	183	147
対前年差	+11	+9	▲13	▲23	▲27	▲28	▲29	▲26	▲26	▲26	▲24	▲21
27年産米	0	13	112	261	289	297	282	262	233	201	168	135
1年古米(26年産)	119	90	66	52	43	32	25	19	15	12	11	8
28/29年	114	93	177	314	338	329	306	282	248	212	177	141
対前年差	▲16	▲19	▲7	▲7	▲3	▲8	▲8	▲6	▲6	▲5	▲7	▲7
28年産米	1	14	122	267	299	299	284	264	233	201	167	135
1年古米(27年産)	104	72	48	38	30	22	16	12	9	7	5	4
29/30年	108	88	155	283	315	312	288	263	234	201	167	134
対前年差	▲6	▲5	▲22	▲30	▲22	▲17	▲18	▲18	▲13	▲11	▲10	▲7
29年産米	1	15	104	241	282	288	270	249	223	192	160	129
1年古米(28年産)	103	71	48	38	29	21	14	11	8	6	5	4
30/31年	102	87	152									
対前年差	▲6	▲1	▲3									
30年産米	1	18	105									
1年古米(29年産)	97	66	45									

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。
 4 期間については、30/31年であれば、30年7月～31年6月である。
 5 年産の特定できない未検査米等を含んでいるため、当該年産米と1年古米の計と一致しない。
 6 26年産米以降は、政府備蓄米を含まない。それ以前の年産は、政府による買入までの間の政府備蓄米を含む。
 7 米穀機構の25年産買入数量（35万トン）は、26/27年7月以降の在庫に含まれていない。

【出荷段階】

(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
24/25年	56	41	136	287	305	295	275	247	213	183	151	121
対前年差	▲6	+2	+24	+26	+19	+20	+23	+25	+28	+33	+34	+35
24年産米	0	12	118	274	296	290	271	243	210	181	150	120
1年古米(23年産)	55	29	17	10	7	3	2	2	1	1	1	1
25/26年	90	77	173	309	332	331	306	282	244	217	188	159
対前年差	+34	+35	+37	+23	+27	+36	+31	+35	+31	+34	+37	+38
25年産米	1	16	132	285	310	316	294	271	236	210	183	155
1年古米(24年産)	89	61	40	21	19	13	10	8	6	5	4	3
26/27年	93	78	165	293	316	313	295	270	234	199	170	139
対前年差	+2	+2	▲8	▲16	▲17	▲18	▲11	▲12	▲10	▲18	▲18	▲20
26年産米	0	12	119	261	289	293	280	257	225	192	165	134
1年古米(25年産)	89	64	44	29	22	16	13	10	7	5	4	4
27/28年	105	89	157	278	296	292	273	249	210	178	149	117
対前年差	+12	+11	▲8	▲15	▲20	▲21	▲22	▲22	▲24	▲21	▲22	▲21
27年産米	0	11	100	237	262	267	254	234	202	171	143	112
1年古米(26年産)	101	76	55	39	32	23	18	14	8	6	5	4
28/29年	89	70	145	261	284	276	260	236	201	170	142	112
対前年差	▲16	▲20	▲12	▲17	▲11	▲16	▲13	▲12	▲9	▲7	▲7	▲5
28年産米	1	11	108	239	268	265	252	230	197	167	139	111
1年古米(27年産)	84	56	35	19	14	9	6	5	3	2	2	1
29/30年	84	66	124	231	262	258	240	218	186	158	130	103
対前年差	▲4	▲4	▲21	▲30	▲23	▲18	▲21	▲18	▲15	▲13	▲12	▲9
29年産米	0	11	89	211	247	249	233	213	183	155	128	102
1年古米(28年産)	83	54	34	19	13	9	6	4	3	2	2	1
30/31年	76	63	121									
対前年差	▲8	▲3	▲3									
30年産米	1	14	91									
1年古米(29年産)	74	48	30									

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

【販売段階】

(単位:万玄米トン)

	当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
24/25年	22	21	30	50	52	56	49	46	51	46	39	36
対前年差	+1	+5	+8	+13	+11	+11	+9	+9	+12	+10	+8	+9
24年産米	0	4	17	32	35	41	37	36	42	38	32	31
1年古米(23年産)	18	13	8	10	8	6	5	3	3	2	2	1
25/26年	30	28	37	59	60	58	51	47	47	41	35	31
対前年差	+8	+7	+6	+9	+9	+3	+2	+1	▲4	▲4	▲4	▲5
25年産米	0	3	13	25	27	29	27	25	28	26	21	20
1年古米(24年産)	25	21	19	26	24	19	16	13	10	8	6	5
26/27年	27	24	32	51	52	52	47	44	46	44	37	30
対前年差	▲3	▲3	▲4	▲8	▲8	▲6	▲4	▲4	▲1	+3	+3	▲1
26年産米	0	3	13	24	26	30	27	26	29	29	24	21
1年古米(25年産)	17	14	11	16	15	12	10	8	8	8	7	5
27/28年	25	23	27	43	45	45	41	39	44	40	35	30
対前年差	▲2	▲2	▲5	▲8	▲7	▲7	▲7	▲5	▲2	▲4	▲3	±0
27年産米	0	2	11	24	27	29	27	28	32	30	25	23
1年古米(26年産)	17	14	10	13	12	9	7	5	7	6	6	4
28/29年	25	24	32	53	53	53	46	45	47	42	35	29
対前年差	+1	+1	+5	+10	+8	+8	+5	+7	+3	+2	±0	▲2
28年産米	0	3	14	28	31	35	31	33	37	34	28	25
1年古米(27年産)	19	16	13	20	17	13	9	7	6	4	3	3
29/30年	23	22	31	52	54	54	48	45	48	44	37	31
対前年差	▲2	▲1	▲1	±0	+1	+1	+3	±0	+1	+2	+2	+2
29年産米	0	4	15	30	35	39	37	36	40	37	32	28
1年古米(28年産)	20	16	13	20	16	12	8	7	5	4	3	2
30/31年	26	25	31									
対前年差	+3	+2	±0									
30年産米	0	4	14									
1年古米(29年産)	23	19	16									

※本表の注意点は前頁の(1)出荷+販売段階の脚注を参照

(2) 産地別民間在庫の状況（前年同月比）

平成29年産(30年9月末)

【出荷＋販売段階】

(単位:千トン)

産地	29年産 (H30.9末)	28年産 (H29.9末)	前年 同月比	産地	29年産 (H30.9末)	28年産 (H29.9末)	前年 同月比
北海道	52.9	40.2	132%	滋賀	6.5	6.6	98%
青森	35.0	31.0	113%	京都	1.9	2.2	87%
岩手	18.7	23.8	78%	大阪	0.3	0.4	75%
宮城	28.8	38.8	74%	兵庫	9.5	6.9	138%
秋田	30.0	22.6	133%	奈良	0.8	0.8	103%
山形	28.9	45.8	63%	和歌山	0.4	0.4	97%
福島	43.9	39.0	113%	鳥取	4.9	2.8	173%
茨城	17.5	10.2	171%	島根	3.5	3.7	95%
栃木	30.5	32.6	94%	岡山	12.2	6.9	177%
群馬	5.0	3.7	136%	広島	3.5	3.5	98%
埼玉	10.4	9.7	107%	山口	6.2	5.8	107%
千葉	8.1	5.0	162%	徳島	1.3	0.9	145%
東京	0.0	0.0	-	香川	2.5	3.3	74%
神奈川	0.2	0.3	56%	愛媛	1.1	2.0	58%
新潟	15.0	39.2	38%	高知	1.9	1.9	98%
富山	9.1	13.2	69%	福岡	5.9	10.4	57%
石川	5.8	7.3	80%	佐賀	3.9	4.2	92%
福井	6.8	7.4	91%	長崎	0.9	1.3	68%
山梨	0.5	0.5	110%	熊本	5.7	6.2	92%
長野	10.7	11.9	90%	大分	3.3	2.6	125%
岐阜	6.7	6.1	110%	宮崎	0.5	1.3	41%
静岡	0.8	0.9	87%	鹿児島	1.8	3.8	47%
愛知	5.9	5.3	111%	沖縄	0.0	0.0	-
三重	2.8	3.0	95%	全国計	452	475	95%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

注2：出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)である。

注3：販売段階は、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。

(3) 平成29・30年産の産地別民間在庫の推移（うるち米）（速報）

（北海道から秋田）

（単位：千玄米トン）

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
北海道	出荷＋販売段階	122.0	85.4	74.0									
	30年産米			19.8									
	1年古米(29年産)	119.9	83.9	52.9									
	出荷段階	92.4	60.1	50.4									
	30年産米			15.3									
	1年古米(29年産)	92.1	60.0	35.0									
	販売段階	29.6	25.3	23.6									
	30年産米			4.4									
	1年古米(29年産)	27.8	23.9	18.0									
青森	出荷＋販売段階	66.1	50.2	46.6									
	30年産米			10.9									
	1年古米(29年産)	64.7	49.2	35.0									
	出荷段階	46.8	33.3	33.8									
	30年産米			10.7									
	1年古米(29年産)	46.8	33.3	23.1									
	販売段階	19.3	17.0	12.8									
	30年産米			0.2									
	1年古米(29年産)	17.9	15.9	11.9									
岩手	出荷＋販売段階	39.8	26.6	23.7									
	30年産米			3.8									
	1年古米(29年産)	37.9	25.1	18.7									
	出荷段階	31.2	19.0	15.0									
	30年産米			3.4									
	1年古米(29年産)	30.3	18.3	11.0									
	販売段階	8.6	7.6	8.7									
	30年産米			0.4									
	1年古米(29年産)	7.6	6.8	7.7									
宮城	出荷＋販売段階	68.4	47.7	62.6									
	30年産米			32.5									
	1年古米(29年産)	66.1	46.0	28.8									
	出荷段階	56.8	36.6	52.7									
	30年産米			30.8									
	1年古米(29年産)	55.8	35.9	21.2									
	販売段階	11.6	11.1	10.0									
	30年産米			1.7									
	1年古米(29年産)	10.3	10.1	7.6									
秋田	出荷＋販売段階	79.4	52.5	93.7									
	30年産米			62.2									
	1年古米(29年産)	76.8	50.5	30.0									
	出荷段階	62.9	39.3	82.1									
	30年産米			60.6									
	1年古米(29年産)	62.1	38.7	21.1									
	販売段階	16.5	13.2	11.5									
	30年産米			1.6									
	1年古米(29年産)	14.8	11.9	8.9									

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。
 2 出荷段階は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）である。
 3 販売段階は、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

(山形から埼玉)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
山形	出荷+販売段階	66.0	48.3	48.8									
	30年産米			17.9									
	1年古米(29年産)	62.8	45.8	28.9									
	出荷段階	55.4	38.5	38.4									
	30年産米			17.3									
	1年古米(29年産)	54.3	37.7	20.5									
	販売段階	10.6	9.8	10.4									
	30年産米			0.7									
	1年古米(29年産)	8.5	8.1	8.4									
福島	出荷+販売段階	80.9	57.7	58.6									
	30年産米			13.4									
	1年古米(29年産)	78.8	56.1	43.9									
	出荷段階	61.9	43.5	45.8									
	30年産米			12.5									
	1年古米(29年産)	61.5	43.1	33.0									
	販売段階	18.9	14.2	12.9									
	30年産米			0.8									
	1年古米(29年産)	17.3	13.0	10.9									
茨城	出荷+販売段階	32.6	47.6	115.0									
	30年産米		26.4	96.9									
	1年古米(29年産)	32.0	20.6	17.5									
	出荷段階	17.0	27.4	75.0									
	30年産米		17.4	69.0									
	1年古米(29年産)	16.9	9.9	6.0									
	販売段階	15.6	20.3	39.9									
	30年産米		9.0	28.0									
	1年古米(29年産)	15.1	10.8	11.6									
栃木	出荷+販売段階	59.2	42.2	111.2									
	30年産米		0.1	79.8									
	1年古米(29年産)	57.6	41.0	30.5									
	出荷段階	40.6	28.0	94.0									
	30年産米		0.1	73.0									
	1年古米(29年産)	40.5	27.9	21.0									
	販売段階	18.6	14.2	17.1									
	30年産米			6.8									
	1年古米(29年産)	17.1	13.1	9.5									
群馬	出荷+販売段階	11.3	7.4	5.5									
	30年産米			0.4									
	1年古米(29年産)	11.3	7.4	5.0									
	出荷段階	8.4	4.9	3.2									
	30年産米			0.4									
	1年古米(29年産)	8.4	4.9	2.8									
	販売段階	2.9	2.6	2.3									
	30年産米			0.1									
	1年古米(29年産)	2.9	2.5	2.2									
埼玉	出荷+販売段階	14.2	11.9	15.1									
	30年産米		1.0	4.4									
	1年古米(29年産)	13.8	10.6	10.4									
	出荷段階	7.9	6.5	6.9									
	30年産米		0.6	2.9									
	1年古米(29年産)	7.9	5.9	4.0									
	販売段階	6.3	5.4	8.2									
	30年産米		0.3	1.5									
	1年古米(29年産)	5.9	4.7	6.4									

(千葉から静岡)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
千葉	出荷+販売段階	19.2	81.7	113.8									
	30年産米		70.4	105.6									
	1年古米(29年産)	19.0	11.2	8.1									
	出荷段階	7.8	68.1	96.4									
	30年産米		65.1	94.4									
	1年古米(29年産)	7.8	3.0	2.0									
	販売段階	11.4	13.6	17.4									
	30年産米		5.3	11.2									
	1年古米(29年産)	11.2	8.2	6.1									
東京	出荷+販売段階												
	30年産米												
	1年古米(29年産)												
	出荷段階												
	30年産米												
	1年古米(29年産)												
	販売段階												
	30年産米												
	1年古米(29年産)												
神奈川	出荷+販売段階	0.5	0.3	0.4									
	30年産米			0.3									
	1年古米(29年産)	0.5	0.3	0.2									
	出荷段階	0.4	0.3	0.4									
	30年産米			0.3									
	1年古米(29年産)	0.4	0.3	0.1									
	販売段階												
	30年産米												
	1年古米(29年産)												
山梨	出荷+販売段階	1.4	0.9	1.7									
	30年産米			1.2									
	1年古米(29年産)	1.4	0.9	0.5									
	出荷段階	1.1	0.7	1.5									
	30年産米			1.2									
	1年古米(29年産)	1.1	0.7	0.4									
	販売段階	0.3	0.2	0.2									
	30年産米			0.1									
	1年古米(29年産)	0.2	0.2	0.2									
長野	出荷+販売段階	23.0	16.5	25.7									
	30年産米			14.8									
	1年古米(29年産)	22.7	16.2	10.7									
	出荷段階	19.4	13.5	22.1									
	30年産米			14.1									
	1年古米(29年産)	19.4	13.5	8.0									
	販売段階	3.6	3.0	3.6									
	30年産米			0.8									
	1年古米(29年産)	3.3	2.7	2.7									
静岡	出荷+販売段階	2.2	5.5	13.7									
	30年産米		4.2	12.9									
	1年古米(29年産)	2.2	1.2	0.8									
	出荷段階	0.5	2.7	8.3									
	30年産米		2.5	8.2									
	1年古米(29年産)	0.5	0.2	0.1									
	販売段階	1.7	2.7	5.4									
	30年産米		1.7	4.7									
	1年古米(29年産)	1.7	1.0	0.7									

(新潟から愛知)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
新潟	出荷+販売段階	57.6	32.4	210.4									
	30年産米		0.5	193.7									
	1年古米(29年産)	53.4	29.4	15.0									
	出荷段階	44.5	22.0	195.3									
	30年産米		0.5	184.6									
	1年古米(29年産)	42.4	20.5	10.0									
	販売段階	13.2	10.4	15.1									
	30年産米			9.1									
	1年古米(29年産)	11.0	8.9	5.0									
富山	出荷+販売段階	22.3	15.6	66.6									
	30年産米		2.0	57.3									
	1年古米(29年産)	21.9	13.3	9.1									
	出荷段階	18.0	11.3	60.0									
	30年産米		1.4	54.0									
	1年古米(29年産)	17.9	9.9	6.1									
	販売段階	4.4	4.3	6.6									
	30年産米		0.6	3.3									
	1年古米(29年産)	4.0	3.4	3.0									
石川	出荷+販売段階	14.1	13.6	54.7									
	30年産米		5.3	48.7									
	1年古米(29年産)	13.8	8.0	5.8									
	出荷段階	9.6	8.4	34.4									
	30年産米		2.7	30.2									
	1年古米(29年産)	9.4	5.5	4.0									
	販売段階	4.6	5.2	20.4									
	30年産米		2.6	18.5									
	1年古米(29年産)	4.4	2.5	1.8									
福井	出荷+販売段階	13.8	16.5	42.2									
	30年産米		7.2	35.3									
	1年古米(29年産)	13.5	9.2	6.8									
	出荷段階	10.3	12.1	33.3									
	30年産米		5.5	28.5									
	1年古米(29年産)	10.2	6.6	4.8									
	販売段階	3.5	4.4	8.8									
	30年産米		1.6	6.8									
	1年古米(29年産)	3.3	2.6	1.9									
岐阜	出荷+販売段階	11.8	10.7	10.7									
	30年産米		1.2	3.6									
	1年古米(29年産)	11.2	9.0	6.7									
	出荷段階	8.4	7.5	8.1									
	30年産米		0.9	3.0									
	1年古米(29年産)	8.4	6.7	5.1									
	販売段階	3.4	3.1	2.6									
	30年産米		0.4	0.6									
	1年古米(29年産)	2.8	2.3	1.6									
愛知	出荷+販売段階	13.7	12.4	13.8									
	30年産米		2.5	7.8									
	1年古米(29年産)	13.3	9.6	5.9									
	出荷段階	11.3	9.7	10.3									
	30年産米		1.8	6.1									
	1年古米(29年産)	11.2	8.0	4.2									
	販売段階	2.5	2.6	3.6									
	30年産米		0.7	1.7									
	1年古米(29年産)	2.1	1.6	1.7									

(三重から奈良)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
三重	出荷+販売段階	6.3	18.2	38.5									
	30年産米		14.6	35.7									
	1年古米(29年産)	5.8	3.5	2.8									
	出荷段階	4.7	15.1	33.8									
	30年産米		12.6	31.8									
	1年古米(29年産)	4.3	2.5	2.0									
	販売段階	1.6	3.1	4.7									
	30年産米		2.0	3.8									
	1年古米(29年産)	1.5	1.0	0.8									
滋賀	出荷+販売段階	14.3	14.8	48.4									
	30年産米		5.9	41.6									
	1年古米(29年産)	13.6	8.5	6.5									
	出荷段階	10.7	11.5	43.8									
	30年産米		5.5	39.4									
	1年古米(29年産)	10.4	5.8	4.4									
	販売段階	3.5	3.3	4.6									
	30年産米		0.5	2.3									
	1年古米(29年産)	3.3	2.6	2.1									
京都	出荷+販売段階	4.0	2.8	8.4									
	30年産米			6.5									
	1年古米(29年産)	4.0	2.7	1.9									
	出荷段階	3.1	2.0	7.4									
	30年産米			6.1									
	1年古米(29年産)	3.1	2.0	1.3									
	販売段階	0.9	0.8	1.0									
	30年産米			0.4									
	1年古米(29年産)	0.9	0.7	0.6									
大阪	出荷+販売段階	0.8	0.7	0.6									
	30年産米			0.3									
	1年古米(29年産)	0.8	0.7	0.3									
	出荷段階	0.7	0.5	0.4									
	30年産米			0.3									
	1年古米(29年産)	0.7	0.5	0.1									
	販売段階	0.1	0.2	0.2									
	30年産米												
	1年古米(29年産)	0.1	0.2	0.2									
兵庫	出荷+販売段階	17.3	13.3	28.1									
	30年産米			18.3									
	1年古米(29年産)	17.1	13.1	9.5									
	出荷段階	15.0	11.4	25.3									
	30年産米			17.2									
	1年古米(29年産)	15.0	11.4	8.1									
	販売段階	2.3	1.9	2.7									
	30年産米			1.1									
	1年古米(29年産)	2.0	1.7	1.4									
奈良	出荷+販売段階	2.4	1.7	1.7									
	30年産米			0.8									
	1年古米(29年産)	2.3	1.7	0.8									
	出荷段階	1.6	1.2	0.9									
	30年産米			0.7									
	1年古米(29年産)	1.6	1.2	0.1									
	販売段階	0.8	0.6	0.8									
	30年産米			0.1									
	1年古米(29年産)	0.7	0.5	0.7									

(和歌山から山口)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
和歌山	出荷+販売段階	0.8	0.6	0.7									
	30年産米			0.3									
	1年古米(29年産)	0.8	0.6	0.4									
	出荷段階			0.3									
	30年産米			0.3									
	1年古米(29年産)												
	販売段階	0.8	0.6	0.4									
	30年産米												
	1年古米(29年産)	0.8	0.6	0.4									
鳥取	出荷+販売段階	9.9	7.1	9.8									
	30年産米			4.9									
	1年古米(29年産)	9.8	7.0	4.9									
	出荷段階	7.5	5.1	7.6									
	30年産米			4.3									
	1年古米(29年産)	7.5	5.0	3.3									
	販売段階	2.4	2.1	2.2									
	30年産米			0.6									
	1年古米(29年産)	2.3	2.0	1.6									
島根	出荷+販売段階	8.8	6.8	18.5									
	30年産米		1.2	15.0									
	1年古米(29年産)	8.8	5.6	3.5									
	出荷段階	7.5	5.4	16.2									
	30年産米		1.1	13.8									
	1年古米(29年産)	7.5	4.3	2.4									
	販売段階	1.3	1.4	2.4									
	30年産米		0.1	1.3									
	1年古米(29年産)	1.3	1.3	1.1									
岡山	出荷+販売段階	21.5	14.9	19.9									
	30年産米			7.7									
	1年古米(29年産)	21.5	14.8	12.2									
	出荷段階	15.9	10.7	12.5									
	30年産米			6.5									
	1年古米(29年産)	15.9	10.7	6.0									
	販売段階	5.6	4.1	7.5									
	30年産米			1.2									
	1年古米(29年産)	5.6	4.1	6.2									
広島	出荷+販売段階	10.1	6.7	21.3									
	30年産米		0.2	17.6									
	1年古米(29年産)	9.9	6.2	3.5									
	出荷段階	7.2	4.3	18.3									
	30年産米		0.2	16.2									
	1年古米(29年産)	7.2	4.1	2.1									
	販売段階	2.9	2.4	2.9									
	30年産米			1.3									
	1年古米(29年産)	2.7	2.1	1.4									
山口	出荷+販売段階	12.0	9.2	18.1									
	30年産米		0.6	11.9									
	1年古米(29年産)	11.8	8.5	6.2									
	出荷段階	10.6	7.9	16.7									
	30年産米		0.5	11.4									
	1年古米(29年産)	10.6	7.4	5.3									
	販売段階	1.4	1.4	1.4									
	30年産米		0.1	0.5									
	1年古米(29年産)	1.2	1.1	0.9									

(徳島から佐賀)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
徳島	出荷+販売段階	2.7	9.4	12.9									
	30年産米		7.5	11.5									
	1年古米(29年産)	2.5	1.7	1.3									
	出荷段階	0.3	5.9	9.0									
	30年産米		5.9	9.0									
	1年古米(29年産)	0.3											
	販売段階	2.4	3.5	3.9									
	30年産米		1.6	2.5									
	1年古米(29年産)	2.2	1.7	1.3									
香川	出荷+販売段階	6.0	5.1	5.8									
	30年産米		0.8	3.3									
	1年古米(29年産)	6.0	4.2	2.5									
	出荷段階	5.0	4.2	5.0									
	30年産米		0.7	3.1									
	1年古米(29年産)	5.0	3.5	1.8									
	販売段階	1.0	0.9	0.9									
	30年産米		0.1	0.2									
	1年古米(29年産)	0.9	0.7	0.6									
愛媛	出荷+販売段階	3.4	4.5	7.0									
	30年産米		2.5	5.7									
	1年古米(29年産)	3.1	1.9	1.1									
	出荷段階	2.9	4.0	6.5									
	30年産米		2.3	5.5									
	1年古米(29年産)	2.7	1.5	0.9									
	販売段階	0.4	0.5	0.5									
	30年産米		0.1	0.2									
	1年古米(29年産)	0.4	0.4	0.2									
高知	出荷+販売段階	3.6	9.9	9.1									
	30年産米	0.6	7.5	7.0									
	1年古米(29年産)	2.8	2.2	1.9									
	出荷段階	1.1	5.3	4.8									
	30年産米	0.3	4.8	4.5									
	1年古米(29年産)	0.6	0.3	0.2									
	販売段階	2.6	4.6	4.3									
	30年産米	0.3	2.7	2.6									
	1年古米(29年産)	2.2	1.9	1.7									
福岡	出荷+販売段階	17.2	11.5	20.3									
	30年産米		1.4	14.2									
	1年古米(29年産)	16.8	9.9	5.9									
	出荷段階	14.5	8.7	13.1									
	30年産米		0.7	8.4									
	1年古米(29年産)	14.4	8.0	4.6									
	販売段階	2.7	2.8	7.2									
	30年産米		0.8	5.7									
	1年古米(29年産)	2.4	1.9	1.3									
佐賀	出荷+販売段階	11.4	8.2	8.2									
	30年産米	0.1	1.4	4.2									
	1年古米(29年産)	11.1	6.6	3.9									
	出荷段階	9.8	6.8	7.0									
	30年産米		1.3	3.9									
	1年古米(29年産)	9.8	5.5	3.0									
	販売段階	1.6	1.3	1.2									
	30年産米	0.1	0.1	0.3									
	1年古米(29年産)	1.4	1.1	0.9									

(長崎から沖縄)

(単位:千玄米トン)

		30年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	31年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
長崎	出荷+販売段階	2.6	2.2	2.3									
	30年産米		0.6	1.4									
	1年古米(29年産)	2.6	1.5	0.9									
	出荷段階	2.4	2.0	1.9									
	30年産米		0.6	1.2									
	1年古米(29年産)	2.4	1.4	0.7									
	販売段階	0.2	0.2	0.4									
	30年産米			0.2									
	1年古米(29年産)	0.2	0.2	0.1									
熊本	出荷+販売段階	14.4	12.6	11.4									
	30年産米	0.1	3.2	5.7									
	1年古米(29年産)	14.1	9.3	5.7									
	出荷段階	10.1	7.7	7.0									
	30年産米		1.5	3.5									
	1年古米(29年産)	10.0	6.2	3.4									
	販売段階	4.3	4.9	4.4									
	30年産米		1.6	2.1									
	1年古米(29年産)	4.1	3.2	2.3									
大分	出荷+販売段階	7.4	5.9	5.7									
	30年産米		0.6	2.4									
	1年古米(29年産)	7.2	5.2	3.3									
	出荷段階	5.0	3.8	3.5									
	30年産米		0.3	1.6									
	1年古米(29年産)	4.9	3.4	1.8									
	販売段階	2.3	2.1	2.3									
	30年産米		0.3	0.8									
	1年古米(29年産)	2.3	1.8	1.5									
宮崎	出荷+販売段階	9.4	5.8	2.6									
	30年産米	7.3	4.4	2.0									
	1年古米(29年産)	2.1	1.3	0.5									
	出荷段階	7.0	2.8	0.4									
	30年産米	5.7	2.2	0.2									
	1年古米(29年産)	1.3	0.6	0.2									
	販売段階	2.4	3.0	2.2									
	30年産米	1.6	2.3	1.8									
	1年古米(29年産)	0.8	0.7	0.4									
鹿児島	出荷+販売段階	6.8	8.6	6.1									
	30年産米	1.6	5.0	3.7									
	1年古米(29年産)	4.4	2.8	1.8									
	出荷段階	4.4	4.6	2.3									
	30年産米	0.6	1.9	0.5									
	1年古米(29年産)	3.2	2.1	1.2									
	販売段階	2.4	4.0	3.7									
	30年産米	1.1	3.1	3.1									
	1年古米(29年産)	1.3	0.8	0.6									
沖縄	出荷+販売段階	0.5	0.5	0.4									
	30年産米	0.5	0.5	0.4									
	1年古米(29年産)												
	出荷段階	0.3	0.3	0.3									
	30年産米	0.3	0.3	0.3									
	1年古米(29年産)												
	販売段階	0.2	0.2	0.1									
	30年産米	0.2	0.2	0.1									
	1年古米(29年産)												

Ⅲ 米の価格情報

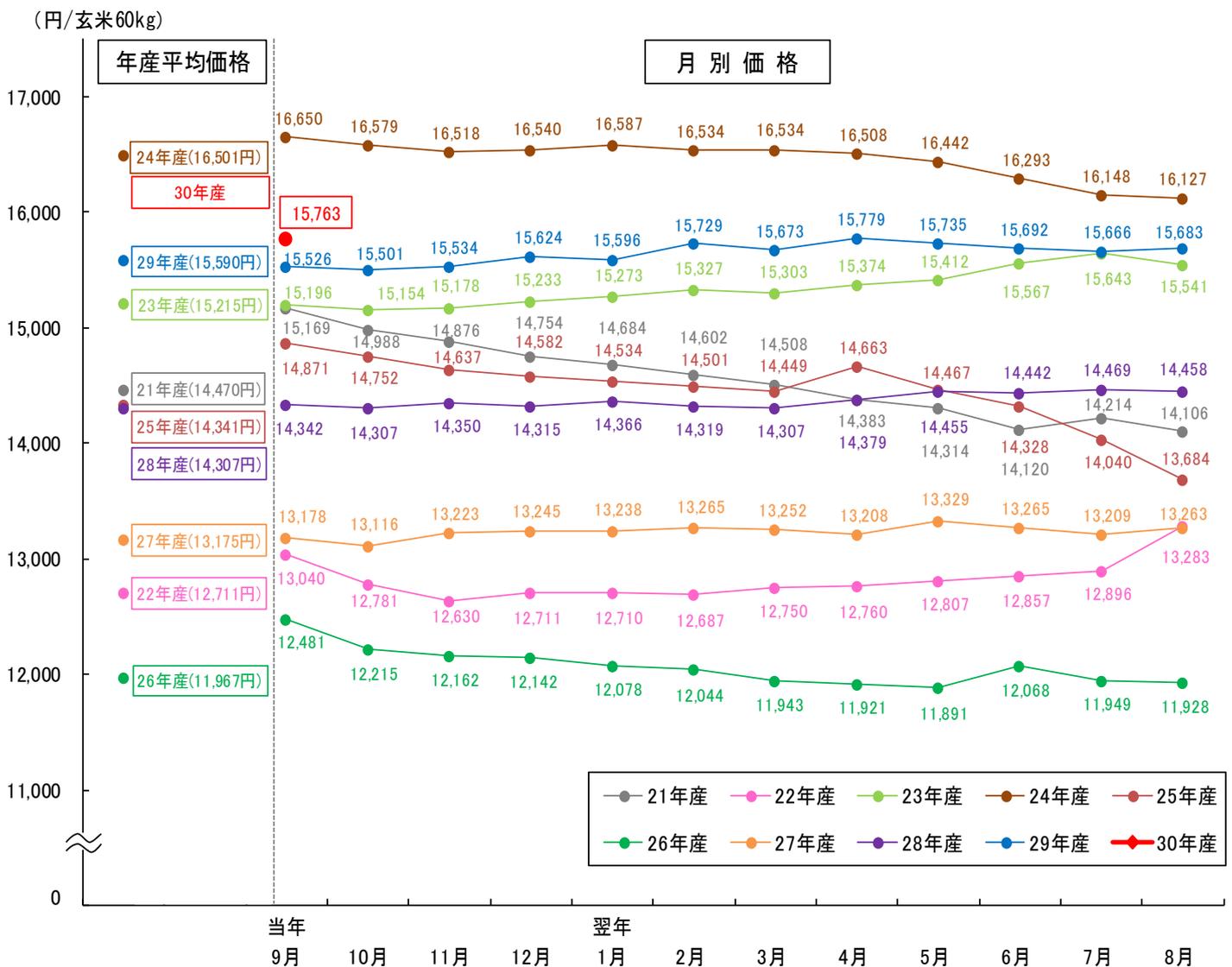
1 相対取引価格・数量

(1) 相対取引価格（年産別）

- 平成30年産米の平成30年9月の全銘柄平均価格は、対前年同月比+237円/60kgの15,763円/60kg。

※ 産地銘柄ごとの価格は、23頁以降を参照。

相対取引価格の推移（税込）
（全銘柄平均価格）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。

2 価格には、運賃、包装代、消費税（平成26年3月までは5%、同年4月以降は8%）が含まれている。

3 グラフの左側は各年産の平均価格（注4）、それ以降は月ごとの価格の推移。

4 平均価格とは、当該年産の出回りから翌年10月（29年産は平成30年8月）までの通年平均価格（29年産は速報値ベース）。

(2) 価格帯別分析結果（平成30年9月）

- 平成29年産米と平成30年産米の価格帯別平均価格を比較したところ、平成29年産の価格が60kg当たり16,000円以上の銘柄は+205円、14,000円未満の銘柄は+1,252円。
- 産地銘柄ごとでは、「愛媛県産コシヒカリ」が最も上昇しており、次いで、「愛媛県産あきたこまち」、「徳島県産キヌヒカリ」という状況。

価格帯別相対取引価格

単位：円/玄米60kg（税込）

	平成29年産の相対取引価格			
	16,000円以上の銘柄の平均	16,000円～15,000円の銘柄の平均	15,000円～14,000円の銘柄の平均	14,000円未満の銘柄の平均
平成29年産(出回り～30年8月) ①	17,282	15,517	14,722	13,816
平成30年産(30年9月) (29年産価格帯ベース) ②	17,487	15,629	14,930	15,068
価格差 ②-①	+ 205	+ 112	+ 208	+ 1,252

平成29年産と平成30年産の価格差（相対取引価格上昇幅上位10銘柄）

単位：円/玄米60kg（税込）

産地	品種銘柄	地域区分	平成29年産	平成30年産	価格差
			(出回り～平成30年8月) ①	(平成30年9月) ②	②-①
愛媛	コシヒカリ		14,305	15,711	+ 1,406
愛媛	あきたこまち		13,698	15,068	+ 1,370
徳島	キヌヒカリ		14,221	15,336	+ 1,115
広島	コシヒカリ		14,934	15,984	+ 1,050
鹿児島	コシヒカリ		15,542	16,405	+ 863
佐賀	夢しずく		14,213	14,882	+ 669
岐阜	あきたこまち		14,286	14,862	+ 576
三重	コシヒカリ	伊賀	15,404	15,960	+ 556
三重	コシヒカリ	一般	14,941	15,456	+ 515
香川	コシヒカリ		14,805	15,272	+ 467

(3) 相対取引価格・数量（平成30年産米、産地品種銘柄別、平成30年9月分）

相対取引価格・数量①（北海道から栃木）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 30年産米 (30年9月) ①	数量 30年産米 (30年9月) ②	参考							
				価格				数量			
				30年産米 (30年8月)	対前月比 /	29年産米 (29年9月)	対前年比 /	30年産米 (30年8月)	対前月比 /	29年産米 (29年9月)	対前年比 /
北海道	ななつぼし	15,740	861	-	-	15,874	99%	-	-	4,421	19%
北海道	ゆめぴりか	16,907	1,191	-	-	17,694	96%	-	-	3,670	32%
北海道	きらら397	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森	まっしぐら	14,838	198	-	-	14,249	104%	-	-	466	42%
青森	つがるロマン	14,898	489	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手	ひとめぼれ	15,425	4,166	-	-	15,079	102%	-	-	1,412	295%
岩手	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手	いわてっこ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城	ひとめぼれ	15,518	3,649	-	-	15,105	103%	-	-	5,001	73%
宮城	つや姫	15,628	1,372	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城	ササニシキ	15,555	846	-	-	15,117	103%	-	-	846	100%
秋田	あきたこまち	15,727	7,300	-	-	15,579	101%	-	-	8,675	84%
秋田	めんこいな	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形	はえぬき	15,492	855	-	-	15,100	103%	-	-	551	155%
山形	つや姫	18,268	1,272	-	-	-	-	-	-	-	-
山形	ひとめぼれ	15,523	449	-	-	14,941	104%	-	-	117	384%
福島	コシヒカリ(中通り)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島	コシヒカリ(会津)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島	コシヒカリ(浜通り)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島	ひとめぼれ	14,670	255	-	-	14,567	101%	-	-	180	142%
福島	天のつぐ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城	コシヒカリ	15,632	3,705	-	-	15,407	101%	-	-	2,925	127%
茨城	あきたこまち	15,028	4,234	-	-	15,383	98%	-	-	4,549	93%
茨城	ミルキークイーン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木	コシヒカリ	15,502	2,271	-	-	15,057	103%	-	-	4,419	51%
栃木	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木	なすひかり	14,710	774	-	-	14,541	101%	-	-	593	131%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注：1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
- 2 産地品種銘柄ごとの価格（①）は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）を加重平均したものであり、数量（②）は、同契約の数量の合計である。
- ただし、全農が締結する「福島、茨城、千葉、京都、兵庫、鳥取、岡山、広島、愛媛、高知」の契約では、27年産から契約方法を見直し、これまでの運賃（東京、大阪着基準）を含めた契約方法から、産地在姿での契約方法に変更したため、当該産地の相対取引価格には全農契約分の運賃が含まれていない。
- 3 価格に含む消費税は、平成26年4月分から8%で算定している。
- 4 加重平均に際しては、新潟、長野、静岡以東（東日本）の産地品種銘柄については受渡地を東日本としているものを、富山、岐阜、愛知以西（西日本）の産地品種銘柄については受渡地を西日本としているものを対象としている。
- 5 相対取引価格は、個々の契約内容に応じて設定される大口割引等の割引などが適用された価格であり、実際の引取状況に応じて価格調整（等級及び付加価値等（栽培方法等））が行われることがある。
- 6 全銘柄平均価格（次々頁）は、報告対象産地品種銘柄ごとの前年産検査数量ウェイトで加重平均により算定。
- 7 「-」は、当該月の相対取引契約がなかったもの又は当該月の相対取引数量が100トン未満であり、価格の公表を行わないもの。
- 8 全銘柄平均価格、合計数量欄には公表していない産地品種銘柄分を含んでいるため、産地の合計と一致しない。

相対取引価格・数量②（群馬から兵庫）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 30年産米 (30年9月) ①	数量 30年産米 (30年9月) ②	参 考							
				価格				数量			
				30年産米 (30年8月)	対前年比	29年産米 (29年9月)	対前年比	30年産米 (30年8月)	対前年比	29年産米 (29年9月)	対前年比
	/	/	/	/	/	/	/	/			
群馬	あさひの夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬	ゆめまつり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉	彩のかがやき	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉	コシヒカリ	15,447	183	-	-	14,343	108%	-	-	150	122%
埼玉	彩のきずな	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉	コシヒカリ	15,414	3,648	-	-	14,972	103%	-	-	7,926	46%
千葉	ふさこがね	14,627	1,316	-	-	14,689	100%	-	-	1,699	77%
千葉	ふさおとめ	14,768	2,659	-	-	14,793	100%	-	-	2,948	90%
山梨	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野	コシヒカリ	16,038	7,573	-	-	15,734	102%	-	-	4,218	180%
長野	あきたこまち	15,218	1,611	-	-	14,645	104%	-	-	917	176%
静岡	コシヒカリ	15,925	311	-	-	15,268	104%	-	-	343	91%
静岡	きぬむすめ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟	コシヒカリ(一般)	17,081	24,056	-	-	16,906	101%	-	-	26,315	91%
新潟	コシヒカリ(魚沼)	20,791	3,859	-	-	20,600	101%	-	-	6,213	62%
新潟	コシヒカリ(佐渡)	17,487	3,682	-	-	17,311	101%	-	-	3,789	97%
新潟	コシヒカリ(岩船)	17,442	4,244	-	-	17,289	101%	-	-	5,843	73%
新潟	こしいぶき	15,109	6,894	-	-	14,848	102%	-	-	6,491	106%
富山	コシヒカリ	16,027	12,178	-	-	15,951	100%	-	-	19,256	63%
富山	てんたかく	14,753	2,068	-	-	14,480	102%	-	-	1,762	117%
石川	コシヒカリ	16,035	2,172	-	-	15,676	102%	-	-	580	374%
石川	ゆめみづほ	14,643	504	-	-	-	-	-	-	-	-
福井	コシヒカリ	16,060	2,074	-	-	15,738	102%	-	-	3,099	67%
福井	ハナエチゼン	14,940	1,543	-	-	14,590	102%	-	-	2,120	73%
岐阜	ハツシモ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜	コシヒカリ	15,559	314	-	-	15,076	103%	-	-	500	63%
岐阜	あきたこまち	14,862	139	-	-	14,208	105%	-	-	268	52%
愛知	あいちのかおり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知	大地の風	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重	コシヒカリ(一般)	15,456	1,154	-	-	14,906	104%	-	-	9,386	12%
三重	コシヒカリ(伊賀)	15,960	115	-	-	15,315	104%	-	-	3,354	3%
三重	キヌヒカリ	-	-	-	-	14,125	-	-	-	1,079	-
滋賀	コシヒカリ	15,558	3,048	-	-	15,092	103%	-	-	3,724	82%
滋賀	キヌヒカリ	14,704	2,619	-	-	14,345	103%	-	-	2,199	119%
滋賀	日本晴	14,388	614	-	-	14,037	103%	-	-	758	81%
京都	コシヒカリ	15,574	3,756	-	-	15,968	98%	-	-	1,489	252%
京都	キヌヒカリ	14,733	568	-	-	14,691	100%	-	-	320	178%
京都	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	コシヒカリ	16,043	1,207	-	-	15,664	102%	-	-	1,172	103%
兵庫	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫	キヌヒカリ	-	-	-	-	13,936	-	-	-	135	-

注：本表の注意点は、前頁の脚注を参照。

相対取引価格・数量③（奈良から鹿児島）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 30年産米 (30年9月) ①	数量 30年産米 (30年9月) ②	参 考							
				価格				数量			
				30年産米 (30年8月)	対前年比	29年産米 (29年9月)	対前年比	30年産米 (30年8月)	対前年比	29年産米 (29年9月)	対前年比
	/	/	/	/	/	/	/	/			
奈良	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取	コシヒカリ	15,009	258	-	-	14,600	103%	-	-	300	86%
鳥取	きぬむすめ	-	-	-	-	14,288	-	-	-	292	-
鳥取	ひとめぼれ	14,200	486	-	-	13,911	102%	-	-	980	50%
島根	コシヒカリ	15,615	2,627	-	-	15,032	104%	-	-	2,487	106%
島根	きぬむすめ	14,747	2,374	-	-	14,275	103%	-	-	3,293	72%
島根	つや姫	15,500	1,413	-	-	14,965	104%	-	-	1,346	105%
岡山	アケボノ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山	あきたこまち	15,037	719	-	-	15,359	98%	-	-	270	266%
岡山	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島	コシヒカリ	15,984	1,184	-	-	15,283	105%	-	-	1,894	63%
広島	あきさかり	15,697	220	-	-	-	-	-	-	-	-
広島	あきろまん	-	-	-	-	14,283	-	-	-	180	-
山口	コシヒカリ	15,198	1,170	-	-	14,815	103%	-	-	258	453%
山口	ひとめぼれ	14,351	455	-	-	14,027	102%	-	-	178	256%
山口	ヒノヒカリ	14,340	790	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島	コシヒカリ	-	-	-	-	15,336	-	-	-	180	-
徳島	キヌヒカリ	15,336	240	-	-	14,256	108%	-	-	240	100%
香川	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川	コシヒカリ	15,272	509	-	-	14,536	105%	-	-	558	91%
香川	おいでまい	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛	コシヒカリ	15,711	376	-	-	14,570	108%	-	-	362	104%
愛媛	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛	あきたこまち	15,068	117	-	-	13,997	108%	-	-	124	94%
高知	コシヒカリ	15,448	387	-	-	15,456	100%	-	-	715	54%
高知	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡	夢つくし	16,344	1,308	-	-	16,427	99%	-	-	1,165	112%
福岡	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡	元気つくし	16,096	102	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀	夢しずく	14,882	233	-	-	14,686	101%	-	-	306	76%
佐賀	さがびより	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎	にこまる	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎	コシヒカリ	16,314	172	-	-	16,040	102%	-	-	161	107%
熊本	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本	森のくまさん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本	コシヒカリ	15,527	421	-	-	15,285	102%	-	-	255	165%
大分	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎	コシヒカリ	15,073	1,437	-	-	14,784	102%	-	-	918	157%
宮崎	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島	コシヒカリ	16,405	202	-	-	15,603	105%	-	-	184	110%
鹿児島	あきほなみ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全銘柄平均価格、合計数量		15,763	145,492	-	-	15,526	102%	-	-	173,038	84%

注：本表の注意点は、前々頁の脚注を参照。

3 スポット価格の状況

〔○ スポット取引は、相当期間にわたり安定的に行う相対取引等と性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。〕

スポット価格〔日本コメ市場株式会社〕

【平成30年度】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成30年 8月	9月	10月
北海道ゆめぴりか	日本コメ市場(取引会)		16,113	
	日本コメ市場(随時)		14,693	14,638
秋田あきたこまち	日本コメ市場(取引会)		14,690	
	日本コメ市場(随時)		14,571	14,581
茨城コシヒカリ	日本コメ市場(取引会)	14,220	14,470	
茨城あきたこまち	日本コメ市場(取引会)		13,862	
千葉コシヒカリ	日本コメ市場(取引会)	14,226		
千葉ふさおとめ	日本コメ市場(取引会)	13,700		
新潟コシヒカリ(一般)	日本コメ市場(随時)		16,493	
	日本コメ市場(取引会)		16,500	

【平成29年度】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成29年 8月	9月	10月	11月	12月	平成30年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
北海道きらら397	日本コメ市場(随時)						15,600							
青森つがるロマン	日本コメ市場(随時)										14,175			
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場(随時)								15,608					
秋田あきたこまち	日本コメ市場(随時)		15,193	15,508	15,756	15,700	15,846				14,916	14,400	14,198	
	日本コメ市場(取引会)		15,297				16,052		15,696	15,042			14,214	14,000
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場(随時)		14,600		15,003		15,391		15,632					
	日本コメ市場(取引会)				15,003				15,521	15,176				
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)						15,033		15,078				14,021	
茨城コシヒカリ	日本コメ市場(随時)			14,903			15,474	15,584	15,820	15,550			14,420	
	日本コメ市場(取引会)						15,453		15,771				14,442	
茨城あきたこまち	日本コメ市場(取引会)		14,600							14,474				
栃木コシヒカリ	日本コメ市場(随時)					15,100		15,875	15,805	15,300	14,975			
栃木あさひの夢	日本コメ市場(取引会)				14,510									
千葉コシヒカリ	日本コメ市場(取引会)	14,550	14,680		15,000					15,095				
千葉あきたこまち	日本コメ市場(取引会)	14,387												
千葉ふさこがね	日本コメ市場(取引会)		14,225		14,600		14,880						13,400	
千葉ふさおとめ	日本コメ市場(取引会)	14,003												
新潟コシヒカリ(一般)	日本コメ市場(随時)		15,613				16,539	16,785	16,920	17,064	17,154	17,661	17,661	
	日本コメ市場(取引会)		15,500		16,271		16,524	17,050	17,232				17,651	16,850

【平成28年度】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
北海道なつぼし	日本コメ市場(取引会)									15,193				
北海道きらら397	日本コメ市場(随時)								14,106					
青森まっしぐら	日本コメ市場(取引会)		12,925											
青森つがるロマン	日本コメ市場(随時)				13,093	13,175		13,451						
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)					13,500	13,557		13,500					
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場(随時)							13,550					14,367	
	日本コメ市場(取引会)												14,700	
秋田あきたこまち	日本コメ市場(随時)		13,507	13,691	13,635	13,646	13,893	14,544	14,466	14,419	14,958	15,300	15,600	
	日本コメ市場(取引会)		13,471			13,731	13,883		14,391	14,614			15,500	
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場(随時)			13,200			13,160			13,533	13,550	14,390		
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場(取引会)									13,360				
茨城コシヒカリ	日本コメ市場(随時)								13,481	13,631	14,011	14,250		
	日本コメ市場(取引会)	13,151	13,450				13,441		13,495	13,700				13,997
茨城あきたこまち	日本コメ市場(取引会)	12,834												14,043
栃木コシヒカリ	日本コメ市場(随時)				13,200	13,147	13,500	13,586	13,601	13,725	13,765	14,168		
	日本コメ市場(取引会)					13,145							14,350	
栃木あさひの夢	日本コメ市場(取引会)					12,900	12,919							
千葉ふさこがね	日本コメ市場(取引会)		12,913						13,310					
千葉ふさおとめ	日本コメ市場(取引会)	12,661												
新潟コシヒカリ(一般)	日本コメ市場(随時)										14,717	14,864	14,933	
	日本コメ市場(取引会)		15,231			14,400	14,325		14,117	13,950			15,300	
富山コシヒカリ	日本コメ市場(取引会)												14,412	14,550

出典：日本コメ市場株式会社HP

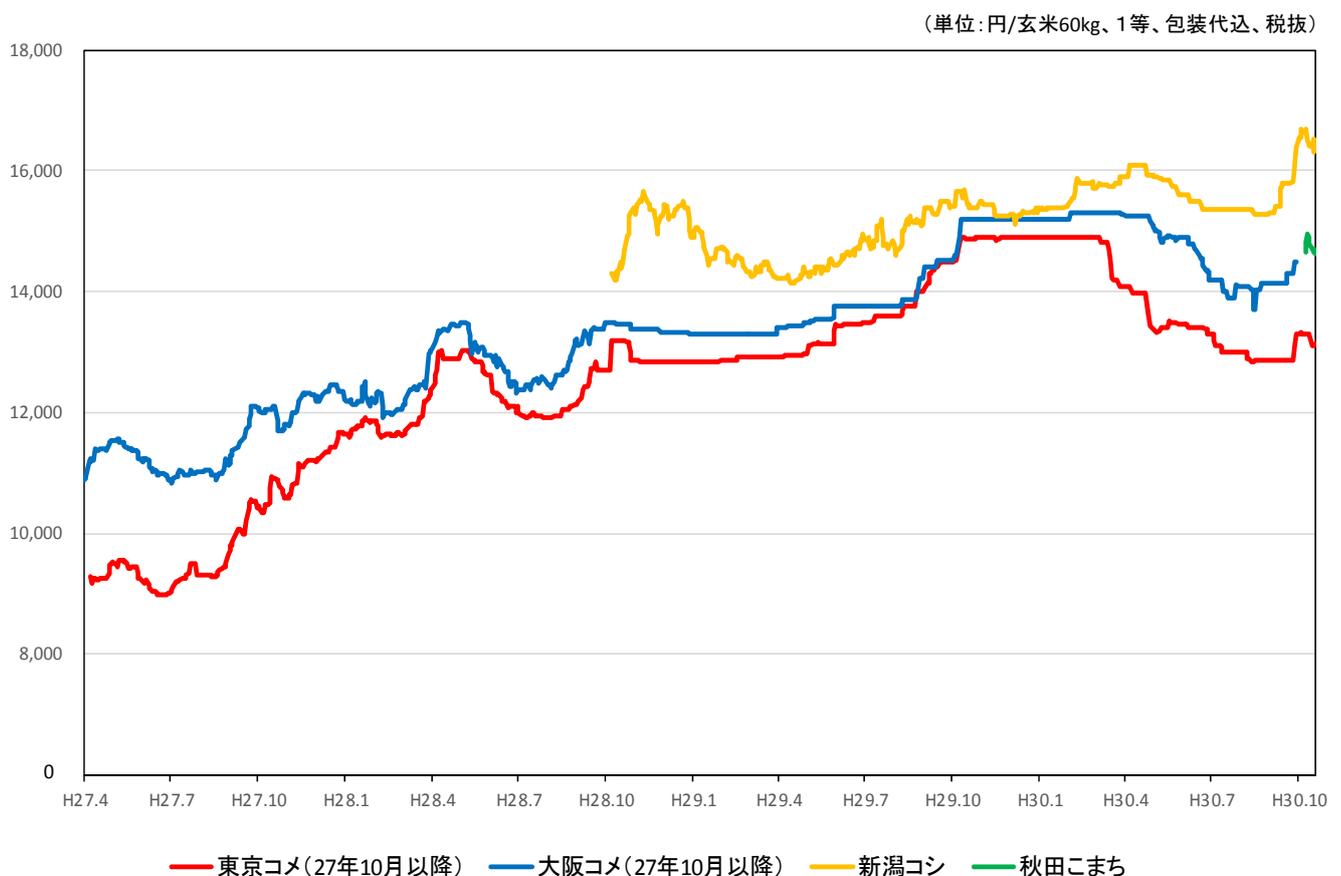
注：1 日本コメ市場(随時)の価格は、随時取引(取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引)の下期(16日～月末分)。ただし、下期が公表されていない場合は上期)の価格で、関東到着基準、1等、包装代込の価格。

2 日本コメ市場(取引会)の価格は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において日本コメ市場、クリスタルライスの共同で開催される取引会での成約価格(取引数量により加重平均)であり、関東到着基準、1等、包装代込みの価格。

4 米の先物取引価格の推移（期先限月の終値）

- 平成30年11月1日の終値は、
 東京コメが平成31年4月限13,130円、
 新潟コシが平成31年10月限16,480円、
 秋田こまちが平成31年10月限14,640円、
 大阪コメが平成31年3月限14,500円（平成30年10月12日）となっている。

価格の推移（期先限月の終値）



出典：大阪堂島商品取引所

注1：東京コメは平成27年4月21日、新潟コシは平成28年10月21日、秋田こまちは平成30年10月22日、大阪コメは平成27年4月13日から平成30年11月1日までの価格の推移である。

注2：東京コメは栃木・群馬あさひの夢、埼玉彩のかがやき、千葉ふさおとめ・ふさこがね、新潟コシは新潟県産コシヒカリ、秋田こまちは秋田県産あきたこまち、大阪コメは滋賀・三重コシヒカリを標準品とした取引価格。いずれも1等、消費税抜き、運賃及び包装代を含む。

注3：期先限月とは、現物受渡や売買取引の期限が、その時点から最も先となる月。

注4：東京コメは、旧・東京穀物商品取引所で取引が開始され、平成25年2月に大阪堂島商品取引所に移管。大阪コメは、旧・関西商品取引所（現・大阪堂島商品取引所）で取引を開始。

日本の商品先物取引の仕組み

商品先物取引とは、将来の一定期日に一定の商品を売買することを約束して、その価格を現時点で決める取引のことです。

米の先物取引の商品設計

	東京コメ	新潟コシ	秋田こまち
標準品 (取引の対象)	・あさひの夢(栃木・群馬) ・彩のかがやき(埼玉) ・ふさおとめ・ふさこがね(千葉)	・コシヒカリ(新潟)	・あきたこまち(秋田)
受渡供用品	水稻うるち玄米	コシヒカリ(新潟)	あきたこまち(秋田)
取引期限	最長で12か月先(12か月以内の偶数月渡し) ※東京コメについては、6か月先(平成31年4月までに各限月を6か月から12か月先に順次変更予定)		
取引単位	200俵(12トン)／枚	25俵(1.5トン)／枚	204俵(12.24トン)／枚

注:「大阪コメ」(全国のコシヒカリを対象 50俵(3トン)／枚)については、H31年3月限を最後に新たな限月は発会しない。

標準品及び受渡供用品は、農産物検査法に基づく検査規格合格品。

用語の解説

先物取引 (さきものとりひき)	将来の一定の時期において、商品及びその対価の授受を約する売買取引であって、当該商品の現物の受渡し若しくは建玉の転売又は買い戻しによる差金の授受によって終了することのできる取引のこと。
限月(げんげつ)	先物取引において売買約定(やくじょう)を最終的に決済しなければならない月のこと。
月限(がつぎり)※	最終決済月が〇月であれば、〇月限と呼ぶ。例:9月限(くがつぎり)
枚(まい)	取引所における取引の基本となる取引数量または受渡数量を表す最小取引単位の呼称のこと。
出来高(できだか)	市場において売買約定の成立した数量のことをいう。
建玉(たてぎょく)	取引所において売買取引された売買約定によるもので、未決済のもの。
商品先物取引法※ (しょうひんさきものとりひきほう)	商品先物取引に関する法律。同法に基づき、商品取引所、商品取引清算機関、商品先物取引業者、商品先物取引協会(商品先物取引業者の自主規制組織)等に関する許認可・監督等を行っている。

出典:大阪堂島商品取引所HP「先物取引用語集」(※については、農林水産省が作成。)

商品先物取引の詳細につきましては、以下のURLを御覧下さい。
<http://www.maff.go.jp/j/shokusan/syoutori/index.html>

4 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成30年10月分)

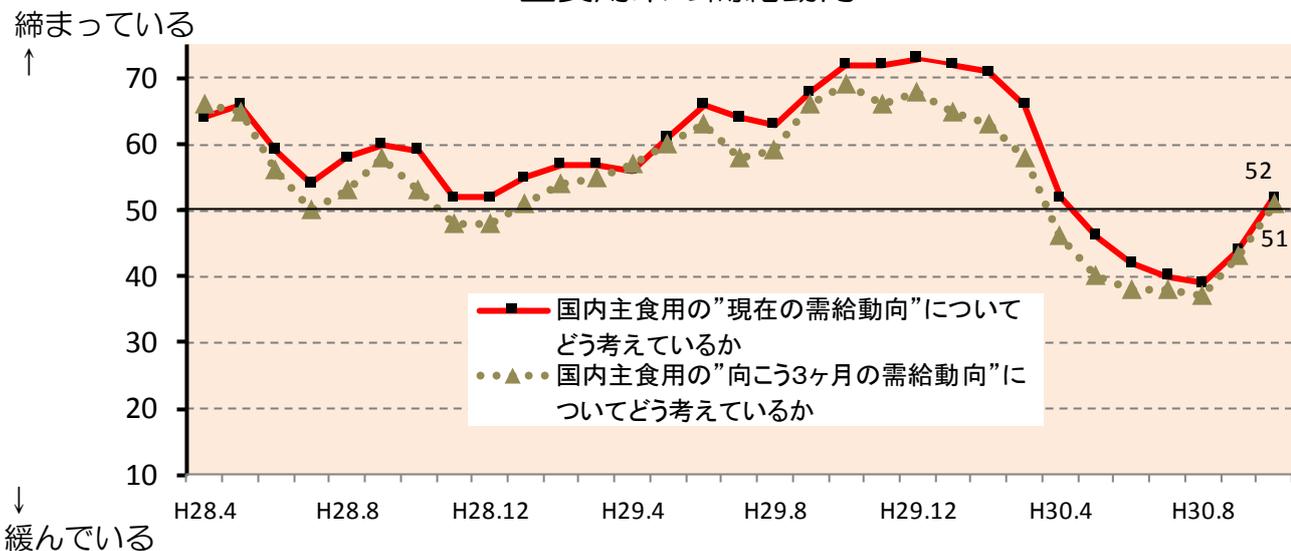
- 米穀機構が公表している米取引関係者の判断に関する調査(平成30年10月分)によると、主食用米の需給動向の現状判断は対前月比+8ポイント、見通し(向こう3ヶ月)判断は+8ポイント。

国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

① 主食用米の需給動向

(ア) 現状判断D I	前月からの増減	+8 (今月の数値 52)
(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月)	前月からの増減	+8 (今月の数値 51)

主食用米の需給動向



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来) 締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来) 緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

以上の他、「自社の取引状況に関する判断(業態ごと)」など
 詳細な情報は、米穀機構ホームページ(米ネット)を参照ください。
 【<http://www.komenet.jp/>】
 また、マンスリーレポート(資料編)にも掲載しております。

《アンケート方法等》

- 調査期間: 毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答
- 調査方法: 電子メールを利用したアンケート調査
- 調査対象者: 全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の164客体
- 有効回答数: 129客体
 - 生産者…………… 9
 - 集出荷業者/団体…………… 22
 - 卸売業者(主に主食用米) …… 28
 - 小売業者/中食・外食業者 …… 51
 - その他…………… 19

※「その他」は以下の業者です。
 ・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
 ・加工原材料米穀を使用し、加工食品(酒類を含む)を製造・販売する者

- 米価水準の現状判断は対前月比+3ポイント、見通し（向こう3ヶ月）判断は+5ポイント。

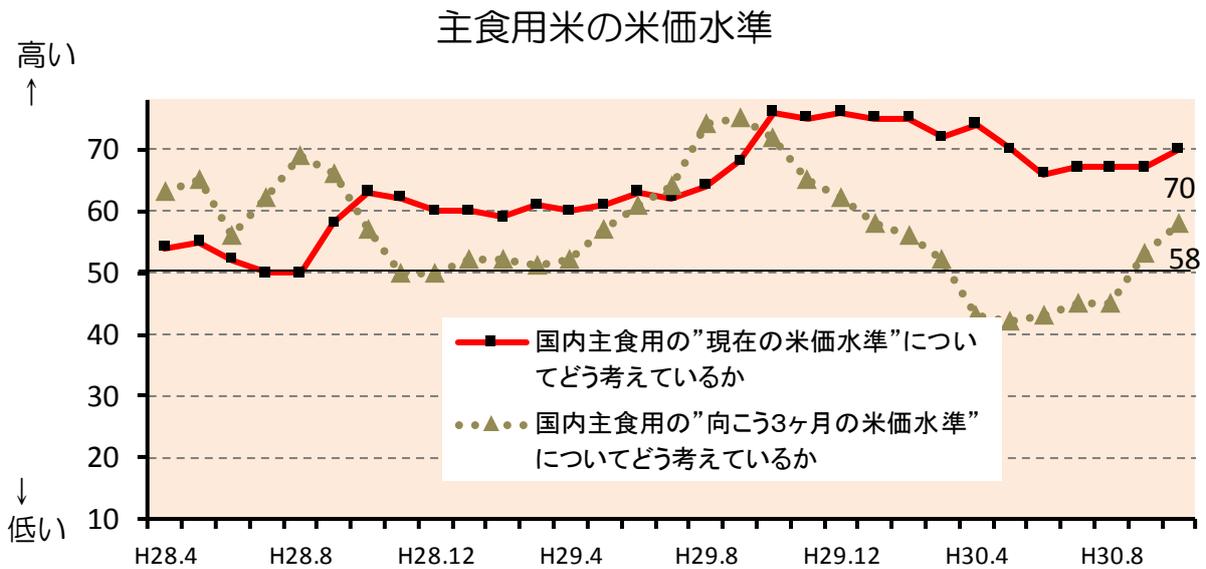
② 主食用米の米価水準

(ア) 現状判断DI

前月からの増減 +3 (今月の数値 70)

(イ) 見通し判断DI (向こう3ヶ月)

前月からの増減 +5 (今月の数値 58)



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

《利用上の注意》

○ 表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳が一致しないことがあります。

《DIの算出方法》

米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断(評価)にそれぞれ点数(評価点)を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じてDIを算出します。

ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ(量感)を表すものではありません。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが観測されることに注意が必要です。

《DIの算出例》

問: 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

Ⅳ 主食用米以外（輸出を含む）

1 30年産米の作付状況

- 平成30年産米の作付面積は、主食用米が138.6万ha、主食用米以外が約20.4万ha。
- 主食用米以外の取組は、新規需要米13.1万ha、加工用米5.1万ha、備蓄米2.2万ha。

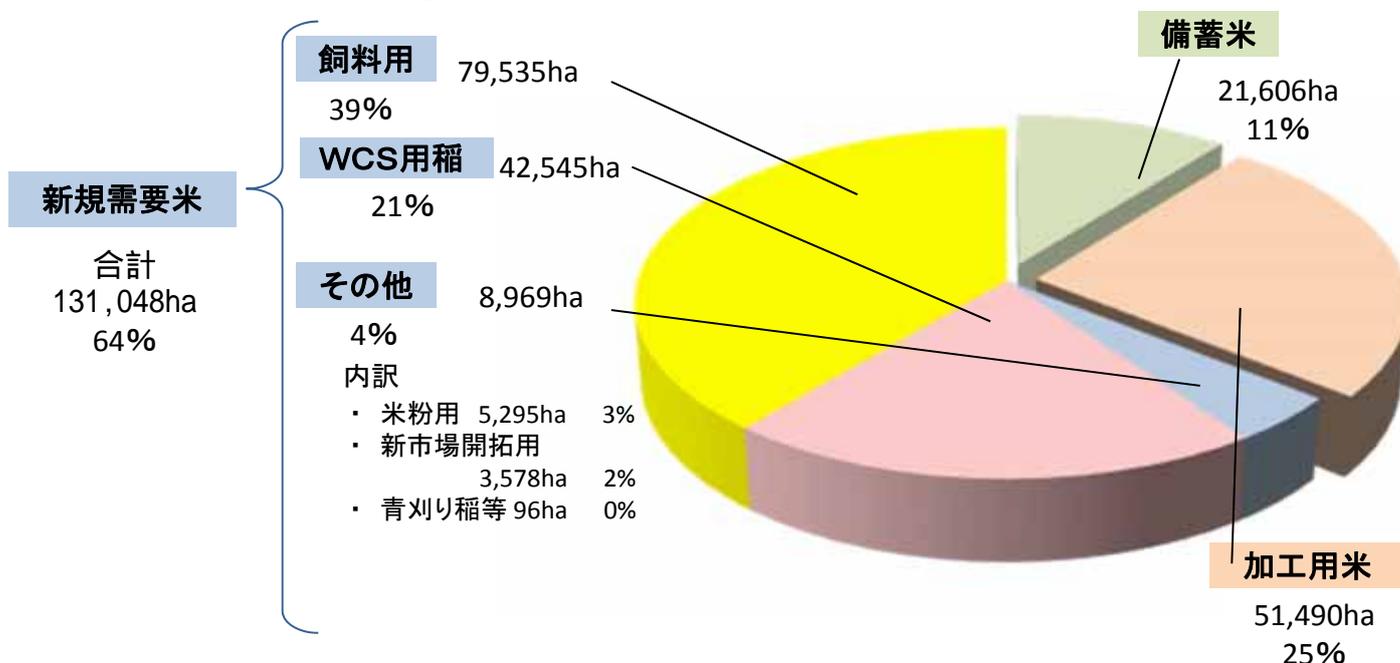
(1) 30年産米の用途別作付面積及び生産量

	計	主食用米	新規需要米	加工用米	備蓄米
作付面積 (万ha)	159.0	138.6	13.1	5.1	2.2
生産量 (万トン)		732.9	46.9	28.4	12.3

※主食用米は、10月15日現在の予想収穫量。それ以外の生産量は、計画生産量である。

※WCS、青刈り等専用稲は生産量に計上していない。

(2) 主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）



資料：農林水産省「新規需要米等の用途別認定状況の推移（認定計画版）」より

注1：加工用米及び新規需要米（米粉用米、飼料用米、WCS、新市場開拓用米）は取組計画の認定面積。

注2：備蓄米は、地域農業再生協議会が把握した面積。

(3) 新規需要米の用途別認定状況

	新規需要米（30年産）					
	飼料用米	米粉用米	新市場開拓用米	WCS用稲	青刈り用稲・わら専用稲	
作付面積 (ha)	131,048	79,535	5,295	3,578	42,545	96
計画生産量 (ト)	468,593	420,667	28,065	19,862		

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況（認定計画版）」より

注1：新規需要米の取組として認定を受けた平成30年9月15日現在の値。

注2：「WCS用稲」及び「わら専用、青刈り用稲」については子実を採らない用途であるため生産量を取りまとめていない。

注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

2 加工用米及び新規需要米の取組状況概要

- 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成29米穀年度における使用量は対前年と同程度の約97万トン（推計）。
- 種類別には、うるち米が約78万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約7割。残りの約3割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米。
- 特定米穀の流通量の減少及び価格の上昇により、味噌を中心に、外国産原料への転換が見られたところ。

(1) 29米穀年度（平成28年11月～29年10月）における加工原材料用米穀の使用状況（推計）

<うるち米>

（単位：万トン）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	12 (10)	9		3			24 (10)
米菓用	1	2		4	5	1	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	5	5					11
味噌用		1		2	7		10
焼酎用 (泡盛含む)		2		3	2		8
米穀粉用		1	2	1	2	1	8
その他用	1	1		1	1		4
合計	19	22	2	15	18	2	78

<もち米>

（単位：万トン）

制度 用途	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	3	3				1	8
米菓用	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	1						1
その他用						1	2
合計	6	6		1	2	5	19

- 注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。
 注2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米約8万トンを含んでいない。
 注3： 焼酎は単式蒸留しょうちゅう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。
 注4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。
 注5： 特定米穀とは、水稲収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。
 注6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

【推計根拠】

- 用途別の原料米使用量合計は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。
 清酒用・・・「清酒の製造状況等について」（国税庁）
 焼酎用・・・「課税移出数量」（国税庁）
 米菓用、米穀粉用、加工米飯用、味噌用、包装もち用、その他用・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量等
- 制度別の使用状況は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。
 主食用米・・・全国出荷団体等からの聞き取り。なお、酒造好適米は「酒造好適米の需要量調査」（農林水産省）等に基づく推計
 加工用米・・・「需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領」（農林水産省）に基づく報告
 新規需要米（米粉用米）・・・「米粉をめぐる状況について」（農林水産省）による利用量
 MA米（SBS含む）・・・「販売実績」（農林水産省）
 輸入米粉調製品・・・「貿易統計」（財務省）
 特定米穀・・・1で推計した用途別原料米使用量から主食用米、加工用米、新規需要米（米粉用米）、MA米及び輸入米粉調製品を差し引いた数量。

(2) 加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移

<うるち米>

(単位:万トン)

用途	米穀年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	26	11 (8)	9		4			24 (8)
	27	12 (9)	10		3			25 (9)
	28	13 (10)	9		3			25 (10)
	29	12 (10)	9		3			24 (10)
米菓用	26	1	1		5	3	2	12
	27	1	2		7	2	1	13
	28	1	2		6	3	1	12
	29	1	2		4	5	1	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26	5	5					10
	27	5	5					10
	28	5	5					10
	29	5	5					11
味噌用	26		1		3	6		10
	27		1		7	1		9
	28		1		6	2		9
	29		1		2	7		10
焼酎用 (泡盛含む)	26				6	3		9
	27		1		5	2		8
	28		2		4	2		8
	29		2		3	2		8
米穀粉用	26		1	3	1	2	1	8
	27		1	2	2	2	1	8
	28		1	2	1	3	1	8
	29		1	2	1	2	1	8
その他用	26	1			2	1		4
	27	1			2	1		4
	28	1	1		2	1		4
	29	1	1		1	1		4
合計	26	18	18	3	21	14	3	77
	27	18	22	2	24	9	2	77
	28	20	21	2	21	11	1	77
	29	19	22	2	15	18	2	78

<もち米>

(単位:万トン)

用途	米穀年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	26	3	1			1	2	7
	27	3	2				2	7
	28	3	2				2	8
	29	3	3				1	8
米菓用	26	2	1			1	2	6
	27	2	1		1	1	2	6
	28	1	2		1	1	1	6
	29	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	26	1					1	3
	27	1					1	3
	28	1	1				1	3
	29	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	26							1
	27	1						1
	28	1						1
	29	1						1
その他用	26						2	2
	27						1	2
	28						1	2
	29						1	2
合計	26	7	3		1	2	7	19
	27	7	4		1	1	6	19
	28	6	5		1	2	5	19
	29	6	6		1	2	5	19

注1: 清酒用の()書きは、酒造好適米で内数。

2: 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米を含んでいない。

3: 焼酎は単式蒸留しょうちゅう(穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの(酒税法第3条第10号))であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

4: その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

5: 特定米穀とは、水稻収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75~1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米(一般的に「くず米」と呼ばれているもの)の総称。

6: ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

3 酒造好適米の需給状況

(1) 日本酒の出荷状況

- 日本酒の国内出荷量は、ピーク時（昭和48年）には170万klを超えていたが、他のアルコール飲料との競合などにより、近年は50万kl台前半の水準まで減少。
- 一方、日本酒全体の国内出荷量が減少傾向で推移する中で、消費者の志向が量から質へと変化してきており、特定名称酒（吟醸酒、純米酒等）の出荷量は増加傾向で推移。
- また、輸出については、日本食ブーム等を背景に近年増加傾向で推移。

日本酒の国内出荷量の推移

(千kl)

年度	10年	15年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
日本酒国内出荷量	1,133	871	659	634	593	599	592	580	566	555	540	533
特定名称酒	291	221	174	165	159	159	161	164	167	173	178	179
吟醸酒	34	30	20	18	18	17	19	21	24	25	24	24
純米吟醸酒	25	26	24	23	23	25	27	29	32	37	42	45
純米酒	62	54	57	56	54	55	56	58	59	62	65	67
本醸造酒	169	111	73	68	64	61	60	56	52	49	46	43

資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。

注1：清酒は、一般酒のほか、原料米及び製造方法などの諸条件（原料、精米歩留）により、吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

注2：国内出荷量には輸出货量は含まれていない。

日本酒の輸出货量の推移

(千kl)

年度	10年	15年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
日本酒輸出货量	8	8	12	12	14	14	14	16	16	18	20	23
アメリカ合衆国	1	2	4	4	4	4	4	4	4	5	5	6
大韓民国	0	0	2	2	3	3	3	4	3	3	4	5
中国	0	0	0	0	1	0	1	1	1	2	2	3
台湾	4	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2
香港	1	1	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2
その他	2	2	3	3	4	3	4	4	4	5	5	6

資料：「貿易統計」（財務省）。年は暦年。

(2) 日本酒原料米の使用状況

- 日本酒の原料米は、一般的に流通している米のほか、酒造りのために作られた特別な米、「酒造好適米」（山田錦、五百万石など）が使用されている。
- 近年、日本酒の出荷量は減少傾向であるものの、製品当たりの米の使用量が多い特定名称酒が増加傾向にあるため、日本酒原料米の使用量は総じて堅調に推移。

日本酒原料米の使用状況

(千トン)

	10年産	15年産	20年産	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	28年産
日本酒原料米	405	315	261	246	232	238	241	243	248	251	241
酒造好適米									(4)	(7)	(7)
主食用米	99	75	77	71	65	65	68	76	90	99	97
加工用米	165	92	60	54	43	50	57	34	27	30	22
その他	86	89	74	72	77	71	79	95	105	94	93
その他	55	59	50	49	47	52	37	38	26	28	29

資料：日本酒造組合中央会による推計値。

注：酒造好適米の（ ）書きは生産数量目標の枠外で生産された数量で内数。

(3) 酒造好適米の生産量

- 酒造好適米の生産動向（農産物検査数量）は、近年増加傾向で推移。特に、平成27年産は、平成26年産主食用米（うるち米）の取引価格が大幅に低下したこと等により、酒造好適米の生産にシフトしたこと等から、前年産より約2割生産量が増加。
- 平成28年産以降は、需要に応じた生産によりやや減少に転じ、平成29年産は、五百万石を中心に生産量が減少し、前年産から▲4%程度の102千トン程度の生産量と見込まれる。

酒造好適米の生産量（農産物検査数量）の推移

(トン)

	10年産	15年産	20年産	21年産	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	
												対28年産比	
酒造好適米	99,448	74,854	76,788	71,098	65,283	65,461	68,335	75,813	90,185	108,797	106,618	102,423	96.1%
山田錦	24,639	22,853	21,399	21,126	19,418	20,027	21,217	23,081	29,812	39,528	37,257	38,687	103.8%
五百万石	33,282	23,169	24,186	19,949	18,688	18,888	18,798	20,602	22,596	27,078	26,030	20,983	80.6%
美山錦	11,304	7,487	7,016	6,543	6,309	5,367	6,052	6,426	7,786	7,838	7,513	7,018	93.4%
雄町	2,502	1,827	1,780	1,625	1,438	1,397	1,538	1,700	2,312	2,886	2,481	2,873	115.8%
その他	27,721	19,518	22,407	21,855	19,430	19,782	20,730	24,004	27,679	31,467	33,337	32,863	98.6%

資料：「農産物検査結果」（農林水産省）

注：29年産は、平成30年3月31日現在の速報値を直近3カ年の3月31日現在の農産物検査数量の進捗率により確定値見合いに推計したもの。

(4) 酒造好適米の需要量

- 酒造好適米の需要量については、平成30年度の需要量調査によると、平成30年産及び平成31年産は92～94千トン程度の需要量が見込まれ、ほぼ同水準で推移。

（参考）平成30年度 酒造好適米等の需要量調査の概要

- 日本酒の全酒造メーカー（1,461社）を対象として、平成30年7月に酒造好適米等の購入実績及び将来の購入見込数量を調査。716社から回答があり、数量ベースの回答率は約82～83%と推計される。

酒造好適米等の需要量調査結果

(トン)

	28年産	29年産		30年産		31年産	
			対28年産比		対28年産比		対28年産比
酒造好適米の需要量調査結果(実数)	79,996	77,371	96.7%	77,076	96.4%	76,883	96.1%
山田錦	32,524	31,643	97.3%	30,964	95.2%	30,932	95.1%
五百万石	18,790	17,099	91.0%	17,008	90.5%	16,807	89.4%
美山錦	4,714	4,562	96.8%	4,451	94.4%	4,357	92.4%
雄町	1,460	1,632	111.7%	1,655	113.4%	1,635	112.0%
その他	22,507	22,435	99.7%	22,998	102.2%	23,153	102.9%
酒造好適米の全体需要量(推計)	96～98千トン	93～95千トン		92～94千トン		92～94千トン	

資料：「平成30年度 酒造好適米等の需要量調査結果」（農林水産省）

注1：「酒造好適米の需要量調査結果(実数)」は、平成30年度酒造好適米等の需要量調査において回答のあった酒造メーカーの需要量の積み上げの実数。

注2：「酒造好適米の全体需要量(推計)」は、平成30年度酒造好適米等の需要量調査において回答のあった酒造メーカーの需要量が全体需要量の約82～83%と推計されるため、今回調査した各年産の需要量を当該割合で除することにより推計。

産地銘柄毎の需要量等の酒造好適米に関する詳細な情報は、以下URLの「日本酒をめぐる状況」及び「酒造好適米等の需要量調査結果等」を参照ください。

URL：http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html

4 飼料用米の需要量

- 畜産側の平成30年産に係る飼料用米の年間需要量は、約120万トン。
〔農林水産省生産局畜産部飼料課調べ〕
- ① 全農グループ飼料会社：約68万トン（米使用可能数量約82万トンのうちMA米・備蓄米を含まない数量）
- ② (協)日本飼料工業会組合員工場：約42万トン～62万トン（MA米・備蓄米を含まない数量）
- ③ 全国酪農業協同組合連合会：約1万トン（MA米、備蓄米を含む米使用可能数量）
- ④ 日本養鶏連：約4万トン（MA米、備蓄米を含む米使用可能数量）
- ⑤ 畜産農家：約2万トン〔63件〕（新規需要量、平成30年6月29日現在の報告分。追加情報は随時更新）
- 上記の地域別内訳、問い合わせ先は以下のとおり。

① 全農グループ飼料会社の飼料用米の使用可能数量（平成30年1月現在）

地区	年間使用可能数量 (千トン)	備考
北海道	88	ホクレンくみあい飼料
東北	217	JA全農北日本くみあい飼料
関東	146	JA東日本くみあい飼料・科学飼料研究所
北陸	30	JA東日本くみあい飼料
東海	46	〃
近畿・中国	46	JA西日本くみあい飼料
四国	32	〃
北九州	49	ジェイエイ北九州くみあい飼料
南九州	162	南日本くみあい飼料・科学飼料研究所
合計	817	

- (※) 使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
- (※) 畜種別の使用割合は、グループ内の飼料会社からの間取りをもとに、採卵鶏約33%、豚約29%、ブロイラー約19%、肉用牛約13%、乳用牛約6%と推計。
- (※) 実際の使用にあたっては、搬入方法等により制限される可能性がある。
- (※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先: JA全農 耕種総合対策部飼料用米対策課 TEL: 03-6271-8279

② 日本飼料工業会組合員の工場の飼料用米需要量見込み（平成30年1月調査）

地区	需要量 (千トン: 単年度)	備考
北海道	14~36	
東北	114~155	
関東	107~117	
中部	44~49	
関西	55~82	
九州	84~177	
合計	418~618	

- (※) 輸入トウモロコシ価格以下であることが前提、価格水準により需要量は変動する。
- (※) 上記の需要量には、MA米、備蓄米は含まない。
- (※) 畜種別の使用割合は、組合員の一部の工場からの間取りをもとに、豚約35%、ブロイラー約32%、採卵鶏約30%、乳用牛約2%、肉用牛約1%と推計。
- (※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

(協)日本飼料工業会は「飼料用米ダイヤル」を設置し、飼料用米を生産して売りたい産地の生産者や集荷業者、JA、飼料用米を使用したい傘下の全国の飼料メーカー(工場)との仲介を実施。

問い合わせ先: 「飼料用米ダイヤル」 TEL: 03-3583-8031 E-mail: Esamai@jafma.or.jp

③ 全国酪農業協同組合連合会の飼料用米の使用可能数量（平成30年1月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン)	備考
北海道	9.8	政府所有米穀(MA米)使用
東北	2.0	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
関東	1.2	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
中部	0.4	新規需要米使用
関西	1.0	政府所有米穀(MA米)と新規需要米併用
九州	0.0	
合計	14.4	

- (※) 使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
- (※) 畜種別の使用割合は、29年度の使用実績では、乳用牛約85%、肉用牛約15%。
- (※) 実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。
- (※) 輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量。
- (※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先: 全国酪農業協同組合連合会 購買生産指導部 TEL: 03-5931-8007

④ 日本養鶏連の飼料用米の使用可能数量（平成30年1月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン: 単年度)	備考
北海道	0.0	
東北	0.5	*粳米、不可
関東	1.5	
北陸	0.0	
東海	1.2	
近畿・中国	6.0	*粳米、不可
四国	0.0	
九州	26.0	*一部、粳米不可
合計	35.2	

- (※) 使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
- (※) 畜種別の使用割合は、29年度の使用実績では、採卵鶏約70%、ブロイラー約25%、その他約5%。
- (※) 実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。
- (※) 輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量。
- (※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先: 日本養鶏連 事業部 TEL: 03-5296-7041

⑤ 畜産農家の平成30年産飼料用米の新規需要量（平成30年6月29日現在）

都道府県	新規需要量		うち確保済み	
	件数	数量（トン）	件数	数量（トン）
北海道	2	5		
岩手県	6	2,151	3	500
宮城県	1	2,400		
茨城県	3	30		
群馬県	2	250	1	50
埼玉県	1	1		
千葉県	6	6,850	2	1,170
山梨県	8	53		
長野県	10	819	10	819
静岡県	1	5		
愛知県	2	220	2	220
大阪府	2	12	1	10
奈良県	5	1,610		
広島県	1	200		
香川県	4	110		
福岡県	2	1,272	1	72
長崎県	3	280		
大分県	2	2,020		
宮崎県	2	2,254		
合計	63	20,543	20	2,841

(※) 供給先が確保されていない新たな需要及びマッチング状況について、都道府県から報告のあった件数・数量を記載（現在とりまとめ中の都道府県もあり）。

(※) 追加の希望があれば随時更新。

(※) 畜種別の使用割合は都道府県の報告から、肉用牛4件1,573トン、乳用牛10件1,637トン、豚16件3,852トン、採卵鶏23件8,963トン、ブロイラー5件2,053トン、その他5件2,464トン。

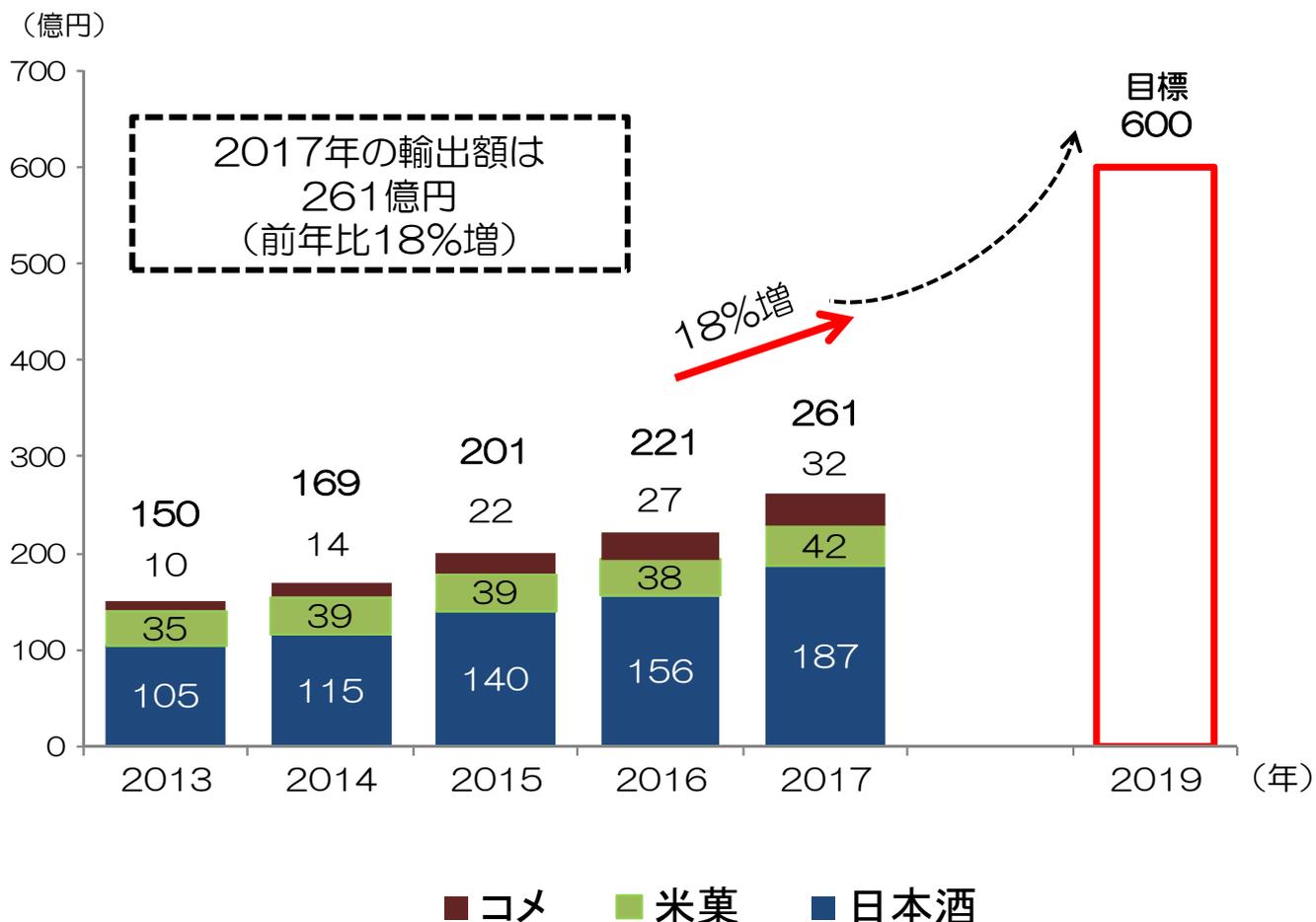
(※) 四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある。

問い合わせ先：生産局畜産部飼料課 TEL：03-3502-5993

5 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について

- 「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を2020年（平成32年）までに600億円とすることが決定。
- 2020年（平成32年）の輸出額1兆円目標について、「未来への投資を実現する経済対策」（平成28年8月決定）において、平成31年に1年前倒しすることとされ、オールジャパンでの輸出拡大を推進。
- 2017年の輸出額は、261億円（前年比18%増）。

コメ・コメ加工品の輸出状況



コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額

	日本酒		米菓		コメ	
	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
2013年	16,202	10,524	3,606	3,487	3,121	1,030
2014年	16,314	11,507	4,012	3,944	4,516	1,428
2015年	18,180	14,011	3,679	3,869	7,640	2,234
2016年	19,737	15,581	3,567	3,808	9,986	2,709
2017年	23,482	18,679	3,849	4,186	11,841	3,198

資料：財務省「貿易統計」（政府による食料援助を除く。）

注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

6 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

2020年に向けた輸出額目標

「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を600億円とすることとしている。

輸出拡大に向けた対応方向

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、精米だけでなく、包装米飯・日本酒・米菓も含めたコメ加工品の輸出に力を入れることとしている。

【コメ（包装米飯含む）】

現地での精米の取組や炊飯ロボットと合わせた外食への販売など、日本米のプレゼンスを高める取組を推進。

重点国

新興市場：台湾、豪州、EU、ロシア、中国、米国等

安定市場：香港、シンガポール



【米菓】

相手国のニーズに合った商品の開発、手軽なスナックとしてのプロモーション強化。

重点国

新興市場：中東、中国、EU

安定市場：台湾、香港、シンガポール、米国



【日本酒】

発信力の高い都市や重点市場でのイベント・事業を実施するほか、セミナー等を通じて、日本酒の良さについて普及。日本酒の生産増に対応した酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

重点国

新興市場：EU、台湾、中国、ブラジル、ロシア、韓国

安定市場：米国、香港



輸出拡大に向けた取組

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、他の品目に先がけて、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）を平成26年11月27日に立ち上げ、統一ロゴマークの開発・発表、海外でのPRイベント等を開催。

日本産米輸出の統一ロゴマーク



THIS IS
JAPAN QUALITY
日本のおいしい米。



（注）QRコードから、日本産米のPR映像が流れるHPへリンク

V 支援事業等

(1) 水田活用の直接支払交付金

- 米政策改革の定着に向け、食料自給率・自給力の向上に資する飼料用米、麦、大豆等の戦略作物の本作化とともに、産地交付金により、地域の特色ある魅力的な産品による産地の創造を支援します。

水田活用の直接支払交付金(1)

【平成31年度予算概算要求額:3,304(3,304)億円】

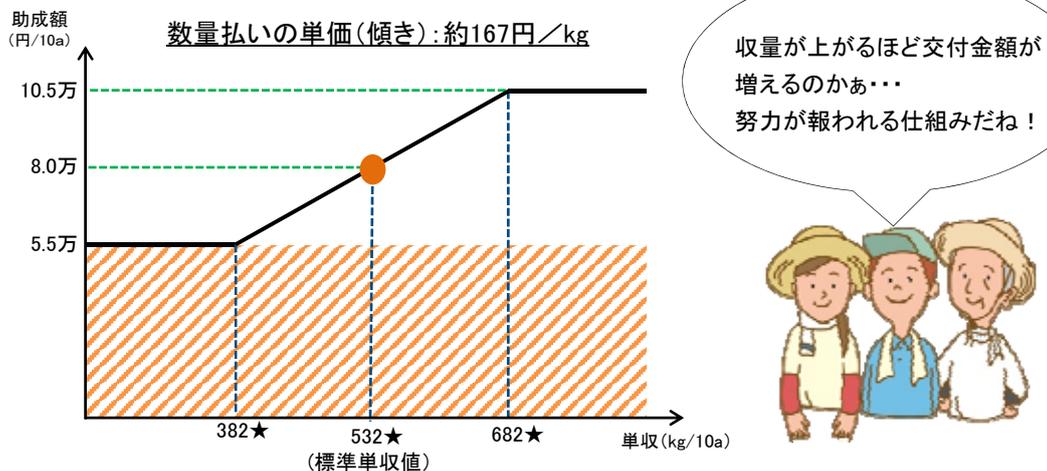
支援内容

① 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物※	3.5万円/10a
WCS用稲	8.0万円/10a
加工用米	2.0万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 5.5万円～10.5万円/10a

※ 子実用とうもろこし(飼料用)を含む

<飼料用米、米粉用米の交付単価のイメージ>



- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量確認を受けていることを条件とします。
- ★は全国平均の平年単収(標準単収値)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、地域農業再生協議会が当該地域に応じて定めている単収(地域の合理的な単収)を適用します。なお、地域の合理的な単収は当年産の作柄(作柄表示地帯別)に応じて調整します。

<標準単収値の作柄調整の考え方>

$$\text{標準単収値} = \text{地域の合理的な単収} \times \frac{\text{当年産のふるい目1.70mm以上の10アール当たり収量}}{\text{ふるい目1.70mm以上の10アール当たり平年収量}}$$

(小数点以下切り上げ)

水田活用の直接支払交付金(2)

② 産地交付金

- 地域で作成する「水田フル活用ビジョン」に基づき、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援します。
- 国から配分する資金枠の範囲内で、都道府県や地域農業再生協議会が助成内容(交付対象作物・取組・単価等)を設定できます(一定割合以上は県段階で支援内容を決定)。
- また、地域の取組に応じた追加配分(下表参照)を行います。

対象作物等	取組内容	配分単価
飼料用米、米粉用米	多収品種の取組	1.2万円/10a
そば、なたね	作付けの取組 (※基幹作のみ)	2.0万円/10a
新市場開拓用米	作付けの取組 (※基幹作のみ)	2.0万円/10a
畑地化	交付対象水田からの除外	10.5万円/10a

上記のほか、

- ① 前年度実績よりも転換作物が拡大し、主食用米の作付面積が減少した都道府県に対し、その面積に応じて1.0万円/10aを配分する(転換作物拡大加算)とともに、
- ② その際、高収益作物等の作付面積が拡大した場合には、その面積に応じて、2.0万円/10aを更に追加配分(高収益作物等拡大加算)します。

水田活用の直接支払交付金の支払面積等

- 支払対象者数は42万5千件で、平成28年度の支払実績と比べて3万2千件減少。
- 支払面積は、戦略作物(基幹作物)全体では44万7千haと、平成28年度とほぼ同水準。
- 作物別には、
 - (ア) 麦は、北海道で減少したこと等により、1千ha減の9万8千ha
 - (イ) 大豆は、平成28年度からほぼ横ばいの8万9千ha
 - (ウ) 飼料作物は、平成28年度からほぼ横ばいの7万2千ha
 - (エ) 新規需要米(WCS用稲、米粉用米、飼料用米)は、3千ha増の13万9千ha
 - (オ) 加工用米は、北海道で拡大したこと等から増加し、9百ha増の4万9千ha

(1) 水田活用の直接支払交付金の支払対象者数

	支払対象者数 (件)			
	個人	法人	集落営農	
平成29年度	424,823	407,774	11,443	5,606
平成28年度	457,225	440,118	11,037	6,070
対前年度比較	▲32,402	▲32,344	+406	▲464

(2) 水田活用の直接支払交付金における戦略作物の支払面積

基幹作物

(単位: ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米	新規需要米			加工用米	合計	(参考)		
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね	備蓄米
平成29年度	98,173	88,638	72,424	138,621	42,340	5,271	91,009	48,684	446,540	26,155	727	34,345
平成28年度	99,365	87,941	72,441	135,370	41,105	3,501	90,764	47,817	442,935	26,038	649	39,333
対前年度比較	▲1,192	+697	▲17	+3251	+1235	+1770	+245	+867	+3605	+117	+78	▲4,989

- 平成26年度から導入した米粉用米及び飼料用米の数量払い分の対象面積、数量、平均単収については、
 - (ア) 米粉用米では、5千3百ha(1千8百ha増)、2万8千トン(9千4百トン増)
538kg/10a
 - (イ) 飼料用米では、8万9千ha(3百ha増)、49万トン(6千トン減)
549kg/10a

(3) 米粉用米、飼料用米(数量払い分)の支払面積、支払数量、平均単収

(単位: ha、トン、kg/10a)

	米粉用米			飼料用米		
	面積	数量	単収	面積	数量	単収
平成29年度	5,257	28,272	538	89,238	489,687	549
平成28年度	3,487	18,896	542	88,900	496,017	558
対前年度比較	1,770	9,376	▲4	339	▲6,330	▲9

注) 飼料用米等の数量払いは平成26年度から実施している。
 面積は、数量払いで交付した面積であるため、前記戦略作物の支払面積と異なっている。
 数量は、農産物検査機関による数量確認を受けた数量、単収は上記「数量」/「面積」により算出。
 数量払いの実績には、農産物検査を受けていない取組及び飼料用米を生もみで出荷又は利用する取組の面積及び数量は含まない。

(2) 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

- 諸外国との生産条件の格差により不利がある国産農産物（麦、大豆等）について、引き続き生産コストと販売額の差に相当する額を直接交付。

畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【平成31年度予算概算要求額：1,985(2,065)億円(所要額)】

(1) 支援内容（数量払）

① 麦類

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (ハク・中華麺用品種:60kg当たり)	8,990円	8,490円	8,340円	8,280円	7,830円	7,330円	7,180円	7,120円
小麦 (上記品種以外:60kg当たり)	6,690円	6,190円	6,040円	5,980円	5,530円	5,030円	4,880円	4,820円
二条大麦 (50kg当たり)	5,520円	5,100円	4,980円	4,930円	4,660円	4,240円	4,110円	4,060円
六条大麦 (50kg当たり)	6,000円	5,580円	5,450円	5,400円	4,970円	4,550円	4,430円	4,380円
はだか麦 (60kg当たり)	8,610円	8,110円	7,960円	7,870円	7,040円	6,540円	6,390円	6,310円

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分。A~Dランク:たんばく質の含有率等の違いで区分

② 大豆

品質区分(等級)	1等	2等	3等
普通大豆(60kg当たり)	9,940円	9,250円	8,570円
特定加工用大豆(60kg当たり)	7,890円		

特定加工用:豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆

③ そば

品質区分(等級)	1等	2等
45kg当たり	17,470円	15,360円

等級:容積重の違いや被害粒の割合で区分

④ なたね

品質区分(品種)	キザキノナタネ キラリボシ ナナシキブ	その他の 品種
60kg当たり	9,940円	9,200円

⑤ てん菜

品質区分(糖度)	← (+0.1度)	16.3度	→ (▲0.1度)
1t当たり	+ 62円	7,180円	▲ 62円

糖度:てん菜の重量に対するしょ糖の含有量

⑥ でん粉原料用ばれいしょ

品質区分 (でん粉含有率)	← (+0.1%)	19.5%	→ (▲0.1%)
1t当たり	+ 64円	11,610円	▲ 64円

でん粉含有率:ばれいしょの重量に対するでん粉の含有量

(2) 支援内容 (面積払 (営農継続支払))

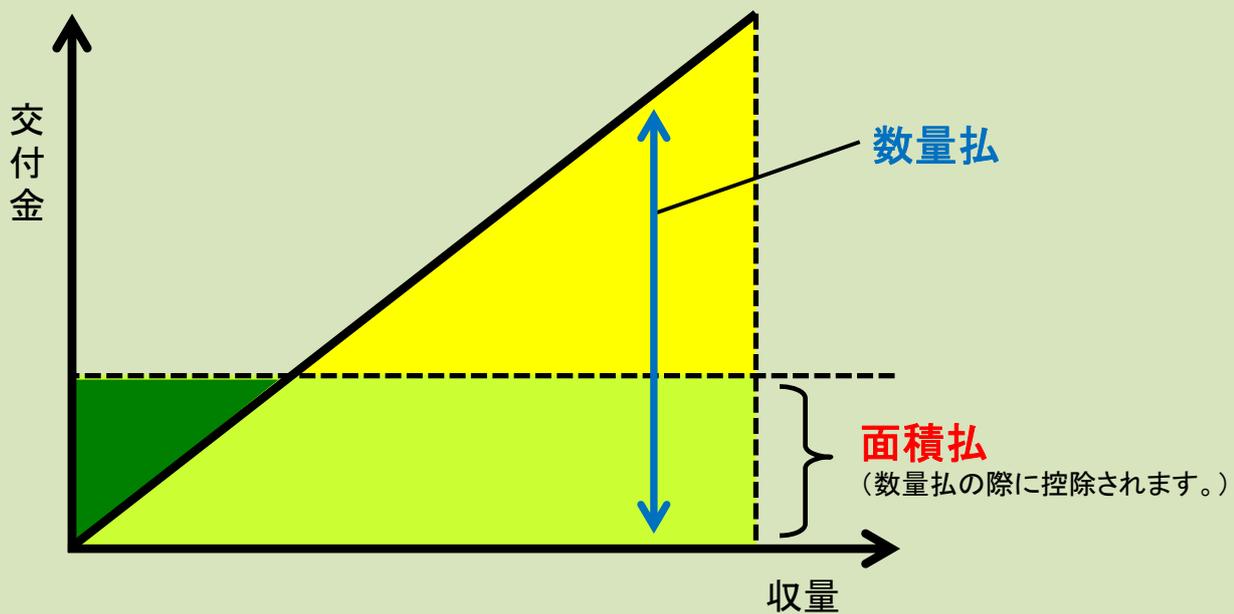
① 交付対象面積

当年産の作付面積に応じて交付

② 交付単価

10aあたり2万円
※「そば」は、10aあたり1万3千円

③ 数量払と面積払の関係



交付対象者

認定農業者、集落営農、認定新規就農者
(いずれも規模要件は課しません。)

対象作物

麦、大豆、そば、なたね

※ビール用麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象外

てん菜、でん粉原料用ばれいしょ

※北海道産のみ

(3) 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）

米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)

【平成31年度予算概算要求額:837(746)億円(所要額)】

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）は、農家抛出を伴う経営に着目したセーフティーネットであり、米及び畑作物の農業収入全体の減少による影響を緩和するための保険的制度です。

(1) 交付対象者

支援の対象となる農業者は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者です（いずれも規模要件はありません）。

※ 集落営農の要件は、2要件（組織の規約の作成、対象作物の共同販売経理の実施）に緩和し、「農業経営の法人化」及び「地域における農地利用の集積」については、市町村が確実に行われると判断するものとします。

(2) 対象農産物

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょです。

- ※1 ビール麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象となりません。
- ※2 てん菜、でん粉原料用ばれいしょは、北海道で生産されるものが対象です。

【10a当たり標準的収入額とは】

通常年に想定される収入額として、前年産以前5カ年の収入額のうち、最高年と最低年を除いた3カ年の平均収入額で、品目ごと、地域ごとに計算しています。各年産の収入額は、米であれば、地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、地域の実単収を乗じて算出します。

【10a当たり当年産収入額とは】

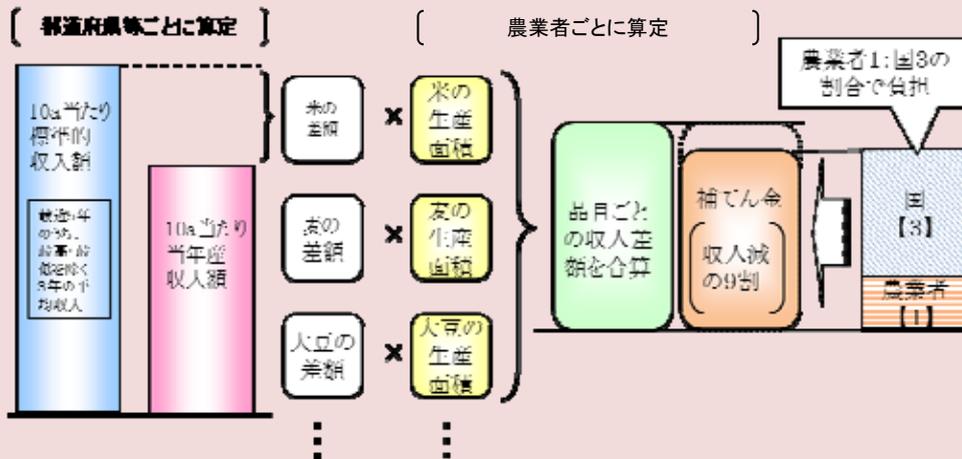
当年産の収入額として、品目ごと、地域ごとに計算しています。当年産の収入額は、米であれば、当年産の地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、当年産の地域の実単収を乗じて算出します。

(3) ナラシ対策の仕組み

- 農業者の米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 0.9$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。
- このため、補てんを受けるには、農業者からの積立金の抛出が必要となります。
- 補てん後の積立金の残額は、翌年産へ繰り越されるため、掛け捨てとはなりません。



(4) 収入保険との関係

- 収入保険導入（平成31年1月）以降は、農業者は収入保険かナラシ対策のどちらかを選択して加入することができます。

(参考) 平成29年産ナラシ対策の支払実績 (平成30年8月31日現在)

全 国 都 道 府 県		加入件数 (件)	支払件数 (件)	補てん総額 (億円)
全 国		103,359	18,737	54.44
北 海 道		19,072	4,533	16.92
東	青 森 県	4,780	84	0.52
	岩 手 県	3,113	54	0.23
	宮 城 県	4,108	290	2.18
	秋 田 県	8,378	185	1.18
北	山 形 県	7,636	38	0.18
	福 島 県	4,750	38	0.14
関	茨 城 県	3,004	61	0.17
	栃 木 県	5,171	86	0.21
	群 馬 県	932	6	0.02
	埼 玉 県	1,200	3	0.00
	千 葉 県	994	3	0.00
	東 京 都	3	—	—
	神 奈 川 県	121	2	0.00
	山 梨 県	122	9	0.01
東	長 野 県	1,378	41	0.23
	静 岡 県	316	—	—
北 陸	新 潟 県	12,228	10,198	22.05
	富 山 県	1,470	172	0.50
	石 川 県	1,752	23	0.04
	福 井 県	1,146	102	0.25
東 海	岐 阜 県	645	83	0.27
	愛 知 県	571	75	0.51
	三 重 県	901	707	1.47
近 畿	滋 賀 県	2,247	725	3.23
	京 都 府	313	7	0.00
	大 阪 府	34	—	—
	兵 庫 県	1,008	26	0.03
	和 歌 山 県	82	3	0.00
中 国 ・ 四 国	鳥 取 県	363	39	0.09
	島 根 県	667	4	0.00
	岡 山 県	787	1	0.00
	広 島 県	482	3	0.00
	山 口 県	770	21	0.05
	徳 島 県	146	1	0.00
	香 川 県	591	4	0.00
	愛 媛 県	571	24	0.09
	高 知 県	198	1	0.01
	九 州	福 岡 県	2,069	513
佐 賀 県		1,531	167	0.26
長 崎 県		682	26	0.01
熊 本 県		3,204	132	0.89
大 分 県		1,290	210	0.44
宮 崎 県		1,540	16	0.03
沖 縄 県	鹿 児 島 県	830	21	0.03
沖 縄 県	100	—	—	

(注1) 加入件数は、平成29年7月31日時点(福岡県及び大分県は9月末時点)の積立金納付者の件数である。

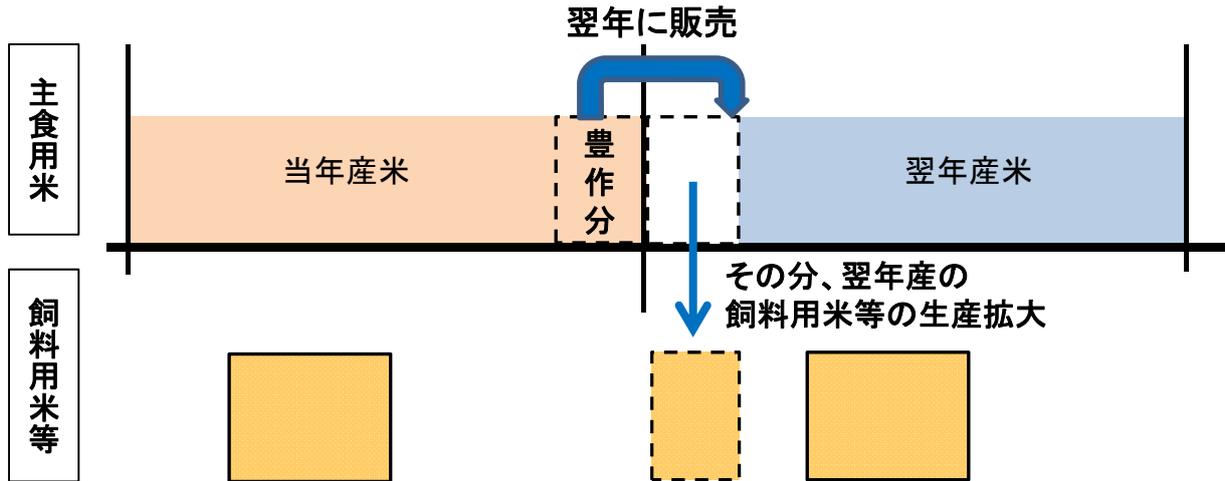
(注2) 支払件数及び補てん総額は、平成30年8月31日時点の数値である。

(注3) ラウンドの関係で合計数値は一致しない場合がある。

(4) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

① 主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：31年度予算概算要求額50億円（対前年同額））
- 平成30年産に向けては、必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。
（水田活用の直接支払交付金：31年度予算概算要求額 3,304億円（対前年同額））



② 米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

<対策のポイント>

生産者、集荷業者・団体の自主的な取組により需要に応じた生産・販売が行われる環境を整備し、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を実施する体制を構築するため、民間主導のコメの周年供給・需要拡大等に対する取組を支援。

<政策目標>

生産者、集荷業者・団体による自主的な経営判断や販売戦略に基づく、需要に応じた米の生産・販売の実現

<事業の内容>

<事業イメージ>

全国事業

1. 業務用米等の安定取引拡大支援

産地と中食・外食事業者等との安定取引を拡大するため、民間団体が行う業務用米の生産・流通の拡大に向けたセミナー、展示商談会を支援します。

産地

2. 周年供給・需要拡大支援

産地において、あらかじめ生産者等が積立てを行い、以下の取組を実施する場合に支援します（ ）。

主食用米を翌年から翌々年以降に長期計画的に販売する取組（収穫前契約や複数年契約の場合は追加的に支援）

主食用米を輸出向けに販売する際の商品開発、販売促進等の取組

主食用米を業務用向け等に販売する際の商品開発、販売促進等の取組

主食用米を非主食用へ販売する取組

また、取引参加者の利便性を向上させるため、現物市場が共同でシステムの開発・導入を行う場合等に支援します。

<事業の流れ>



1. 業務用米等の安定取引拡大支援

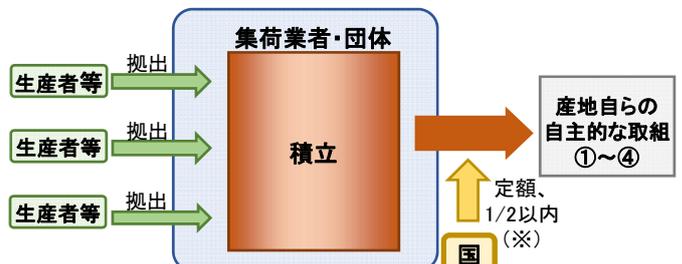
〔業務用米取引セミナー〕



〔展示商談会〕



2. 周年供給・需要拡大支援



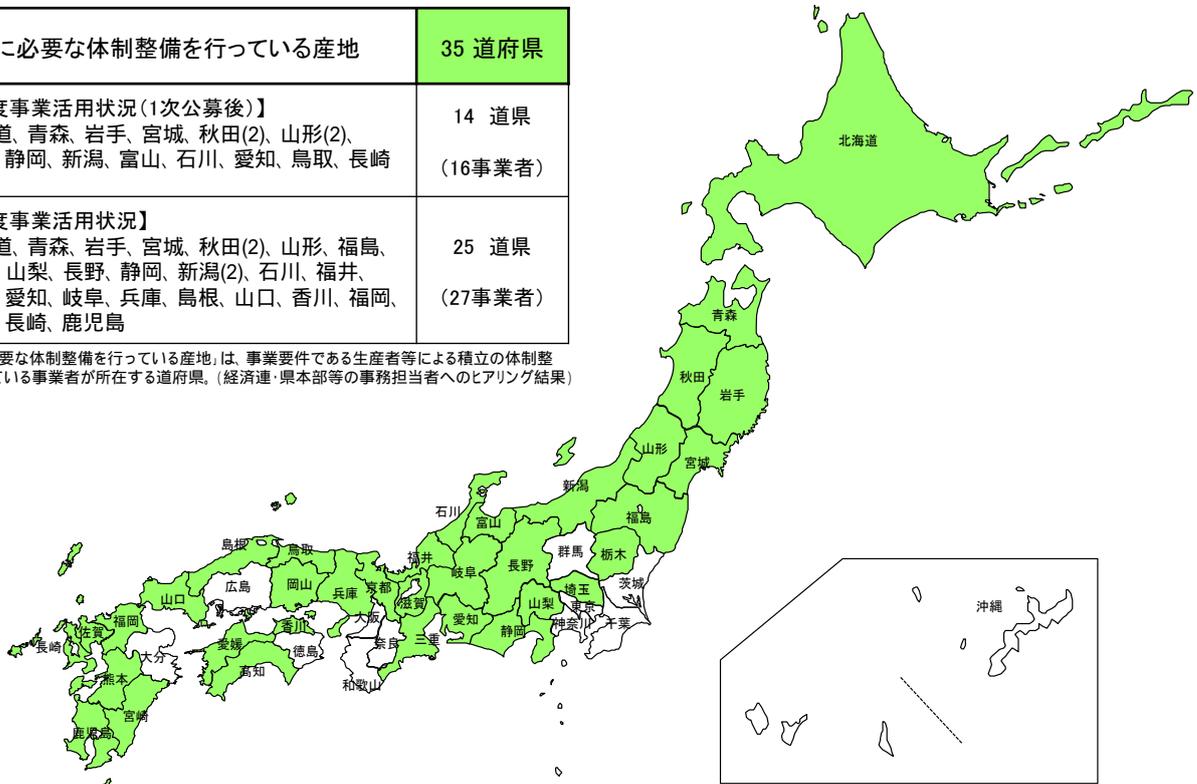
(※) 値引きや価格差補てんのための費用は支援の対象外。

③ 米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備状況

- 米穀周年供給・需要拡大支援事業の体制整備は、35道府県の38事業者において行われている状況。
- これまで、平成27年度17道県（18事業者）、平成28年度25道県（27事業者）、平成29年度25道県（27事業者）が事業を活用。
- 平成30年度は1次公募で14道県（16事業者）が事業を活用しており、出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続・推進。

事業に必要な体制整備を行っている産地	35 道府県
【30年度事業活用状況(1次公募後)】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田(2)、山形(2)、山梨、静岡、新潟、富山、石川、愛知、鳥取、長崎	14 道県 (16事業者)
【29年度事業活用状況】 北海道、青森、岩手、宮城、秋田(2)、山形、福島、栃木、山梨、長野、静岡、新潟(2)、石川、福井、富山、愛知、岐阜、兵庫、鳥根、山口、香川、福岡、佐賀、長崎、鹿児島	25 道県 (27事業者)

注) 「事業に必要な体制整備を行っている産地」は、事業要件である生産者等による積立の体制整備等を行っている事業者が所在する道府県。(経済連・県本部等の事務担当者へのヒアリング結果)



主な産地	これまでの主な取組概要
北海道	【長期計画的販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 海外向け北海道米PRパンフレットの作成配布 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ キャラクター(マツコ・デラックス)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「ゆめぴりか」のPR ・ 認知度向上に向けた情報収集、データ分析による販路拡大手法の検討
秋田	【長期計画的な販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ キャラクター(小芝 風花)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「あきたこまち」のPR ・ 食味分析データを用いた販売促進パンフレットの作成配布 ・ 外食事業者等が参加する各種商談会での試食等の実施
山形	【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 海外百貨店等での「つや姫」、「はえぬぎ」PRキャンペーンの開催 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ キャラクター(V6 長野 博)を用いた各種メディア及びイベントを活用した「はえぬぎ」のPR ・ 販路拡大に向けたコンサルティング活動
新潟	【長期計画的な販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ 各種メディアを活用した新潟県産米のPR ・ JRエキナカ店舗との連携による販売促進活動の実施 ・ インターネット調査による新潟県産米の認知度・消費者ニーズ等の把握
石川	【長期計画的販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 現地市場等調査による実需者ニーズの把握や石川県産米パンフレットの作成配布 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ 各種メディアを活用した石川県産米のPR ・ 毎月2日を「おにぎりの日」に制定し、これを起点にした試食イベント等の開催

(5) コメ海外市場拡大戦略プロジェクト（平成29年9月8日公表）

我が国のコメの消費量が毎年約8万トン減少していく中で、食料自給率・食料自給力の向上や米農家の所得向上を図っていくためには、海外市場に積極的に進出し、輸出を拡大していくことが喫緊の課題。

→ コメ・コメ加工品の輸出目標「600億円」の目標年次である平成31年に向け、コメの輸出量を飛躍的に拡大するため、戦略的に輸出に取り組む関係者を特定し、それらが連携した個別具体的な取組を強力に後押しする。

(1) 戦略的輸出事業者

平成31年に向けた飛躍的な輸出目標を掲げ、コメ輸出の戦略的な拡大に取り組む輸出事業者を「戦略的輸出事業者」として特定。



「戦略的輸出事業者」と連携して、輸出用米の安定的な生産に取り組む「戦略的輸出基地」づくりを推進

「戦略的輸出事業者」と連携したプロモーション等により、輸出先国における日本産米の需要を拡大

産地と事業者の結びつきの強化・拡大

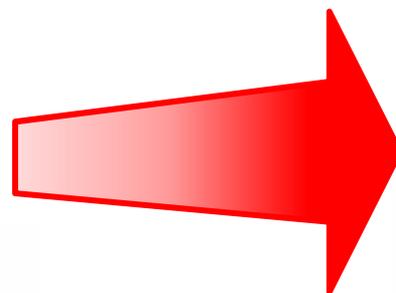
連携したプロモーション等の実施

(2) 戦略的輸出基地（産地）

輸出産地としての取組方針を掲げ、輸出用米の安定的な生産に取り組む産地（法人・団体）を「戦略的輸出基地」として特定。



コメ輸出の飛躍的拡大



目標：10万トン^(※)

(3) 戦略的輸出ターゲット国

「戦略的輸出事業者」が輸出を拡大する国を中心に、重点的にプロモーション等を行う「戦略的輸出ターゲット国」を特定。

→ 中国、香港、シンガポール、米国、EU等



(※) 米菓・日本酒等の原料米換算分を含む。

「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」の参加状況について

○ 本プロジェクトの参加状況

平成30年10月31日時点の戦略的輸出事業者及び戦略的輸出基地の参加状況は以下のとおりとなっています。

(ア)戦略的輸出事業者 63事業者（目標数量合計 13.5万トン※）

(イ)戦略的輸出基地

- (1) 団体・法人 235産地
- (2) 都道府県単位の集荷団体等 21団体
（(1)以外の産地も含めた取組を推進する都道府県単位の団体等）
- (3) 全国単位の集荷団体等 1団体
（(1)、(2)以外の産地も含めた取組を推進する全国単位の団体等）

(ウ)戦略的輸出ターゲット国

戦略的輸出事業者から提出された「重点的に輸出を拡大する国・地域」は以下のとおり。中国、台湾、香港、マカオ、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、モンゴル、米国、カナダ、EU、スイス、オーストラリア、ロシア、中東、インド

※輸出事業者の目標の積み上げにより、重複して計上される場合があります。

○ 今後の取組方針

海外市場における日本産米の需要をより一層喚起し、輸出拡大に繋げるため、平成29年度補正予算に盛り込まれた輸出促進予算等を活用して戦略的輸出事業者による海外市場開拓を強力に推進します。

また、海外需要に応じた輸出用米の生産拡大を進めるため、戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地の結びつけ・マッチングを進めるとともに、各県・地域が水田フル活用ビジョンの検討を進める中で、戦略的輸出事業者と戦略的輸出基地との間で輸出用米の具体的な生産数量や品種等の調整が進むよう、関係者が一体となって輸出用米生産の取組を推進します。

なお、引き続き、本プロジェクトに参加する輸出事業者及び産地の団体・法人を募集します。本プロジェクトへの参加を希望する輸出事業者及び産地の団体・法人は、下記URLの様式に必要事項を記載の上、以下の宛先に郵送、FAX又は電子メールにて提出してください。

「コメ輸出拡大プラン(輸出事業者用)」の提出先

100-8950
東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省政策統括官付
農産企画課企画班 近藤、兼井、三浦
E-mail:kome_yusyutu@maff.go.jp
TEL:03-6738-8964、FAX:03-6738-8976

「コメ輸出産地取組方針(産地の団体・法人用)」の提出先

〒100-8950
東京都千代田区霞が関1-2-1
農林水産省政策統括官付
穀物課 美保、山崎、平岡、安部
E-mail:kome_santi@maff.go.jp
TEL:03-6744-2108、FAX:03-6744-2523

農林水産省ホームページで「米の輸出について」のページを開設しました！「米の輸出について」のページには、本プロジェクトの情報やコメ輸出に関する様々な情報を掲載しています。

また同ページには、コメの輸出について分かりやすく説明した動画を公開しています。

「農林水産省ホームページ」トップページの「キーワード」にある「米の輸出」からご覧頂けます！

(農新水産省ホームページ「米の輸出について」URL)

http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_yusyutu/kome_yusyutu.html

VI 消費動向

(1) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（株）マクロミルのモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

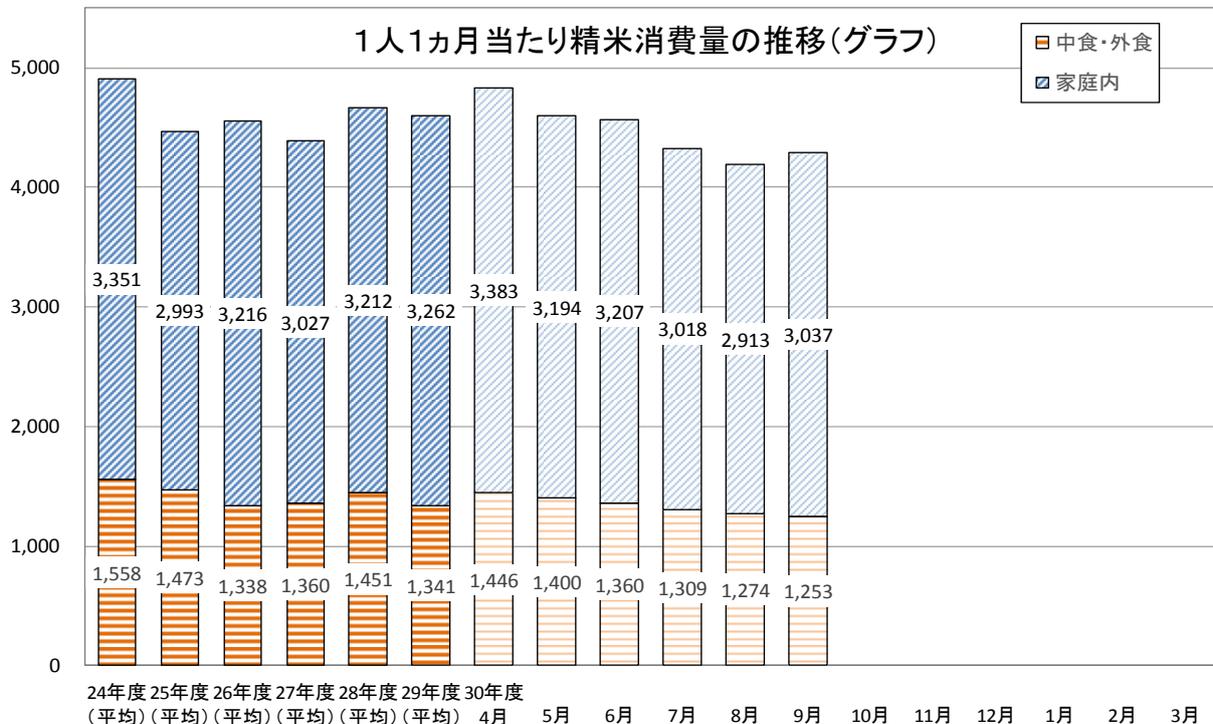
- 米穀機構が公表している「米の消費動向」（平成30年9月）によると、1人1ヵ月当たりの精米消費量は、対前年同月比▲3.9%。
- このうち、家庭内での消費量は対前年同月比▲3.7%、中・外食は▲4.4%。

1人1ヵ月当たり精米消費量の推移（表）

（精米g/人、%）

		精米消費量					内訳(比率)					前年同月比(比率)				
		合計	家庭内	中・外食	中食		合計	家庭内	中・外食	中食		合計	家庭内	中・外食	中食	
					中食	外食				中食	外食				中食	外食
24年度	-	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲4.4	▲3.1	▲6.1
25年度	-	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲9.0	▲10.7	▲5.5	▲6.0	▲4.7
26年度	-	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲9.2	▲10.4	▲7.5
27年度	-	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲3.7	▲5.9	1.6	4.6	▲2.2
28年度	-	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	-	4,603	3,262	1,341	777	564	100.0	70.9	29.1	16.9	12.3	▲1.3	1.6	▲7.6	▲8.8	▲5.8
30年度	4月	4,829	3,383	1,446	863	583	100.0	70.1	29.9	17.9	12.1	▲4.0	▲4.4	▲2.8	▲5.0	0.5
	5月	4,594	3,194	1,400	842	558	100.0	69.5	30.5	18.3	12.1	▲4.5	▲7.2	2.3	1.1	4.1
	6月	4,567	3,207	1,360	822	538	100.0	70.2	29.8	18.0	11.8	▲4.9	▲5.2	▲4.2	▲5.6	▲2.0
	7月	4,327	3,018	1,309	788	521	100.0	69.7	30.3	18.2	12.0	▲2.2	▲2.7	▲0.9	4.9	▲8.6
	8月	4,187	2,913	1,274	736	538	100.0	69.6	30.4	17.6	12.8	▲3.5	▲4.8	▲0.5	0.7	▲2.0
	9月	4,290	3,037	1,253	727	526	100.0	70.8	29.2	16.9	12.3	▲3.9	▲3.7	▲4.4	▲1.8	▲7.9

（精米g/人）



出典：米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注：1 平成30年9月分の有効調査世帯数は1,698世帯。

2 調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

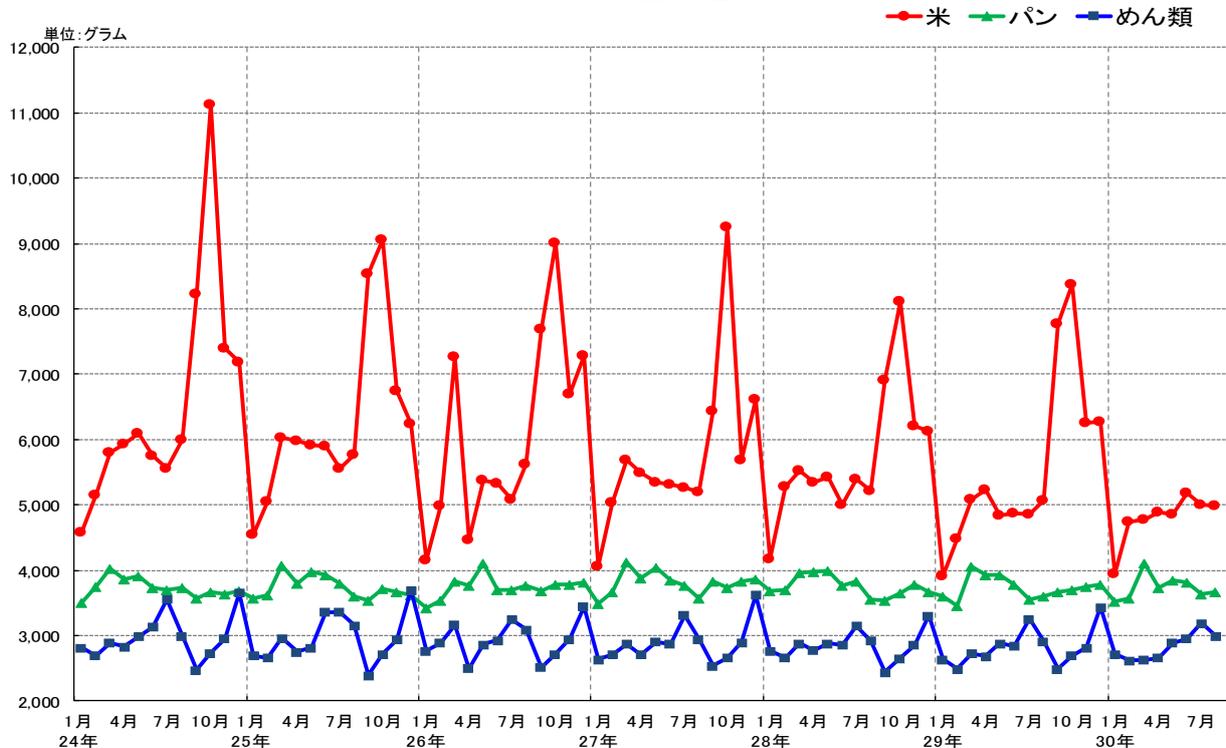
4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

(2) 購入数量の推移 (家計調査)

- 総務省が公表している家計調査によると、平成30年8月の米の購入数量は、対前年同月比▲1.8%の5.0kg、パンについては+1.5%の3.7kg、めん類については+2.6%の3.0kg。

1世帯当たり購入数量の推移(グラフ)



1世帯当たり購入数量の推移(表)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,010	97.5%	45,443	99.7%	37,000	101.1%
平成23年	80,580	97.1%	45,255	99.6%	36,931	99.8%
平成24年	78,780	97.8%	44,808	99.0%	35,819	97.0%
平成25年	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
平成26年	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
平成27年	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
平成28年	68,740	98.9%	45,099	98.7%	34,192	98.4%
平成29年	67,070	97.6%	44,829	99.4%	33,878	99.1%
平成30年1月	3,940	100.5%	3,516	97.5%	2,721	103.2%
2月	4,750	106.0%	3,574	103.4%	2,625	105.2%
3月	4,780	93.9%	4,107	101.3%	2,634	96.7%
4月	4,890	93.5%	3,740	95.2%	2,663	99.2%
5月	4,860	100.4%	3,850	98.1%	2,893	100.4%
6月	5,180	106.1%	3,820	100.8%	2,958	103.9%
7月	5,000	102.9%	3,642	102.6%	3,192	98.1%
8月	4,980	98.2%	3,663	101.5%	2,995	102.6%

資料： 総務省「家計調査」

注：1 二人以上の世帯の数値である。

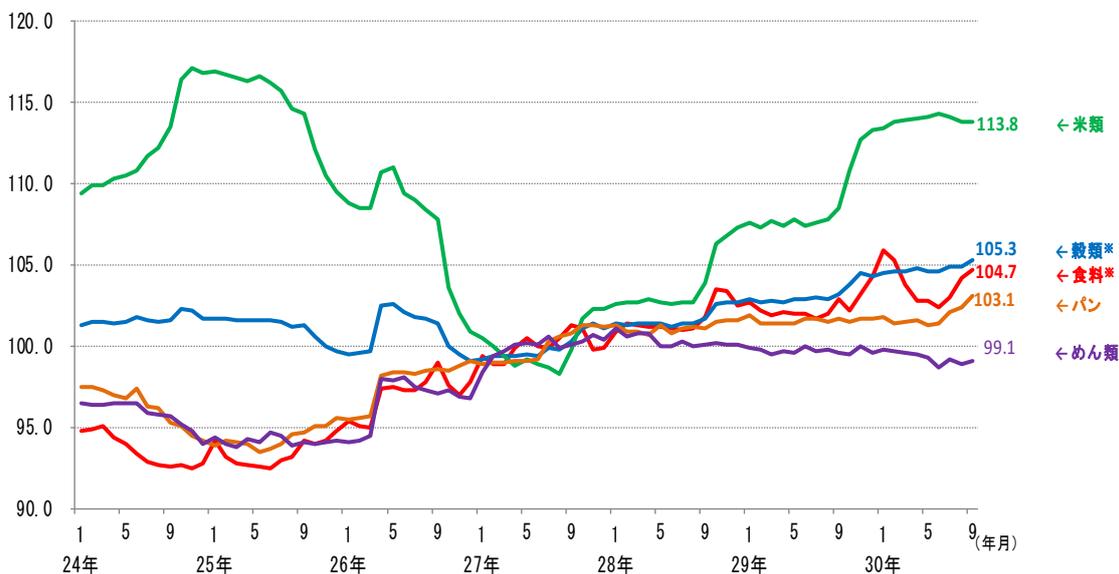
2 平成21年から平成29年については、年間の購入数量を示す。

3 米は精米ベースである。

(3) 消費者物価指数（27年基準）の推移

- 総務省が公表している消費者物価指数によると、平成30年9月の米類の指数は、対前月比▲0.1の113.8ポイント。
- なお、対前年同月比+4.8ポイント。

消費者物価指数の推移



注：1 図中の実線は、平成27年の平均価格を100とした数値となる。
2 図中の食料とは穀類、魚介類、肉類等を、穀類とは米類、パン、めん類、他の穀類をいう。

消費者物価指数の推移（対前年同月比）

(平成27年=100、指数)

	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
	対前年 (同月)比											
平成21年	94.1	0.2%	103.7	0.8%	111.1	0.4%	111.6	0.2%	100.1	0.3%	98.8	1.7%
平成22年	93.9	▲0.3%	100.4	▲3.2%	107.2	▲3.5%	107.7	▲3.5%	96.2	▲3.9%	97.0	▲1.9%
平成23年	93.5	▲0.4%	98.8	▲1.6%	103.0	▲4.0%	103.4	▲4.0%	96.4	0.2%	96.2	▲0.8%
平成24年	93.6	0.1%	101.7	3.0%	112.4	9.2%	113.3	9.6%	96.3	▲0.1%	95.8	▲0.4%
平成25年	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%
平成26年	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%
平成27年	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%
平成28年	101.7	1.7%	101.7	1.7%	103.8	3.8%	104.0	4.0%	101.2	1.2%	100.3	0.3%
平成29年	102.4	0.7%	103.2	1.5%	108.8	4.8%	109.2	5.1%	101.6	0.4%	99.7	▲0.6%
平成30年1月	105.9	3.2%	104.5	1.6%	113.4	5.4%	114.1	5.7%	101.8	0.0%	99.8	▲0.2%
2月	105.3	3.0%	104.6	1.8%	113.8	6.1%	114.5	6.4%	101.4	0.0%	99.7	▲0.1%
3月	103.8	1.9%	104.6	1.8%	113.9	5.7%	114.6	6.0%	101.5	0.0%	99.6	0.0%
4月	102.8	0.7%	104.8	2.0%	114.0	6.1%	114.6	6.4%	101.6	0.3%	99.5	▲0.2%
5月	102.8	0.8%	104.6	1.7%	114.1	5.8%	114.7	6.1%	101.3	▲0.1%	99.3	▲0.3%
6月	102.4	0.4%	104.6	1.6%	114.3	6.4%	114.9	6.7%	101.4	▲0.3%	98.7	▲1.3%
7月	103.0	1.4%	104.9	1.9%	114.1	6.0%	114.7	6.3%	102.1	0.4%	99.2	▲0.6%
8月	104.2	2.1%	104.9	1.9%	113.8	5.6%	114.5	5.9%	102.4	0.8%	98.9	▲0.9%
9月	104.7	1.8%	105.3	2.0%	113.8	4.8%	114.5	5.1%	103.1	1.5%	99.1	▲0.6%

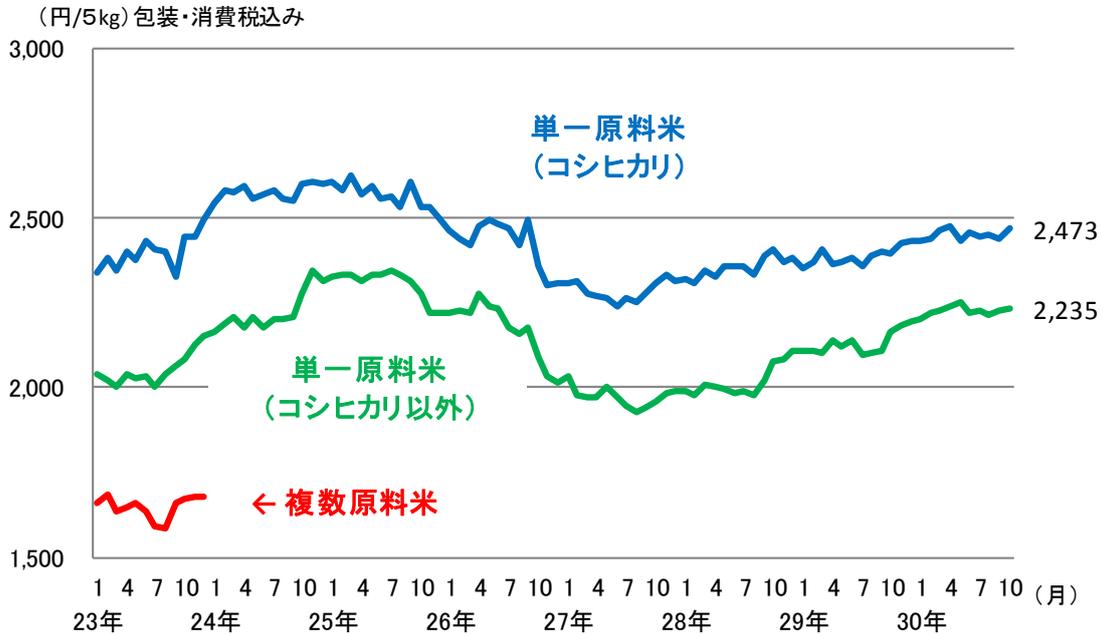
資料：総務省「消費者物価指数」（平成27年基準）

- 注：1 表中の数値は、平成27年の平均価格を100として指数化したものである。
2 食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。
3 穀類は、米類（うるち米、もち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。
4 平成21年から平成29年のデータは年平均、平成30年1月以降は月次データを用いている。

(4) 小売物価統計の推移

- 総務省が公表している小売物価統計によると、平成30年10月のうるち米の小売価格（5kg当たり）は、単一原料米（コシヒカリ）で、対前年同月比+3.3%の2,473円。
- 単一原料米（コシヒカリ以外）は、対前年同月比+3.1%の2,235円。

小売物価統計の推移（グラフ）



小売物価統計の推移（表）

(単位:円/5kg)

	うるち米				
	単一原料米 (コシヒカリ)	対前年 (同月)比	単一原料米 (コシヒカリ以外)	対前年 (同月)比	複数原料米
平成20年	2,610	▲2.2%	2,270	▲0.8%	1,832
平成21年	2,531	▲3.0%	2,201	▲3.0%	1,812
平成22年	2,462	▲2.7%	2,136	▲3.0%	1,739
平成23年	2,399	▲2.5%	2,053	▲3.9%	1,649
平成24年	2,577	7.4%	2,223	8.3%	-
平成25年	2,567	▲0.4%	2,307	3.8%	-
平成26年	2,428	▲5.4%	2,173	▲5.8%	-
平成27年	2,285	▲5.9%	1,973	▲9.2%	-
平成28年	2,355	3.1%	2,019	2.3%	-
平成29年	2,388	1.4%	2,132	5.6%	-
平成30年1月	2,433	3.3%	2,204	4.4%	-
2月	2,438	2.9%	2,222	5.2%	-
3月	2,466	2.5%	2,229	6.1%	-
4月	2,474	4.7%	2,240	4.8%	-
5月	2,431	2.5%	2,254	6.1%	-
6月	2,460	3.1%	2,221	3.6%	-
7月	2,444	3.6%	2,229	6.2%	-
8月	2,453	2.6%	2,217	5.5%	-
9月	2,437	1.4%	2,230	5.8%	-
10月	2,473	3.3%	2,235	3.1%	-

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

2：特売を除いた価格である。

3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

(5) 米販売事業者における販売数量及び販売価格の動向

- 平成30年6月から9月までの累計販売数量(対前年比)は、小売事業者向け101%、中食・外食事業者等向け98%。
- 平成30年6月を基準にした9月の販売価格の値動きは、小売事業者向け99.7、中食・外食事業者等向け99.6。
- 前年同月を基準にした9月の販売価格の値動きは、小売事業者向け105.3、中食・外食事業者等向け107.4。

1 販売数量の動向(対前年比)

	30年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	6月~9月 累計
小売事業者向け	102%	102%	100%	101%			101%
中食・外食事業者等向け	97%	98%	99%	98%			98%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トンの以上の販売事業者である。

2 販売価格の動向(30年6月を基準にした値動き)

小売事業者向け



中食・外食事業者等向け



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

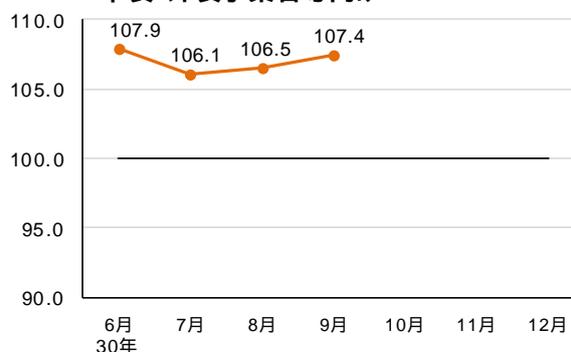
注：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トンの以上の販売事業者である。

3 販売価格の動向(前年同月の価格を基準にした値動き)

小売事業者向け



中食・外食事業者等向け



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

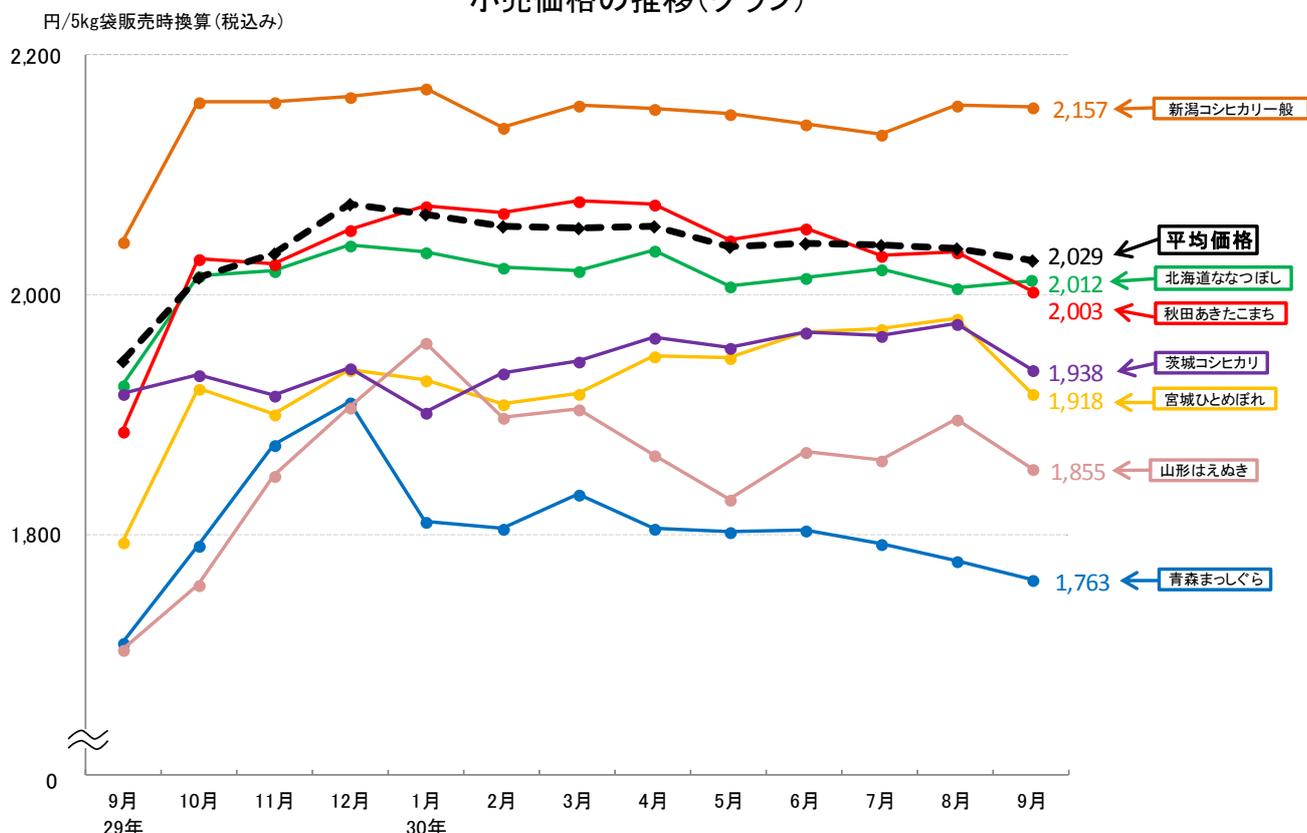
注：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トンの以上の販売事業者である。

上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。

(6) 小売価格の推移 (POSデータ)

平成30年9月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、対前月比▲10円(▲0.5%)、対前年同月比+84円(+4.3%)の2,029円。

小売価格の推移(グラフ)



小売価格の推移(表)

単位: 円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄							全POS取引 平均価格
	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	
29年9月	1,925	1,710	1,794	1,886	1,705	1,918	2,045	1,945
10月	2,017	1,791	1,923	2,031	1,758	1,934	2,161	2,015
11月	2,021	1,875	1,900	2,026	1,850	1,917	2,161	2,034
12月	2,042	1,911	1,938	2,055	1,907	1,939	2,165	2,076
30年1月	2,037	1,811	1,929	2,074	1,961	1,902	2,172	2,067
2月	2,023	1,806	1,910	2,069	1,899	1,935	2,140	2,058
3月	2,021	1,834	1,919	2,079	1,905	1,944	2,159	2,056
4月	2,037	1,805	1,950	2,076	1,867	1,965	2,156	2,057
5月	2,008	1,802	1,948	2,046	1,830	1,956	2,151	2,040
6月	2,014	1,804	1,969	2,056	1,869	1,970	2,143	2,043
7月	2,022	1,792	1,973	2,034	1,863	1,967	2,134	2,041
8月	2,006	1,778	1,980	2,036	1,896	1,977	2,158	2,039
9月	2,012	1,763	1,918	2,003	1,855	1,938	2,157	2,029
対前月比	0.3%	▲0.8%	▲3.1%	▲1.6%	▲2.2%	▲2.0%	▲0.0%	▲0.5%
対前年同月比	4.5%	3.1%	6.9%	6.2%	8.8%	1.0%	5.5%	4.3%

資料: (株) KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注: 1 (株) KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,046店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

5 価格に含む消費税は8%である。

Ⅶ MA米（一般・SBS）の動向

（１） MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	米 国	タ イ	中 国	オースト ラリア	その他	合 計		
							うち一般輸入	うちSBS輸入※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	-	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	-	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	-	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度	365	264	56	74	8	767	655	100
平成30年度 (10月末現在)	77	122	41	0	0	240	232	7

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」

※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注：1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

(2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成30年度)

(単位：実トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成30年4～6月分	28,998	平成30年4～7月分	2,745
4月分	561	平成30年8～11月分	2,951
5月分	1,361	平成30年12～平成31年3月分	
6月分	699		
7～9月分	27,412		
7月分	107		
8月分	339		
9月分	684		
10～12月分			
10月分			
11月分			
12月分			
平成31年1～3月分			
1月分			
2月分			
3月分			
小計	60,161	小計	5,696
合計	65,857		

資料：農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

(3) SBS輸入米の見積合わせ結果(平成30年度)

(単位：実トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 (平成30年9月26日)	一般米	1,540	200	204						1,944
	砕精米	516	140	500						1,156
第2回 (平成30年10月26日)	一般米	2,310	212	514				237		3,273
	砕精米	700	200			200				1,100
合計	一般米	3,850	412	718	0	0	0	237	0	5,217
	砕精米	1,216	340	500	0	200	0	0	0	2,256

平成25年度計 (参考)	一般米	14,686	4,396	3,346	144	174	0	17,993	0	40,739
	砕精米	576	388	7,375	308	540	0	10,913	0	20,100
平成26年度計 (参考)	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	1,326	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	100	0	4,316
平成27年度計 (参考)	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	2,244	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	150	0	16,452
平成28年度計 (参考)	一般米	27,318	3,600	3,487	108	2,156	0	8,097	0	44,766
	砕精米	24,820	700	2,300	388	240	0	100	0	28,548
平成29年度計 (参考)	一般米	45,841	2,976	3,506	90	1,580	0	29,870	0	83,863
	砕精米	8,966	1,000	2,012	360	660	0	3,139	0	16,137

資料：農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成25～30年度

VIII その他

(1) 水稲うるち玄米の農産物検査結果

- 平成30年産水稲うるち玄米の平成30年9月30日現在の検査数量は、145万トン。
- 1等米比率は、78.9%。

① 検査数量の推移（累計）

単位：千トン

年産別	当年						翌年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月
25	23	265	1,869	3,806	4,248	4,433	4,537	4,661	4,793	5,206
26	12	229	1,789	3,785	4,276	4,470	4,595	4,720	4,880	5,275
27	11	220	1,537	3,506	3,964	4,149	4,252	4,385	4,518	4,869
28	18	231	1,656	3,564	4,036	4,212	4,319	4,451	4,585	4,929
29	13	244	1,463	3,268	3,851	4,062	4,163	4,279	4,409	
参考:前年比	72%	105%	88%	92%	95%	96%	96%	96%	96%	
30	21	297	1,446							
参考:前年比	159%	122%	99%							

注：1 各月末時点の検査数量である。

2 生産年の7月から翌年3月までは速報値、翌年10月は確定値である。

② 検査数量及び等級比率（年産別）

単位：トン、%

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,647	3,013,076	1,570,194	157,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,041,489	3,953,978	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25	5,205,717	4,112,147	905,886	98,289	91,415	79.0	17.4	1.8	1.8
26	5,274,634	4,291,267	806,063	70,348	106,956	81.4	15.3	1.3	2.0
27	4,868,582	4,016,682	687,771	82,654	81,475	82.5	14.1	1.7	1.7
28	4,928,745	4,110,565	668,746	67,438	81,995	83.4	13.6	1.4	1.7
29(注3)	4,409,356	3,624,033	646,182	69,727	69,414	82.2	14.7	1.6	1.6
30(注4)	1,445,508	1,140,260	269,594	29,317	6,336	78.9	18.7	2.0	0.4

資料：農林水産省とりまとめ

注：1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 28年産米までは、生産年の翌年10月31日現在（確定値）。

3 29年産米については、平成30年3月31日現在（速報値）。

4 30年産米については、平成30年9月30日現在（速報値）。

これまで、本資料に掲載していた以下の情報については、別冊「資料編」に掲載いたしました。

(別冊)「資料編」の目次

I 契約・在庫情報	
(1) 平成28・29年産の産地別民間在庫の推移 (うるち米、平成29年7月末から30年6月末) (速報)	1
(2) 産地別事前契約数量 (累計、うるち米、平成26～29年産)	9
(3) 平成28・29年産米の産地別契約・販売状況 (累計、うるち米)	11
II 米の価格情報	
(1) 米の相対取引価格の推移 (通年平均価格)	25
(2) 業者間取引の状況	28
① 日本コメ市場 (随時取引の結果)	
② 日本コメ市場・クリスタルライス (取引会の結果)	
③ (株)加工用米取引センターの取引結果	
④ 米の現物市場の状況	
III 主食用米以外 (輸出を含む)	
(1) 加工用米及び新規需要米等の生産状況	31
① 加工用米の生産量 (平成17～30年産)	
② 新規需要米の用途別作付・生産状況の推移 (平成20～30年産)	
③ 平成30年産 都道府県別の生産状況	
(2) 飼料用米のマッチングの取組状況、	33
配合飼料メーカーへの飼料用の供給等	
(3) 政府備蓄米の運営	34
備蓄米の買入入札の結果 (落札実績) (平成23～30年産)	
(4) 商業用の米の輸出量及び金額の推移	35
(5) 2017年の主な増加要因 (輸出業者等からのヒアリング結果による)	36
(6) 米菓の輸出量及び金額の推移	37
(7) 日本酒 (清酒) の輸出量及び金額の推移	38
IV 消費動向	
(1) 米の消費動向 (米穀機構による調査)	39
(2) 小売価格の推移 (POSデータ、主な銘柄)	42
V その他	
(1) 米取引関係者の判断 (米穀機構による調査、平成30年10月分)	43
(2) 平成29年産水陸稲の収穫量	48
(3) 水稻作付面積及び収穫量等の年次別推移 (全国)	51
(4) 水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、	51
10a 当たり収量及び収穫量 (子実用) の年次別推移 (全国)	
(5) 年産・都道府県別主食用米の作付面積及び収穫量等の推移	54
(6) 麦・大豆の需要情報	56
① 31年産麦の産地別銘柄別入札結果	
② 29年産大豆の産地別銘柄別入札結果	
(7) 野菜等の需給情報	62
(8) 米の安定取引研究会報告書の概要	66

「米に関するマンスリーレポート」を更にご活用いただくため、読み解き方などを解説した特集ページ「米に関するマンスリーレポート解説特集「ここが分からない！マンレポ」」を開設しました！

http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/manrepo_kaisetu.html

米に関する各種情報は「米に関するメールマガジン」でも毎月発信中！ご登録お待ちしております！

<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>

「お米の輸出動画」 配信中！

お米の新しい市場を開拓！ 「日本のお米の輸出」について

お米の輸出の可能性や農水省の輸出促進の取組について解説した動画を配信中！

「どうして今、お米を輸出するの？」「今、生産者や事業者の人はどんなことに取り組んでいるの？」という疑問にお答えします！



Youtube・農林水産省ホームページで公開中です！
(詳しくは裏面をご覧ください)

以下のQRコードからもご覧頂けます

1分ダイジェスト版はこちら→



<https://youtu.be/B1VsP2ER4OM>

本編(14分)はこちら→



https://youtu.be/zV8dkRH_6T0

本動画は、お米の輸出の概況や輸出拡大に向けた国の取組について解説します。

また、生産者や事業者の方に、海外向けのお米の生産・販売における具体的な取組内容をご紹介します！

本編の内容について1分程度でまとめたダイジェスト版も公開しておりますので、ぜひご覧下さい！

Youtubeから見る

Youtubeの検索バナーで「お米の輸出」と検索！

お米の輸出

×



(URLはこちら)

本編：https://www.youtube.com/watch?v=zV8dkRH_6T0

ダイジェスト版：<https://www.youtube.com/watch?v=B1VsP2ER4OM>

農林水産省HPから見る

トップページの「キーワード」にある「米の輸出」をクリック！

(ホーム > 政策統括官 > 米(稲)・麦・大豆 > 米の輸出について)

The screenshot shows the homepage of the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF). At the top, there are navigation links for English, Kids Site, Site Map, and Text Size. Below that are menu items for Meetings, News, Policy Information, Statistics, Applications, and About MAFF. A search bar is present with the text 'キーワードから探す' (Search by keyword). Underneath, there's a '注目情報' (Featured Information) section with several news items. A callout box points to the 'キーワード' (Keywords) section, which lists various topics. The keyword '米の輸出' (Rice Export) is circled in red, and a red dashed arrow points from the callout box to it.

キーワードの「米の輸出」をクリックすると「米の輸出について」のページに移動します！

URL：<http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/>

[soukatu/kome_yusyutu/kome_yusyutu.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_yusyutu/kome_yusyutu.html)

お問合せ先：農林水産省政策統括官付農産企画課
(TEL：03-6738-8964)

業務用途への安定取引に向けた

米マッチングフェア

2018

中食・外食事業者等の皆様へ
まずは事前登録を!

来場無料

産地
大規模生産法人、
農協等



実需者
中食・外食
事業者等

[開催時期] 平成30年7月～平成31年2月

[開催場所] 東京(2回)・大阪(2回)
全国2か所



中食・外食事業者等の皆様へ

求めているお米が手に入る

家庭内での米の消費が減る一方で、中食・外食等における米の需要は伸びており、このような業務用途の米は、今後も堅調な需要が見込まれます。

平成30年産米から行政による生産数量目標の配分がなくなる中で、今後一層、米産地の法人や農協等がユーザーである中食・外食事業者等と結びつき、当該事業者のニーズに応じた生産を行い、複数年契約や播種前契約を締結するなど安定した取引につなげていくことが重要です。

このような取引の拡大に向けて、業務用途への安定取引に取り組みたい米産地と中食・外食事業者等とのマッチングを行う「米マッチングフェア2018」を東京と大阪で開催します。

皆様、ぜひこのマッチングイベントに参加し、安定した米の販路を開拓しませんか？

主催 ● 全国農業再生推進機構・株式会社グレイン・エス・ピー
全国農業再生推進機構：(一財)全国豆腐連合会/(一社)全国農業会議所/(一社)日本惣菜協会/(一社)日本弁当サービス協会/協同組合日本飼料工業会/(公社)日本炊飯協会/(公社)日本べんとう振興協会/(公社)米穀安定供給確保支援機構/国産米使用推進団体協議会/全国稲作経営者会議/全国加工米需要者団体協議会/全国主食集荷協同組合連合会/全国農業協同組合中央会/全国農業協同組合連合会/全国米穀工業協同組合/日本米粉協会/日本豆腐協会/日本米穀小売商業組合連合会
後援 ● 農林水産省/(公社)日本農業法人協会/(一社)日本冷凍食品協会/(一社)全国包装米販協会(県不同)
※本イベントは、農林水産省補助事業(平成30年度米穀周年供給・需要拡大支援事業のうち業務用米等の安定取引拡大支援事業)の下で全国農業再生推進機構(株)グレイン・エス・ピーが行います。

お問い合わせ

米マッチングフェア2018事務局
株式会社グレイン・エス・ピー：末田、小林

〒113-0034 東京都文京区湯島2-12-5 湯島ビルD3F
Tel: 03-3816-0672 Fax: 03-3816-0708
E-mail: kome-matching@grainsp.co.jp



米マッチングフェア 2018

展示商談会・セミナー

のご案内

展示商談会・セミナーに参加希望の方は
事前登録をしてください

展示商談会・セミナー + 現地交流会

各3日間

【開催スケジュール】

大阪会場 平成30年7月4日(水)・5日(木)・6日(金)

リーガロイヤルNCB (大阪府大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル内)

東京会場 平成30年8月8日(水)・9日(木)・10日(金)

ホテルグランドパレス (東京都千代田区飯田橋1-1-1)

大阪会場 平成31年1月16日(水)・17日(木)・18日(金)

リーガロイヤルNCB (大阪府大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル内)

東京会場 平成31年2月6日(水)・7日(木)・8日(金)

ホテルグランドパレス (東京都千代田区飯田橋1-1-1)

1日目・2日目

セミナー 10:30 ~ 12:30

展示商談会 1日目 13:00 ~ 17:00

2日目 10:00 ~ 16:00

[各会場とも]

受付 10:00



セミナーイメージ

展示商談会の内容

商談コーナー (個別商談のコーナーを用意)
出展紹介コーナー (出展者ご自慢のお米紹介、試食等)

業務用途米情報コーナー

注目されている各品種の紹介

セミナー

安定契約の成功事例、実需者に求められる米とは等、
豊富な経験を持つ方々の講演を予定

試食コーナー

注目品種を使ったごはん料理を紹介

3日目

現地交流会 (1日目・2日目の開催地からバスで現地へ移動します)

現地交流会

現地の圃場、ライスセンター等を見学し、現地の生産者や農協関係者等との
意見交換を行い取引の商談を深めていきます。



現地交流会イメージ

展示商談会に来場される方へ

産地と実需者による事前契約、複数年契約の締結等、長期的な取引を目的に開催する展示商談会です。

実需者と流通業者によるベア参加、流通業者の代理参加も可能です。

本主旨をご理解いただける方々のご来場をお待ちしております。

ご不明な点は、事務局までお問い合わせください。なお、ホームページにて随時、最新情報をアップしますので、そちらもご覧ください。

第2回

飼料用米活用畜産物ブランド

日本一コンテストを開催!!



お米で育った畜産物



募集中!

平成30年8月1日
~11月15日

飼料用米を活用した畜産物のブランド化による販売力向上等の取組を実践している畜産事業者を表彰し、広く紹介するため「飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト」を開催します。

応募について

- 飼料用米を活用した畜産物をブランド化し販売している畜産事業者
- 飼料用米の給餌割合が一定以上であること等
(詳しくはホームページ掲載の応募用紙を参照して下さい)

開催スケジュール

- 応募期間 平成30年8月1日~11月15日
- 審査委員会 平成31年2月中旬予定
- 表彰式 平成31年3月15日 (東京都内)

褒賞

- 農林水産大臣賞
- 政策統括官賞
- 全国農業協同組合中央会会長賞
- 公益社団法人中央畜産会会長賞



昨年の表彰式

応募先及び
お問い合わせ先

主催：一般社団法人日本養豚協会 (担当：山梨・小磯)
住所：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-27-15 高栄ビル2階
連絡先：TEL 03 (3370) 5473 FAX 03 (3370) 7937
メール：yamanashi@pig-pins.com (問い合わせ先等)
後援：農林水産省・全国農業協同組合中央会・公益社団法人中央畜産会
HP：飼料用米活用畜産物ブランド日本一コンテスト
<http://okome-sodachi.jp/index.html>

